

令和 7 年度

中期目標・中期計画の進捗に係る

自己点検・評価報告書

令和 7 年 6 月

福井大学

全学内部質保証委員会

目 次

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価について	1
2. 法人評価対応部会 部会員一覧	6
3. 自己点検・評価結果	7
4. 自己点検・評価結果（中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート）	11
別表：評価指標一覧とその達成状況	49

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価について

【実施に当たり】

「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」は、福井大学内部質保証規程（令和3年1月27日 福大規程第1号）第8条の規定に基づき、福井大学全学自己点検・評価実施要項（令和3年3月22日 学長裁定）により実施するものである。

第4期中期目標期間における4年目終了時及び中期目標期間終了時評価に係る業務実績評価（達成状況評価も含む）では、主に、①中期計画に係る評価指標の達成状況、②優れた実績・成果によって評価される。特に、十分高い評価を得るには、全ての評価指標についてその達成が必須であり、さらに予め設定したそれぞれの目標値を大きく超えることが求められる。そこで、高い評価に繋がる中期目標・中期計画の達成並びに優れた実績・成果の創出の一助となるよう、本自己点検・評価では、主に評価指標の達成状況並びに優れた実績・成果に着目し、毎年度、以下の視点から中期目標・中期計画の進捗を検証する。

- 1) 設定された評価指標が目標値を達成しているか。達成していない場合、達成に向けた適切な改善対応が図られているか。
- 2) 評価実施前年度に策定された改善に向けた取組みがある場合、それが実施され、当該評価指標が目標値を達成できたか。
- 3) 中期計画の達成に資する取組等が実施され、さらに、優れた点・特色ある点が創出されているか。

特に、前年度に目標値を達成していない評価指標が当該年度の目標値を達成できているか、または達成が十分見込まれるかを確認すると共に、優れた点・特色ある点、またはそれに繋がる取組については、中期計画の評定を引き上げるために必要であることから、検証実施に際して積極的に抽出することとする。

全学的な内部質保証の一環として実施する「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」において、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価として、IR室（経営戦略課）で収集しているファクトブックのデータを分析し、大学の現状も含む教育研究活動等を、毎年度、自己点検・評価している。分析するデータには、中期目標・中期計画の進捗を示す定量的な評価指標に相当する「特徴データ」が含まれ、これら評価指標の達成状況の検証は本自己点検・評価で実施することとしている。

本自己点検・評価では、全学を挙げて中期目標・中期計画の達成を推進するため、その進捗状況を全学的に情報共有するよう、各中期計画の担当部局による自己点検・評価結果を全学的な視点から評価し、それら結果に基づき、改善・向上を含め達成に向けた方策等を策定・実施することとしている。このように、本自己点検・評価は点検・評価・改善のプロセスを形成しており、全学内部質保証の一環として機能する。そこで、本自己点検・評価は、「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」として、全学自己点検・評価の一環として位置付けている。

【実施手順等】

本自己点検・評価は、基本的に、「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の実施ガイドライン」に沿って、以下のように実施している。

(1) 実施体制

内部質保証実施小委員会の下に「法人評価対応部会（以下、「部会」という。）」を設置し、部会は本自己点検・評価を毎年度実施する。

(2) 自己点検・評価の対象

本自己点検・評価では、評価実施前年度の実績を対象とする。

(3) 実施方法

- ①本自己点検・評価は、「中期目標・中期計画進捗管理システム（以下、「進捗管理システム」という）」を利用して実施する。その際、以下の視点から、進捗状況を点検・評価する。
 - 1) 設定された評価指標が目標値を達成しているか。達成していない場合、達成に向けた適切な改善対応が図られているか。
 - 2) 評価実施前年度に策定された改善に向けた取組みがある場合、それが実施され、当該評価指標が目標値を達成できたか。
 - 3) 中期計画の達成に資する取組等が実施され、さらに、優れた点・特色ある点が創出されているか。
- ②担当部局は、進捗管理システムに評価実施前年度の実績（評価指標の実績値、中期計画の実施状況、優れた点・特色ある点など）及び自己評価の結果等を評価実施年度5月中旬までに入力する。なお、担当部局による自己評価は以下の評点及び評語により実施する。

《担当部局による自己評価における評点及び評語》

（個々の評価指標）

- 1) 中期計画に設定された評価指標の達成状況
 1. 評価指標が目標値（目標）を達成している
 2. 評価指標が目標値（目標）を達成していない
- 2) 評価指標が未達成の場合の改善方策「目標達成に向けた取組等」の策定状況
 1. 改善方策等を策定している
 2. 改善方策等を策定していない
 3. 該当なし（達成済み）
- 3) 前年度未達成の評価指標の改善状況
 1. 評価指標が改善（達成）されている
 2. 評価指標が改善（達成）されていない
 3. 該当なし（達成済み）

(中期計画全体)

4) 中期計画の達成度

- Ⅳ：当年度の計画を上回って実施している
- Ⅲ：当年度の計画を十分に実施している
- Ⅱ：当年度の計画を十分には実施していない
- Ⅰ：当年度の計画を実施していない

③経営戦略課は、進捗管理システムの入力に基づき、中期計画ごとの「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート」(以下、「自己点検・評価シート」という。)を作成し、部会に5月下旬までに提出する。

④部会は、以下の3名ずつのグループA～Dに分かれて、自己点検・評価シートに判定及びコメントを記入する形(Google ワークスペースにより共同編集)で、2段階の評価を実施する。

第1段階評価

グループ	担当範囲	備考
A	教育(国際を除く)	中期目標(2)～(6)
B	社会との共創、研究、その他	中期目標(1)、(8)、(9)、(10)
C	教育(国際)、業務運営	中期目標(7)、(11)～(15)

参考：各グループの担当数

グループ	中期目標数	中期計画数	評価指標数
A	5	1 2	2 6
B	4	1 3	2 4
C	6	1 2	2 1

第2段階評価

グループ	担当範囲	備考
D	第1段階評価結果の取り纏め	中期目標全体

部会では、各グループ3名の部会員が提出された自己点検・評価シート(担当分)の内容を確認し、6月上旬までに評価指標・中期計画ごとに評点を付すとともに、必要に応じて、進捗の検証結果に基づき、「部局に具体の検討や対応を依頼するもの」「評価結果、評価者による所感、今後の取組の参考としてのコメントなど」を付記した。なお、法人評価対応部会による評価は、以下の評点及び評語により行う。

《部会による評価における評点及び評語》

(個々の評価指標)

- 1) 中期計画に設定された評価指標の達成状況
 1. 評価指標が目標値を達成している
 2. 評価指標が目標値を達成していない
- 2) 評価指標が未達成の場合の改善方策「目標達成に向けた取組等」の策定状況
 1. 改善方策等が策定されている
 2. 改善方策等が策定されているが、十分ではない
 3. 改善方策等が策定されていない
 4. 該当なし（達成済み）
- 3) 前年度未達成の評価指標の改善状況
 1. 評価指標が改善（達成）されている
 2. 評価指標が改善（達成）されていない
 3. 該当なし（達成済み）

(中期計画全体)

- 4) 中期計画の達成度
 - Ⅳ：当年度の計画を上回って実施している
 - Ⅲ：当年度の計画を十分に実施している
 - Ⅱ：当年度の計画を十分には実施していない
 - Ⅰ：当年度の計画を実施していない
- 5) 優れた実績・成果が認められる取組等の有無
 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある
 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある
 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない

(4) 自己点検・評価結果等の決定

- ①部会は、上記の自己点検・評価シートを取り纏め、「〇〇年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価報告書（以下「報告書」という。）」を作成・確認し、全学内部質保証委員会に提出する。
- ②全学内部質保証委員会は、報告書に基づき自己点検・評価結果を審議する。その際、当該委員会は、必要に応じて、其々の評価指標・中期計画にコメントすることができる。
- ③学長は、上記②の自己点検・評価結果等を必要な法定会議の議を経て決定する。なお、全学内部質保証委員会が重大な課題や改善事項等がないと判断し学長が認めた場合は、必要な法定会議へは報告することに代える。

【改善に向けた取組】

- ①学長は、決定した今後の改善・向上に資する事項を含め、関係部局等に報告書を送付するとともに必要な措置を関係部局等に指示し、もって自律的な改善・向上を図る。

- ②関係部局等は、報告書に基づき、必要に応じて、評価実施年度（中期目標期間の最終年度を除く）の目標値、改善対応「目標達成に向けた取組等」を適宜修正する。上記に沿って対応措置を実施し、対応を含めた進捗状況を評価実施翌年度の5月中旬までに進捗管理システムに入力（上記(2)-②）することにより改善状況を全学内部質保証委員会へ報告する。
- ③部会は、当該年度自己点検・評価の実施に併せて報告された進捗・改善状況を確認・評価する。

【評価結果等の公表等】

- ①上記(4)-③で評価結果等が決定された後、報告書をHP、関係委員会等で公表し、中期目標・中期計画の進捗状況について全学的な周知を図る。
- ②報告書は経営協議会に提出し、学外委員からの意見聴取を行う。
- ③教育研究活動等の質の改善状況を含む評価結果等をステークホルダーに分かりやすく伝えるため、評価結果等の概要版として、上記報告書に基づき、「〇〇年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価結果の概要」を作成し、様々な機会を通して広く発信する。

【自己点検・評価実施期間】

本年度の本自己点検・評価は、令和7年4月から令和7年6月に実施した。

2. 法人評価対応部会 部会員一覧

令和7年4月

所 属	氏 名	備 考
理 事（評価担当）／部会長	岡沢 秀彦	
教育・人文社会系部門	浅原 雅浩	
教育・人文社会系部門	松田 和之	
医学系部門	定 清直	
医学系部門	中本 安成	
工学系部門	岡田 将人	
工学系部門	櫻井 明彦	
経営企画部長	中村 智夫	
経営戦略課評価担当	常見 太基	
教育・人文社会系部門	半原 芳子	その他、部会長が必要と認めた者
教育・人文社会系部門	磯崎 康太郎	その他、部会長が必要と認めた者
工学系部門	山田 徳史	その他、部会長が必要と認めた者

3. 自己点検・評価結果

本年度の自己点検・評価結果は以下のとおりである。

結果の詳細はそれぞれの「自己点検・評価シート」、特に、評価指標の達成状況は別表「評価指標一覧とその達成状況」に記載したとおりである。

【評価指標の達成状況】

(1) 定量的な評価指標

年度	定量的な評価指標総数 1)	目標値を達成	目標値を未達成	該当せず 2)
R4 実績	6 4	5 1	3	1 0
R5 実績	6 5	5 4	7	4
R6 実績	6 5	6 0	3	2

1) 評価指標の中に複数の指標がある場合、別個の取り扱いとした。

2) 当該年度に取組の予定がないもの、基準値を設定することとしているもの。

本年度、設定した当該年度の目標値を達成していない評価指標は次のとおりである。

- ・ (7)-1-A 正規留学生数 (実績値 103 名/目標値 118 名超)
- ・ (8)-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数 (実績値 12 件/目標値 16 件)
- ・ (9)-1-C 附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数

この中で、昨年度に続き、本年度も目標値を達成していない評価指標は次のとおりである。

- ・ (7)-1-A 正規留学生数 (実績値 103 名/目標値 118 名超)
- ・ (8)-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数 (実績値 12 件/目標値 16 件)

今回の法人評価では、評価指標が達成水準（目標値）を満たしていることが「ii:達成水準を満たすことが見込まれる」となる前提であり、満たしていない場合は「i:達成水準を満たさないことが見込まれる」となる。このことを踏まえ、評価指標については、原則的に、4年目終了時評価において、目標値を達成するまたは達成が見込まれるよう十分な配慮が必要である。特に、2年間未達成の上記2指標については、改善方策等が策定されているが、それによって本年度は目標値が達成できることが切に望まれる。

他方、目標値を達成した評価指標の中には、設定した当該年度の目標値を大幅に上回り、最終的な目標値を大幅に超えることが見込まれるものが散見される。今回の法人評価では、原則、「目標値を1.3倍以上超えたもの」が高評価「iii:達成水準を大きく上回ることが見込まれる」されることになっている。これら指標は、4年目終了時評価において高く評価されるよう、次年度以降の目標値を上方修正することを検討いただきたい。なお、

その際、基準値及び目標値の設定状況や目標の困難度等を踏まえて評価されることになり、それらを示すエビデンスを示せるようにして頂きたい。

(2) 定性的な評価指標

年度	定性的な評価指標総数	目標を達成	目標を未達成	該当せず 1)
R4 実績	2 6	2 1	1	4
R5 実績	2 6	1 7	2	7
R6 実績	2 6	1 4	4	8

1) 当該年度に取組の予定がないもの、基準値を設定することとしているもの。

本年度、設定した当該年度の目標を達成していない評価指標は次のとおりである。

- ・ (3)-2-A 令和 9 年度までに課題解決型、若しくは価値創造型 PBL を実装する多職種連携教育を全ての学部（4 学部）で構築・実施
- ・ (5)-2-A 産学官連携本部や地域共創拠点（嶺南地域共創センター）等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み（講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等）
（「他研究科生の受講受入に係る試行を実施」が達成されていない）
- ・ (6)-1-B 令和 5 年度までに特別支援学校 2 種免許取得プログラムを実装し、令和 7 年度までに複数免許取得プログラムの実装を完了
- ・ (14)-2-B 令和 9 年度までに connect Ufukui 等で配信したニュースに対するステークホルダーの関心度を測定する仕組みを構築

今回の法人評価では、定性的な評価指標について、「何らかの取組み・活動を行うこと自体を達成水準とし、その成否のみで判断される評価指標については、達成されたことのみをもって高い評価を付すことは基本的に想定していない」とされており、それによる実績・成果が求められている。設定した定性的な指標については、その達成はもちろんのこと、成果・実績等を提示できるよう、配慮頂きたい。

(3) 意欲的な評価指標

第 4 期中期目標・計画では、達成水準を満たせば、それ以外の評価指標が達成水準を満たした場合よりも高く評価される「意欲的な評価指標」が国立大学法人評価委員会によって指定された。本学は、意欲的な評価指標として、次のとおり指定されている。

- ・ 就職率 ((2)-1-B、(2)-3-A)

本年度は、目標値（97.2%）のところ、実績値は99.7%と目標値を達成した。このように、意欲的な評価指標は順調に推移している。

【中期計画の達成度】

中期計画総数	年度	中期計画の達成度 1)			
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
37	R4 実績	5	28	4	0
	R5 実績	6	25	6	0
	R6 実績	10	22	5	0

1) 中期計画の達成度

Ⅳ：当年度の計画を上回って実施している Ⅲ：当年度の計画を十分に実施している

Ⅱ：当年度の計画を十分には実施していない Ⅰ：当年度の計画を実施していない

本年度、「Ⅱ」または「Ⅰ」と判定した中期計画は次のとおりである。

大項目	中期計画	判定	判定理由
教育	(3)-2	Ⅱ	評価指標 3)-2-B（多職種連携教育科目数）が目標値を達成していない。
	(5)-2	Ⅱ	評価指標 5)-2-A（多職種連携した人材育成を行う仕組みの構築）が目標値を達成していない。
	(7)-1	Ⅱ	評価指標 7)-1-A（正規留学生数）が目標値を達成していない。
研究	(8)-5	Ⅱ	評価指標 8)-5-B（研究成果の具体化件数）が目標値を達成していない。
業務・運営	(9)-1	Ⅱ	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数が目標を達成していない。

基本的に、評価指標が未達成な中期計画については「Ⅱ」と判定した。

【優れた実績・成果が認められる取組等】

本年度、優れた実績・成果が認められる取組等と思われるものは、次のとおりである。

大項目	中期計画	優れた実績・成果が認められる取組等の内容
社会との共創	(1)-1	令和6年度は特に JST 共創の場形成支援プログラムにおいて、地域ステークホルダーの巻き込みに注力し、関連する街中イベントの開催や大阪万博プレイベントへの出展を進め、メディア等の協力も得て、社会的インパクトやブランディングにも貢献した取組は、優れた実績・成果として認められる。
	(1)-2	嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、地域課題に取り組むプロジェクトを新たに立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進し、令和6年度においても嶺南の全ての市町とのプロジェクトを実施した結果、プロジェクト件数及び受入金額の双方とも目標値を大きく上回っている点は、優れた実績・成果が認められる取組である。
	(1)-4	地域のニーズに対応するリカレントプログラム数が令和6年度4件；

		累計 14 件と大きく目標値を超越しており、ステークホルダーのニーズに対応するリカレントプログラムが実施されたことは、優れた実績・成果として認められる取組である。
教育	(4)-1	可視化（見える化）、個別最適化支援、社会接続（PBL・企業実習）により、学生の主体的学びを促す環境が実現しており、他大学への波及効果も見込まれる。
	(5)-1	教員養成フラッグシップ大学特例を活かしたカリキュラム改革・多地域連携・評価改革といった複数の軸で構成された取り組みで、日本の教育改革を牽引する先進性がある。 拠点数の実績値が目標値を大きく上回っており、順調な取り組みの推移が窺える。今後は拠点数の増加による効果に対する（多元的な）評価を充実することで、これら取り組みの意義を一層 PR できると考える。

今回の中期計画の評価は、評価指標の達成状況に重点を置いた評価が実施されることが前提であるが、優れた実績・成果や他法人のモデルとなるような先進性・先駆性がある場合は「優れた点」として評価され、中期計画の評価をあげることとなる。さらに、中期計画のうち評価指標の設定がない事項についての実施状況も確認・評価されることになるので、十分配慮願いたい。

4. 自己点検・評価結果（自己点検・評価シート）

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【社会との共創】

○：字外公開、評価者による所感、今後の参考など
●：字外公開、部局に具体の対応や検討を依頼するもの

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度 令和6年度 実施状況		自己点検・評価結果 (全学内部保証委員会)	令和7年度 実施予定		取りまとめ 担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	【実績値】364		【目標値】265（令和7年度）	【実績値】265（令和7年度）		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(1) 人材養成機能 や研究成果を 活用して、地 域の産業（農 林水産業、製 造業、サービ ス産業等）の 生産性向上や 雇用の創出、 地域医療の向 上、文化・教 育の発展を牽 引し、地域の 産業界をリー ドする。	中期計画(1)-1	(1)-1-A	地域イノベー ション間与指数	基準値:235 対象期間:1128～ R2の平均	目標値:基準値超 (130%:305.5超) 対象期間:R4～R9の 平均	【目標値】255（令和6年度） 【実施予定】地域企業からなる 産学連携本部協力会会員 約240社のはか、FOIPと密接 に連携し、地域企業、自治 体や国研等との対話を進 進し、地域の課題抽出や、技 術相談等を通じて、共同研 究等のプロジェクト研究を 推進することにより、新た なイノベーションを創出 する。	【実績値】364 【実施状況・成果】 地域の包括的な産学官連 携体制である「ふくいオー プンイノベーション推進 機構(FOIP)」に主体的に 参画し、イノベーションの 創出・推進のための「知の 拠点」としての機能強化を 目的に、「社会共創機構」を 核とする新しい価値創造と 協ぐ仕組みの多様化)を実 現すべく、以下の取組みを 実施した。 ・産学官連携本部連携企 画部を通して、地域産業界 や自治体との対話を進め、 文科省をはじめ、経産省 や内閣府、総務省等が所 掌する公募事業にアプ ロースした。研究成果関 連事業共創の場形成支援 プログラム地域共創分野・ 育成型[IST]、革新的GX 技術創出事業(GroX)蓄 電池領域[IST]、NEDO先 端研究等プログラム/エ ネルギー・環境新技術先 端研究プログラム[NEDO] 等の大規模プロジェクト を推進するとともに、地 域オープンイノベーション 拠点選抜制度(I-Innovat ionHUB)経産省・経産省 に基づく地域の中核大 学等のインキュベーション ・産学融合拠点の整備(経 産省)事業による「未来共 創アクセラレーター」の 域工を推進し、地域産学 官連携のもとで共有を開 始し、地域の産業競争力 強化に貢献した。 1) 府域社会実装研究セン ターを通して、組織的な 共同研究を推進した。地 域企業及び自治体と共に 、超小型人工衛星製造技 術開発に関する国プロに 参画するほか、他大学と 連携して教育研究用超小 型人工衛星の設計・製造 を行い、打上・軌道投入 成功を導き、地域の産業 競争力強化と共に社会的 インパクトの創出に寄与 した。 2) 府域テクニカルイノ ベーション共創センター を通して、学内外に広く 、先端研究設備の共有化 を推進した。先端分析機 器の新規導入、現場レ ベルの技術習得や対話 を経て、様々な課題解 決に挑み、地域の産業 競争力強化に貢献した。 3) 産学官連携本部連 携企画部を中心に、大 学発新産業創出基金事 業スタートアップ・エ コシステム共創プログラ ム[IST]により誘発され た、北陸地域の大学・ 高専発スタートアップ 創出プラットフォーム (TsSH)にSU創出共同 機関として参画、大学 発スタートアップの創 出に資するGAPファン ドプログラムを実施し た。 4) FOIP及び産総研との 連携により、地域産学 官民が連携する新しい 価値創造のための対 話、「GarageHUB」活 動を推進した。繊維や 金属製品のリサイクル に関連する次世代製品 ・サービスを案出、試 作を行って市場受容性 を調査した。 【自己点検・評価】 ①② ③	【目標値】265（令和7年度） 【実施予定】地域企業から なる産学連携本部協力 会会員約240社のはか 、FOIPと密接に連携 し、地域企業、自治 体や国研等との対話を 推進し、地域の課題 抽出や、技術相談等 を通じて、共同研究 等のプロジェクト研 究を推進すること により、新たなイノ ベーションを創出 する。	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成 している ＜コメント＞ ○実績値が大幅に目標値を 上回っているため、目 標設定をもう少し上 げてはいいかがであ らうか。また、後目 設定している指標に 占める各項目の影響 を評価すること、注 力すべき項目がは っきりする感じがし ます。	④改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済 み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改 善状況 3. 該当なし(達成済 み) ＜コメント＞		
	研究推進課													
中期計画(1)-1					中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成状況 Ⅳ 上記令和6年度実施状況の他、以下取組を実施した。 ・令和6年度は特にIST共創の場形成支援プログラムにおいて、繊維資源循環に関する地域ステークホルダーの参込みに注力し、関連する街中イベントとの連携や大阪万博プレイベントへの出席を進め、メディア等の協力も得て、社会的インパクトやブランディングにも貢献できる取組となった。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅳ：計画を上回って実施している ＜コメント＞ ○様々な既存予算を活用して、活発に活動していることが分かります。 ○街中イベントや万博プレイベントへの出席などを通じて、一般にも見えやすい成果になっている点が他の取組にも参考になると思います。 ○令和6年度は特にIST共創の場形成支援プログラムにおいて、地域ステークホルダーの参込みに注力し、関連する街中イベントの開催や大阪万博プレイベントへの出席を進め、メディア等の協力も得て、社会的インパクトやブランディングにも貢献した取組は、優れた実績・成果として認められる。 ○定量指標は目標を超えているものの、指標外の取組「モノづくりとコトづくりを連動させた新たな価値創造への取組」については、取組が始まった段階であるため、優れた実績・成果が上がっている現時点で言えるが微妙と判断しました。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある ＜コメント＞ ○参加しているTsSH(経産省)で福井大学からベンチャーが立ち上がる点や分かりやすい成果になると思います。 ○街中イベントや万博プレイベントへの出席などを通じて、一般にも見えやすい成果になっている点が他の取組にも参考になると思います。 ○令和6年度は特にIST共創の場形成支援プログラムにおいて、地域ステークホルダーの参込みに注力し、関連する街中イベントの開催や大阪万博プレイベントへの出席を進め、メディア等の協力も得て、社会的インパクトやブランディングにも貢献した取組は、優れた実績・成果として認められる。 ○定量指標は目標を超えているものの、指標外の取組「モノづくりとコトづくりを連動させた新たな価値創造への取組」については、取組が始まった段階であるため、優れた実績・成果が上がっている現時点で言えるが微妙と判断しました。	評価指標に設定がない事項のコメント ○「モノづくりとコトづくりを連動させた新たな価値創造への取組」としてどのような取組をしてどのような成果が上がったのかが読み取れません。特に、「コトづくりとモノづくりの連動」の部分が見えにくいように思います。「GarageHUB」での試作と市場調査はありますが、コトづくり(サービスや仕組み、社会的価値)との連動が明示的ではなく、「モノづくり止まり」にとどまっている印象を受けます。	
中期計画(1)-2		(1)-2-A	地域共創拠点 (県南地域共創 センター) (R4 設置予定)	基準値：－ 対象期間：－	目標値:福井県、 県南自治体等と 連携して、人員 を配置した当該 拠点の設置 対象期間: R4～ R5の期間中	【目標値】－ 【実施予定】－	【実績値】		【目標値】－ 【実施予定】－	経営戦略課	○定性的指標はR4年度に達成 していますが、セン ターからどのような 成果が上がったのか ということがわかる 記載になっていま せん。(1)-2-Bや(1)- 2-Cに書かれてい ることは、設置した センターやそこに配 置した教員とどの ような関係があるの でしょうか？			

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度 令和6年度 実施状況			令和7年度 令和7年度 実施状況	取りまとめ 担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実績値	自己点検・評価結果 (金学内部質保証委員会)			実施予定		
									【目標値】年度内1回開催、30自治体（延べ90自治体） 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3			【実績値】1、35自治体（延べ98自治体） 「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットを開催し、登録する自治体を増やした。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】年度内1回開催、30自治体（延べ120自治体） 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。
	(1)-3-C 「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数：1回（第4期の毎年度）／当該サミット参加自治体数：延べ180程度（第4期の合計） 松岡キャンパス運営管理課	①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数	基準値：－ 対象期間：－	目標値： ①1回 （130%：1.3回） ②延べ180自治体 （130%：延べ234自治体） 対象期間： ①R4～R9の毎年度 ②R4～R9の合計	【目標値】年度内1回開催、30自治体（延べ90自治体） 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【実績値】1、35自治体（延べ98自治体） 「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットを開催し、登録する自治体を増やした。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】年度内1回開催、30自治体（延べ120自治体） 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。	松岡キャンパス運営管理課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>		
	中期計画 (1)-3				中期計画の達成状況 松岡キャンパス運営管理課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 A. 総合医育成プロジェクト：地域勤務研修（General）道場に3名が登録し、協力12医療機関の中から必要な研修現場（令和6年度は）CHO福井県山総合病院に2名、NHOあわら病院に1名）を選択し、勤務医としてそれぞれ1か月間の研修を修了した。昨年度は研修希望専攻医と協力病院の指導医との受入期間がマッチングせず1名しか研修できなかったが、今年度は3名が研修を修了することができた。 B. 感染症専門医の受検者を1名を指導し、1名の合格者を輩出することができた。また、認定看護師教育として本学看護学科キャリアアップ部門で感染症管理認定看護師B課程の教育を担当し、令和6年度は10名の認定看護師を輩出した。 C. 令和6年度は、新規3自治体の加盟を得た。令和6年11月に「健康のまちづくり友好都市連盟」の年1回の会合（健康のまちづくりサミット）を受検県（福井県）において開催し、全135の自治体から81名が参加し全国各地で取り組まれている地域ぐるみの健康増進活動・政策およびまちづくり活動、政策について意見を交わした。	【評価結果】 【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 4. 該当なし（達成済み） <コメント> ○A. 総合医育成プロジェクトにおいて、前年度は1名しか研修できなかったが、今年度は3名が研修を修了したこと、B. 感染症専門医の養成、C. 「健康のまちづくり友好都市連盟」サミット等の開催を継続維持したことは、優れた実績・成果に繋がる取組として期待される。	評価指標に設定がない事項のコメント ●計画では「地域臨床研修システムの活性化、地域インノベーションセンターの設立、プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化」をあげていますが、対応する取組みは進んでいるのでしょうか？ ○Aは「地域臨床研修システムの活性化」に該当するかと思いますが、BとCが「地域インノベーションセンター」や「プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化」とどのように結びつくかわかりません。「地域インノベーションセンター」や「プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化」の取組状況で言えば優れた実績・成果は如何でしょうか？	
	中期計画 (1)-4 現代社会が求める知識・技能を必要に応じてタイムズ（※）等での議論に基づくリカレント教育の構築を旨とし、地域の発展を支える専門職の生涯における職能成長を支えるリカレント教育や、地域が求めるリカレント教育を整備することにより、スケーラブルのニーズに対応するリカレントプログラムを実施する。 地域連携推進課 地域連携推進課	(1)-4-A 令和9年度までに「未来協働プラットフォームふくい」における「学生／社会人教育委員会」等での議論に基づくリカレントプログラムを複数実施 ※ 福井県版地域連携プラットフォーム数 地域連携推進課	「未来協働プラットフォームふくい」における「学生／社会人教育委員会」等での議論に基づく実施したリカレントプログラム数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：2件以上、（130%：2.6件以上） 対象期間：R4～R9の合計	【目標値】1件以上 【実施予定】「未来協働プラットフォームふくい」学生教育、社会人教育実行部門会議での議論に基づく地域のニーズに対応するリカレントプログラムを実施する。 【実績値】4件（累計14件） 【達成状況・成果】 「地域が求めるリカレント教育」として、「未来協働プラットフォームふくい」実行部門会議1「学生教育、社会人教育実行部門会議」での議論に基づく実施したリカレントプログラムの可視化とプレゼンテーション」／企業内でのフライングセッション／ウェルビーイング推進に向けての3講座を開講し、計11名の受講者があった。 また、「職能成長を支えるリカレント教育」として、福井大学同窓経営者の会と国際地域マネジメント研究科が協力し職の支援も受け「ビジネス講座／グローバル時代の企業活動で直面する課題への対応」を実施し、計26名の受講者、26万円の受講料収入があった。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】－ 【実施予定】「未来協働プラットフォームふくい」学生教育、社会人教育実行部門会議での議論に基づく実施したリカレントプログラムを検証し、リカレントプログラムの構築に反映する。 ○毎年数科目の講座を実施できる目途は立っている印象があるので、実現に向けて目標値を少しあげることができれば、そうしたほうがいいと思います。 ○目標値を大きく上回っていて逆に達成しやすいと評価されてしまう恐れがあります。対策ですが、累計14件の中には単発の講座や単発の科目等も含まれているように見えますので、「プログラム」として何件か、整理していかなくてはどうか。	地域連携推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ○1科目を1件とカウントするのであれば、少し目標値が低い感じがします。 ○毎年数科目の講座を実施できる目途は立っている印象があるので、実現に向けて目標値を少しあげることができれば、そうしたほうがいいと思います。 ○目標値を大きく上回っていて逆に達成しやすいと評価されてしまう恐れがあります。対策ですが、累計14件の中には単発の講座や単発の科目等も含まれているように見えますので、「プログラム」として何件か、整理していかなくてはどうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>	
	中期計画 (1)-4 地域連携推進課				中期計画の達成状況 地域連携推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 （1）～（4）の取組に加え、令和5年度に実施したリカレント教育の現状把握のための学内調査結果を踏まえ、リカレント教育推進本部において、「福井大学におけるリカレント教育推進に関する方向性」の策定し、学内への周知を行った。 リカレント教育推進に関する方向性の策定にあたっては、学内教職員を対象としたアンケート調査の実施により、教育現場における課題や要望を把握するとともに、関係の企業・自治体の人事担当者との意見交換を通じ、ビジネス実務の現場で求められるスキルや知識、地域社会における具体的なニーズについても幅広く意見を収集した。 今後は、この方向性をベースとしてリカレント教育のさらなる推進を図っていくこととなるが、「受講料金の設定」「リカレント教育に携わる教員等へのインセンティブ提供」「大学院への社会人入学者への奨学金等の支援」「企業等と連携した大学院への社会人入学制度」等の諸課題について、引き続き議論・検討を行っていく。	【評価結果】 【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント> ○第四期全体の計画・目標は達成しているようであるが、R6年度に例しては前年度より件数が減少している。 ○92%の満足率は、優れた結果だと思います。大学院への社会人入学者の増加につながることを期待しています。 ○地域のニーズに対応するリカレントプログラム数が令和6年度4件；累計14件と大きく目標値を超過しており、スケーラブルのニーズに対応するリカレントプログラムが実施されたことは、優れた実績・成果として認められる取組である。 ○上記のコメントは素直に思える。「プログラム」と呼ぶには以下の要件が必要と考えます。体系的、継続性、プログラムとしての目標と修了要件、学習者支援、達成度管理、満足度調査、成果の可視化、これらを備えたプログラムの整備を期待します。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある <コメント> ○リカレント教育は社会的要請に応えるものですが、大学から提供する人的コストは大きいと思います。この事業を起点として社会人入学などに繋げることでコストを回収する仕組みができることを期待します。 ○92%の満足率は、優れた結果だと思います。大学院への社会人入学者の増加につながることを期待しています。 ○地域のニーズに対応するリカレントプログラム数が令和6年度4件；累計14件と大きく目標値を超過しており、スケーラブルのニーズに対応するリカレントプログラムが実施されたことは、優れた実績・成果として認められる取組である。 ○上記のコメントは素直に思える。「プログラム」と呼ぶには以下の要件が必要と考えます。体系的、継続性、プログラムとしての目標と修了要件、学習者支援、達成度管理、満足度調査、成果の可視化、これらを備えたプログラムの整備を期待します。	評価指標に設定がない事項のコメント	

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【教育】

○：学外公開、評価者による所感、今後の参考など
●：学外公開、部局に具体の対応や検討を依頼するもの

		令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度	
		実施予定		実施状況		実施状況		実施状況	
		自己点検・評価結果（全学内部公表）		自己点検・評価結果（全学内部公表）		自己点検・評価結果（全学内部公表）		自己点検・評価結果（全学内部公表）	
		実施予定		実施状況		実施状況		実施状況	
		自己点検・評価		自己点検・評価		自己点検・評価		自己点検・評価	
		①1 ②4 ③3		①1 ②4 ③3		①1 ②4 ③3		①1 ②4 ③3	
		【実施予定】・教学IR体制の運用 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの運用 ・在学生の各種アンケート調査の実施 ・卒業生のアンケート調査の実施 ・就職先等のアンケート調査の実施 ・教学IRデータの収集 ・教学IRデータの分析に基づき、DP・CPの見直しを含め、「輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか」、「教育課程、入学者選抜の改善状況」を検証・上記を踏まえ、令和9年度末までに対応を済ませておくべき事項の抽出と対応策の策定 ・教学IRデータの公表		【実施予定】・教学IR体制の運用 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの運用 ・在学生の各種アンケート調査の実施 ・卒業生のアンケート調査の実施 ・就職先等のアンケート調査の実施 ・教学IRデータの収集 ・教学IRデータの分析に基づき、DP・CPの見直しを含め、「輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか」、「教育課程、入学者選抜の改善状況」を検証・上記を踏まえ、令和9年度末までに対応を済ませておくべき事項の抽出と対応策の策定 ・教学IRデータの公表		【実施予定】・教学IR体制の運用 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの運用 ・在学生の各種アンケート調査の実施 ・卒業生のアンケート調査の実施 ・就職先等のアンケート調査の実施 ・教学IRデータの収集 ・教学IRデータの分析に基づき、DP・CPの見直しを含め、「輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか」、「教育課程、入学者選抜の改善状況」を検証・上記を踏まえ、令和9年度末までに対応を済ませておくべき事項の抽出と対応策の策定 ・教学IRデータの公表		【実施予定】・教学IR体制の運用 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの運用 ・在学生の各種アンケート調査の実施 ・卒業生のアンケート調査の実施 ・就職先等のアンケート調査の実施 ・教学IRデータの収集 ・教学IRデータの分析に基づき、DP・CPの見直しを含め、「輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか」、「教育課程、入学者選抜の改善状況」を検証・上記を踏まえ、令和9年度末までに対応を済ませておくべき事項の抽出と対応策の策定 ・教学IRデータの公表	
		教務課		教務課		教務課		教務課	
		①評価指標の達成状況		②改善方策等の策定状況		③前年度未達成の改善状況		④前年度未達成の改善状況	
		1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ○各学部の養成人材像を踏まえた調査については、さまざまな取り組みが行われており、それが予算獲得に繋がっているなど、目覚ましい成果があらわれているが、その分析結果が本学の構成員にあまねく共有されているとは言い難い。		4. 該当なし（達成済み） <コメント>		3. 該当なし（達成済み） <コメント>		3. 該当なし（達成済み） <コメント>	

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果 (全学内部調査)	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	令和6年度 実施状況		実施予定	自己点検・評価結果				
中期計画②-2 多様な背景を有する学生の一層の獲得を目指す、多面的・総合的に評価する入学選抜の基盤となる。新学習指導要領で重視される「探究活動」の実践による主体的・対話的で深い学びを育む高大接続教育（高等学校における探究活動の支援、大学における探究プロジェクトの開催など）を拡大する。	中期計画②-2-A 高等学校における探究活動の支援回数：46回以上（第4期の最終年度） 入試課	②2-2-A 入試課	高等学校における探究活動の支援回数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：46回以上 (130%:59.8回以上) 対象期間：R9（第4年度）	【目標値】支援回数46回	【実績値】支援回数 97回	【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】支援回数46回	【実績値】支援回数46回	入試課	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
						【実施予定】課題設定に対する助言 ・探究活動の質問に対する助言 ・中間発表会・最終成果発表会での助言及び講評 ・探究活動の成果をまとめるための論文の書き方の助言 ・以上の成果や実施状況を確認し、改善を図る。 ・高校教員と大学教員による高大連携探究教育研究会を開催し、高校と大学の連携体制の充実を図る。併せて、支援する高校数を増加させる。	【実施状況・成果】 高校の探究学習の支援について、昨年度と同様に高校の探究学習のコンサルテーション、中間発表会および成果発表会の助言・講評、論文の書き方の講義などの一応の支援を行った。他機関(他大学の大学・短大)の支援回数も増加した。上野大学(R5年度：35回、R6年度：38回)、福井県立大学(R6年度：45回)、仁愛女子短期大学(R5年度：10回、R6年度：10回)であった。他機関の支援回数と比較すると、本学の支援回数は他機関の2倍以上であり、特筆すべき成果であると考える。なお、他機関の支援回数を見ると、目標値46回以上の設定は妥当な数値と考える。 高校の探究学習を支援した成果として、【高校側の成果】と【大学側の成果】を次に示す。 【高校側の成果】 A高校の場合：「貴学教員の支援により、探究学習の成果を評価する総合型選抜に年々、出願者数・合格者数が増加した。」B高校の場合：「探究学習の時間では、課題研究や情報収集や分野ごとの発表を希望し力となら自ら進んで行うことが以前に比べて出来るように変容した。」C高校の場合：「貴学教員に支援により、探究活動に対して主体的に取り組む、外部と連携するなど社会の実践に向けての活動が多く見られた。」D高校の場合：「貴学との連携が土台にあって探究学習の質を高めることが出来たと実感している。」 以上のように、本学の探究学習の支援に関して高校側からの好評価を得ている。 【大学側の成果】 高校の探究学習の支援による大学の成果を志願者の確保、大学教員の意識改革、高大双方の教育の接続、入学後の学生の意欲向上の観点から次に示す。 (志願者の確保) 工学部のR5年度総合型選抜Ⅱ（募集人員：60名）の県内からの志願者数は79名に対し、R6年度総合型選抜Ⅱ（募集人員：85名）の県内からの志願者数は195名であった。また、工学部のR6年度学校推薦型選抜Ⅰ（募集人員：43名）の県内からの志願者数は168名であった。このように県内高校の探究学習の支援により総合型選抜Ⅱおよび学校推薦型選抜Ⅰの志願者数の増加に繋がった。 (本学教員の意識改革) 本学教員が県内高校の探究学習を支援し、高校教育の変革を体験した結果、学部自ら高大接続入試の導入を決定した。このように高校の探究学習の支援は大学教員の入試に対する意識の変化をもたらしたことが分かった。下記にこれまでに導入・拡大した高大接続入試を示す。 ○国際地域学部：総合型選抜Ⅰ H29年度入試～ ○教育学部：総合型選抜Ⅰ（芸術系）R2年度入試～ ○教育学部：学校推薦型選抜Ⅰ（国際地域特）R4年度入試～ ○工学部：学校推薦型選抜Ⅰ（健康・都市環境系）R2年度入試～ ○工学部：学校推薦型選抜Ⅰ（機械系）R7年度入試～ ○工学部：学校推薦型選抜Ⅰ（化学系）R7年度入試～ (高校教育と大学教育の円滑な接続) 高校の探究学習の支援により、高校教員と大学教員との交流・連携によりネットワークが構築された。その一例として高校の化学の教員と大学の化学の教員により高大連携化学教育研究会を設立した。この研究会により高校生と大学の研究者の体験入学や、高大双方の教員による意見交換会を行い、県内高校からの志願者の確保に繋がった。また高校の探究学習の支援により高校教員と大学教員によるネットワークの構築の成果として、文科省のプロジェクト「科学の甲子園や京大EX加速化推進事業、マイスター・バイタル等」に対する大学の専門家の高校への派遣が円滑に出来た。 (学生の意欲向上) 高大接続入試で入学した学生の入学後のパフォーマンスを継続して入試の改善を行う事は重要である。そこで、国際地域学部の高大接続入試入学生の入学後のパフォーマンスを紹介する。下記に地元の新報に取り上げられた事例を紹介する。 ○地元のカフェを地域の集いの場にしように、学生がメニューカードで温かい交流を企画した。来店者に人の温かさや楽しさを感じて欲しいと考案した。 ○学生が若い顧客の取り組みが課題になっていた地元企業と連携し、学内で2日間限定のショップを設置した。幅広い年齢層の人が立ち止まり手応えを感じた。 ○通称地域活性化活動の一環として、学生が集落ににぎわいを生み出すきっかけにしたいと集落のシャッターに壁面を譲った。学生は集落がにぎわってほしいと集落を彩る絵に期待を寄せている。 ○入学後の学業成績の追跡調査を行った結果、高校時代に探究学習を経験した地元の学生の学業成績が伸びていることが分かった。 これらの【大学側の成果】を「令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会」(主催：大学入試センター)で研究発表を行った。 【自己点検・評価】 ① ② ③		【目標値】実践回数16回	【実績値】実践回数 17回		【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】実践回数16回	【実績値】実践回数16回
②2-2-B 大学における探究プロジェクト開催回数：16回以上（第4期の最終年度） 入試課	②2-2-B 入試課	大学における探究プロジェクトの開催回数	学内における探究プロジェクトの開催回数	基準値：－ (参考) 第3期実績値：11.8回 対象期間：－	目標値：16回以上 (130%:20.8回以上) 対象期間：R9（第4年度）	【目標値】実践回数16回	【実績値】実践回数 17回	【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】実践回数16回	【実績値】実践回数16回	入試課	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
【実施予定】探究プロジェクトの実施にあたり、アドミッションセンター運営委員会等で各学部で担当するプロジェクトを確認し、センターと各学部の連携体制の充実を図る。 ・探究プロジェクトに参加した生徒の入学受検状況や高校時代に探究プロジェクトに参加した学生の学業成績等の追跡調査を行い、各学部に報告する。 ・高校時代の多様な学習成果を多面的・総合的に評価する入学者選抜を提案する。 ・以上の成果や実施状況を確認し、取り組みの改善に資する。						【実施状況・成果】 県内高校生が大学に「探いて」生徒の探究学習を支援する「福井プレカレッジ」は県内高校3年生を対象に13チーム（参加者101名）、高校1～2年生対象に4チーム（参加者44名）を全学部の協力により実施した。参加高校数は2年前年度より2校増加して14校であった。 この「プレカレッジ」の成果として、「プレカレッジ」参加者の4～5割が本学に志願したことが分かった。工学部の場合：R5年度では「プレカレッジ」参加者のうち、42名が総合型選抜Ⅱに志願し23名が入学した。R6年度では「プレカレッジ」参加者のうち、学校推薦型選抜Ⅰに32名志願し20名が入学し、総合型選抜Ⅱに48名が志願し21名が入学した。結果、昨年度より18名増加し41名が入学した。これらのことから本取り組みの成果として県内高校からの志願者・入学者の確保に有効であることが明らかになった。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】実践回数16回		【実績値】実践回数16回	①評価指標の達成状況		②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況	

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	令和6年度 実施状況	自己点検・評価結果 (全学内部調査)			実施予定	令和7年度 実施状況	自己点検・評価結果
特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の垣根にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)	卓越高度専門職業人の育成を目指す。各学部の特徴に応じた数理・データサイエンス・AI分野の教育を推進し、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し奨励している数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の認定を取得する。また、認定取得した教育プログラムを普及させる。 教務課	③1-B 認定取得した教育プログラム履修者数	認定取得した教育プログラム履修者数	基準値:ー 対象期間:ー	目標値:200名以上 (130%:260名以上) 対象期間:R9(第6年度)	【目標値】履修者数340名(対象科目の受入定員数) 【実施予定】履修者数の早期向上のためのR4年度の取組を継続する。 ・R7年度全学必修に向けた検討・準備を行う。	【実績値】466 【実施状況・成果】教育学部において対象科目の必修化を実現し、継続して教育プログラムを学生に周知し対象科目を計画通り開講した結果、リテラシーレベル履修者数は466名(昨年度比105名増)となり目標値を達成した。 教育学部・医学部・国際地域学部においてはリテラシーレベル必修化済みで、工学部においては長期欠組での必修化に向けて、全入学生が履修できるよう科目構成の検討を進めており、工学部向けのリテラシーレベル科目をR7年度より開講することを決定済み。 【自己点検・評価】 ① ② ③		【目標値】履修者数855名(入学生定員数) 【実施予定】高校にて情報科目を履修した学生が入学するR7年度にあわせて、全学部において教育プログラム対象科目を必修科目とする。	教務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○評価指標は「認定取得した教育プログラム履修者数:200名以上(第4期の最終年度)」となっており、それに向けて履修者は順調に伸びている。全学部において応用基礎レベルの認定プログラムが履修可能となった機には、目標値の性格と人数を設定し直す必要があるのではないかと。 ●念のため、「単位修得者」が目標値を超えていることをご確認ください。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞
	中期計画(③)-1				中期計画の達成状況 教務課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】 【達成状況・成果】令和5年度に認定を取得した工学部の応用基礎レベルに引き続き、国際地域学部にて「国際地域学部数理・データサイエンス・AI応用基礎力育成プログラム」の認定を、計画通り令和6年度(98.8:27)に取得した。 教育プログラム履修者数(リテラシーレベル:466名(昨年度比105名増)、工学部応用基礎レベルプログラム:1208名(昨年度比26名増)、国際地域学部応用基礎レベルプログラム:81名と目標を上回り達成した。(※応用基礎レベルプログラムの履修者数は、リテラシーレベル履修者数と重複含む) 【特記事項】 応用基礎レベル教育プログラムの認定について、国際地域学部を引き続き、教育学部及び医学部での申請準備を並行して進めており、両学部において応用基礎レベル教育プログラムの運用を令和6年度に開始し、令和7年度の申請を目指して準備中である。両学部の応用基礎レベルが認定されると、R7年度より、全学部で認定プログラムが履修可能な状況となる。	【評価結果】 【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	【目標値】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 1. 計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○認定の取得や当該科目の履修者数の増加が達成できれば、次には教育成果の可視化が求められるが、データサイエンスやAIの応用による分野の特性を活かした波及効果のある先進的な取り組みがなされることを期待したい。 ○専断に全学部での認定取得に向けて取り組みが進められているとともに、履修者数も目標値を上回っており、優れた実績・成果が期待される。今後は、修了者数(率)と修了レベル(成績平均点)などが重要な指標となってくると考える。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○教育プログラムの履修者数が大幅に増え、若果に視野が広がっている。今後は、その成果が求められる。 ●教育の成果が上がっていることを何らかの方法で可視化しただけではないでしょうか。例えば、学生に対するアンケートの実施、数理・データサイエンス・AI分野の知識を活かせる就職先への推薦が全学的に増えている(あるいはそうい事例が工学部以外でも増しくなっている)など、なんとか令和7年度中に2対応したいのではないかと。			
中期計画(③)-2	③2-A 令和9年度までに課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実施する多職種連携教育 経営戦略課	課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実施する多職種連携教育	課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実施する多職種連携教育	基準値:ー (参考) 第3期は医学部のみ実施 対象期間:ー	目標値:全ての学部(4学部)で構築・実施 対象期間:R4～R9の間中	【目標値】教育学部、医学部医学科・看護学科、工学部、国際地域学部で実施 【実施予定】創生人材センター・嶺南地域共創センター運営委員会から社会共創教育実務委員会へ多職種連携科目の開講を提案し、各学部の教育カリキュラムに多職種連携科目を組み込んでいく。 【達成状況・成果】 ・地域推進本部附属創生人材センターにおいて、「価値創造型PBL」の一環として、学生36名(工学部・工学研究科30名、医学部2名、国際地域学部4名)が参加する県内調査を行い、「地域のみなさんにとっての価値」についての新たな知見を得た。 ・「価値創造型PBL」の将来的な単位化を見据え、調査活動及び同センターでの議論を継続し、要件の整理を行っている。 【改善方策(目標値未達成の場合)】 ・地域推進本部附属創生人材センターにおいて教育学部での実施について検討するとともに、「価値創造型PBL」の将来的な単位化を見据え、調査活動及び同センターでの議論を継続し、要件の整理を行っている。 【自己点検・評価】 ①② ②1 ③③		【目標値】教育学部、医学部医学科・看護学科、工学部、国際地域学部で実施 【実施予定】創生人材センター・嶺南地域共創センター運営委員会から社会共創教育実務委員会へ多職種連携科目の開講を提案し、各学部の教育カリキュラムに多職種連携科目を組み込んでいく。	経営戦略課	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない ＜コメント＞ ○教育学部で多職種連携科目の組み込みが行っていない。 ●「価値創造型PBL」の一環として学生36名(工学部・工学研究科30名、医学部2名、国際地域学部4名)が参加する県内調査を行ったことだが、その調査に教育学部の学生が加われば、それで多職種連携教育が行われていると言えるのか、やや疑問に感じる。それだけでは部活動やサークル活動と大して変わらないようにも思える。その言葉の定義も含めて、どのような成果が得られると多職種連携教育が実現したと言えるのか、もう少し具体的な目標や指標を定めて、広く周知しておく必要があるのではないかと。 ○工学研究科の学生の参加は本計画では副次的なことしか評価されない(ので(学士課程)における計画なので)、学部生の参加人数をもっと増やすよう配慮ください。 ○工学部の「学際実験・実習」を、人数を絞ってもいいので教育学部の学生が受けられるようにしてはどうでしょうか。	1. 改善方策等が策定されている ＜コメント＞	3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果 (全学内部関係課)	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況		実施予定	実施状況		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(4) 研究者養成の第一段階として必要の研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会と必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(博士前期課程)	中期計画(4)-1 将来の産業構造の変革に対応できる人材へのニーズを踏まえ令和5年4月に改組した工学研究科博士前期課程において、スベシヤリストとジェネラリストの能力・資質を兼ね備えた高度専門技術者の輩出を一層進めることを目指し、教学マネジメントのもと、ステークホルダーの参画も得て人材育成状況を検証し、分野横断型カリキュラムの質を向上させる。 工学系運営管理課	(4)-1-A 工学研究科博士前期課程の教育プログラムについて毎年度モニタリングを行うとともに令和9年度までにレビューを実施 工学系運営管理課	工学研究科博士前期課程の教育プログラム	基準値:ー 対象期間:ー	目標値: ①モニタリング ②レビューの実施 対象期間: ①R4～R9の毎年度 ②R4～R9の期間中	【目標値】ー 【実施予定】(1)モニタリングの実施 (2)抽出された課題への対応[注1] (3)次年度に行う中間レビューの実施体制や点検項目の策定[注2] 注1:特に、必修以外の工学研究科共通科目をより多くの学生が履修することに関するもの、R7年度教育課程表の改正に繋がることとはできない。 注2:中間レビューの主目的は、R7年度修了生までの人材育成状況の検証、R7年度までの分野横断型カリキュラムの質の向上の検証である。人材育成状況の検証には、ステークホルダーが参画することを想定。 ★昨年度改正した教育課程を今年度から実施。その成果は来年度検証。	【実績値】令和6年度にモニタリングを実施した。 【実施状況・成果】 (1)令和6年度のモニタリングを実施した。 各このモニタリングは、教育内部関係部の一環として毎年度実施することが全学的に決まっている「自己点検・評価(モニタリング)」である。 (2)工学研究科独自のモニタリング項目に、文科省「大学・高専機能強化支援事業」の対象となったコースに係る入学定員充足率を加え、モニタリング内容を充実させた。 (3)改善策の策定も含め、モニタリングの実施は、工学研究科の教育内部関係部の体制のもと、自己点検評価委員会が中心となり、教育、教務関係の委員会等と連携して行った。 (4)モニタリングの結果「改善を求められる」となった項目については、所掌する委員会等が改善策を講じた。 注1:良好な人材育成状況を確認したい。 注2:質の向上を促したい。 注3:必修以外の工学研究科共通科目をより多くの学生が履修することに資する改善を期待。 ★各検証はR8年度からの調査で学んだM2学生を対象とする。→(評価書の提出はR8年6月頃(ただしとも)R7年12月頃までには終了見込の者を対象に調査を済ませ、その後検証というタイトなスケジュールにする。		【目標値】ー 【実施予定】(1)モニタリングを兼ねた中間レビューの実施 (2)上記の結果の活用 ・R7年度修了生までの人材育成状況の検証(ステークホルダーの参画を想定)[注1] ・R7年度までの分野横断型カリキュラムの質の向上の検証[注2] ・抽出された課題への対応、特に教育課程表の改正を伴うレベルのキャリア ・R7年度からの分野横断型カリキュラムの質の向上の検証[注3] (3)次年度に向けたモニタリングの実施体制や点検項目の確認 注1:良好な人材育成状況を確認したい。 注2:質の向上を促したい。 注3:必修以外の工学研究科共通科目をより多くの学生が履修することに資する改善を期待。 ★各検証はR8年度からの調査で学んだM2学生を対象とする。→(評価書の提出はR8年6月頃(ただしとも)R7年12月頃までには終了見込の者を対象に調査を済ませ、その後検証というタイトなスケジュールにする。	工学系運営管理課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント> ③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>			
		(4)-1-B 修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))、第3期(125名)より20%以上増加(第4期の平均) 工学系運営管理課	修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))	基準値:125名 ※R2入学者がR2～R3で当該授業を履修登録した者の数 対象期間:R2入学者がR2～R3で当該授業を履修した者の数	目標値:基準値の20%以上(150名以上) (130%:195名以上)の平均 対象期間:R4～R9の平均	【目標値】150名(令和5年度入学生に対する目標値) 【実施予定】(1)本年度新入生に対し、令和4年度の内容(1)、(2)と同様な取組を行う。 (2)令和5年度入学生(含、秋入学生)の共通科目履修者数が、本年度末に150名を超えるよう、4月と10月の履修登録の機会を捉えて履修指導を行う。 (3)令和4年度入学生(留年生、秋入学生)の共通科目履修状況を調査し、令和4年度入学生の実績を更新する。[注] 注1:この段階で、令和4年度入学生の実績はほぼ確定する。ただし、令和4年度春入学生の留年生、秋入学生の留年生は一般にはそれ以降も存在し続けるため、完全な確定はまだ先になる。彼らのフォローは今後も行うが、計画の中への明記は上記(3)までとする。	【実績値】令和5年度入学生(春、秋入学生)のうち必修以外の工学研究科共通科目を1科目以上履修した者の数が210名(単位修得者は201名)となり、単位修得者で見ても目標値150名の1.4倍と高水準である。 【実施状況・成果】 (1)令和6年度の前期終了時点で行った単位修得者数調査の結果に基づき、令和6年度終了時に目標値の1.3倍以上に各コースに目標人数を割りあて、必修以外の工学研究科共通科目の5名を履修を促した。 (2)令和4年度入学生(留年生、秋入学生)の共通科目履修状況の追加調査は、現在実施中である。 (3)引き続き本年度についても高い水準での目標達成となるよう、令和6年度入学生に分ける区分を定めた(令和6年度入学生のうち、令和6年度末までに必修以外の工学研究科共通科目を1科目以上履修した者が191名(単位修得者は185名)であったことから、令和7年度末までに目標値の1.3倍である195名を達成できる可能性が十分ある。そこで、各コースに目標人数を割りあて、必修以外の工学研究科共通科目の5名を履修を要請した。その際、「大学・高専機能強化支援事業」によって令和6年度から入学定員がそれまでの1.083倍に増えたことを考慮し、目標値の1.3倍ではなく1.3×1.083倍を達成できるよう、割当人数を高めに設定した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】155名(令和6年度入学生に対する目標値) [注1] 【実施予定】(1)本年度新入生に対し、令和4年度の内容(1)、(2)と同様な取組を行う。ただし、150名を155名と読み替える。 (2)令和6年度入学生(含、秋入学生)の共通科目履修者数が、本年度末に155名を超えるよう、4月と10月の履修登録の機会を捉えて履修指導を行う。 (3)令和5年度入学生(留年生、秋入学生)の共通科目履修状況を調査し、令和5年度入学生の実績を更新する。 注1:令和6年度から「共通科目の履修者数が増えるよう改訂された教育課程」が実施されていることを期待して目標値を引き上げている。 ★令和7年度のカリキュラム変更により必修以外の工学研究科共通科目の配置が令和8年度から一層充実するのであれば、令和9年度の日標値を引き上げることと検討。 ★4年目終了時評価で目標値達成に関与する学生は、(令和4年度春入学生～令和6年度春入学生)+(令和4年度秋入学生～令和5年度秋入学生)	工学系運営管理課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント> ③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>			

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	令和6年度 実施状況	実施予定		自己点検・評価結果 (全学内部調査)	令和6年度 実施状況	
		(5)-1-C 「理論と実践の往還」及び 長期的で組織的な学校拠点 のプロジェクト学習の展開の 視点から、すべての科目（授 業科目・研修科目）が有機 的に編成されたカリキュラ ムを実施する拠点数（連 携大学・自治体）：5 拠点以上（第4期の最終 年度） 人文社会系運営管理課（教 育）	「理論と実践の往還」及び 長期的で組織的な学校拠点 のプロジェクト学習の展開の 視点から、すべての科目（授 業科目・研修科目）が有機 的に編成されたカリキュラ ムを実施する拠点数（連 携大学・自治体）	基準値：- (参考) [R3年度末：3拠点 対象期間：-	目標値：5拠点以上 (130%：6.5拠点以上) 対象期間：R9年度末	【目標値】4以上 【実施予定】過年度に引き続き教 師教育・教員養成改革の拠点に おける取り組みを推進しつつ、教 員養成フラグシップ大学のフ レームワークからさらなる拠点拡大 を目指す。	【実績値】7 昨年頃から新たに追加に加った富山国際大学のカリキュラム整備を進め、教職大 学院が大学の拠点（富山大学・秋田聖徳学園大学・富山国際大学）と教職員支援機構 NTFS構立の計4拠点で進めてきた芸術教育・教員養成改革を推進した。これに加え、 これまで連携してきた東京都板橋区・神奈川宮古島市とも新たに教員研修カリキュラ ムの刷新協議を行い、教員研修の充実及び高度化を進め、新たに新たに追加した協定内 締結に至り、向後期が本取組を進める新たな拠点に加わった。向後期では「理論と 実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の観点から、 すべての研修科目が有機的に編成されたカリキュラムの編成を実現している。また、石 川県加賀市とも教員研修カリキュラムの刷新協議を行い、新たに同内容を軸とする協定 締結に至った。結果、本取組の拠点数は合計で最大2倍に増えた。さらに、教員 養成フラグシップ大学のフレームワークに基づき他大学及び地域自治体との本取組 の拡大に向けた協働連携の協議を行い、これまで「教職員の資能力の向上」及び相互 の人的・物的資源の活用「学校教育」上の課題への対応について連携して きた長野県信濃教育会、福井県小浜市との教員研修カリキュラム改革の拠点連携協議 に着手し、本取組の拠点拡大の可能性を拓いた。なお、この一連の取り組みは教 員養成・芸術教育の国際共同連携にも拡張しており、連合教職開発研究科の国際（エ ンジブ）日本教育・パートナーシップ」と協定内の枠組みを通じて、エッジト国及イマ ウイ国の教員養成大学と上記カリキュラムの実現に向けた連携協定の実現にも結び ついている。 今後、各連携拠点との「学校拠点長期協働実践プロジェクト」の評価スケール」の共有可 能性も検討し、より一層の教員養成・教員研修の高度化を図っていく。	【実績値】5以上 【実施予定】過年度に引き続き教師教育・教 員養成改革の拠点における取り組みを推 進しつつ、教員養成フラグシップ大学のフ レームワークから拠点数以上から5以上へ の拡大を企図する。	人文社会系 運営管理課（教 育）	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ●令和6年度までに達成すべき目標値を すべて超えた数の拠点が開拓されている が、それぞれの拠点をそこに超える必然性 が今ひとつ感じられない（行き当たりばた りな拠点を開拓しているような印象が拭き えない）。今後は、単に拠点数を増やすだ けではなく、それらが十分に機能している のかどうかを検証しながら、拠点の精選も検 討すべきではないか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>
中期計画 (5)-1					中期計画の達成状況 人文社会系運営管 理課(教育)	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 中期計画の達成度 Ⅳ 【達成状況・成果】 教員養成フラグシップ大学の特別措置にもとづくカリキュラム弾力化により、大学院が カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合を 90%以上を実現し、その実施・実証に至った。同時に、学校拠点による院生のプロジェ クト学習を支える評価スケールを(1)大学教員評価、(2)院生自己評価、(3)院生所属校 管理評価、(4)院生所属校リーダー教員評価、の4者による多面的評価を実施した。 このうちカリキュラムと評価の高度化に伴い、大学3拠点と独立行政法人教職員支援 機構1拠点の計4拠点で進めてきた教員養成・教員研修カリキュラム改革を主眼とし、 産協連を東京都板橋区・中野区定立町、石川県加賀市と新たに締結し、拠点数7 に拡張するに至った。こうした一連の成果にもとづき、次年度に向けた大学院カリキュ ラムの円滑推進、評価スケールホルダー拡充を推進しつつ、日本全国の教員研修の高度 化及びそれに基づく「研修者の転機」を支えるネットワークを築いていく。	【評価結果】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅳ「計画を上回って実施している <コメント> ○(5)-1-1については必修化により100%に 近づけることを期待します。 ○1-1-1は、当初目標の1.3倍の8名超を 目標値を超過している。 ○1-1-2は、当初目標の1.3倍の7拠点超を 目標値を超過している。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等 がある ○(5)-1-1については必修化により100%に 近づけることを期待します。 ○教員養成フラグシップ大学特例を活 かしたカリキュラム改革・多地域連携・評価 改革といった複数の軸で構成された取組 の成果、日本の教育改革を牽引する先進 性を有している。 ○拠点数の実績値が目標値を大きく上 回っており、組織的取り組みの構築が顕 著な。今後は拠点数の増加による効果に対 する(多面的な)評価を充実すること、こ れら取り組みの意義を一層PRできると考 える。	評価指標に設定がない事項のコメント ●計画に課されている「地域における学校の 改革を牽引する4校の教員の実践力形成」 は、「評価指標に設定がない事項」に該当す ると思います。中核的教員の実践力形成がで きていることのエビデンスとして、当該教員が 他大学の活動によって得られている具体的成 果の事例を集めることを令和7年度に是非考 慮したいと考えています。 ○学校改革実践 研究報告(1)「学校拠点長期協働実践プロ ジェクトの評価スケール」での評価ではなく、 修了後に確かに地域の学校改革を牽引して いることをエビデンスの収集です。
中期計画 (5)-2		(5)-2-A 令和9年度までに産学官連 携本部や地域共創拠点（領 南地域共創センター）等の 学内の他部局の施設を利用 し、他の研究科・教職大 学院等と協働して多職種連 携した人材育成を行う仕組 み（講義の相互乗り入れ、 プロジェクトやワークショップ 等）を構築し、適 宜改善を実施	産学官連携本部や地域 共創拠点（領南地域共 創センター）等の学内 の他部局の施設を利用 し、他の研究科・教職 大学院等と協働して多 職種連携した人材育成 を行う仕組み（講義の 相互乗り入れ、プロ ジェクトやワークショ ップ等）を構築し、適 宜改善を実施	基準値：- (参考) 対象期間：- 対象期間：R4～R9の 期間中	目標値：構築・適宜 改善 対象期間：R4～R9の 期間中	【目標値】- 【実施予定】多職種連携の人材を 育成するため、他研究科生の受 講受入を開始する。	【実績値】- 【達成状況・成果】 令和7年度に設置が認められた看護学科の「後期課程」の教育課程において、国際 地域マネジメント研究科が連携する「異文化コミュニケーション」科目が新設され、同課 程の学生が履修できるようになった。 このことにより、令和6年度においては「他研究科生の受講受入」を行う履修制度が新た に整備された。 また、令和6年度には、経営戦略課の呼びかけで各研究科長が集った会議において、 国際地域マネジメント研究科は同研究科の関連科目のうち他研究科の学生を受入可能 な科目を他研究科に提示した。これを契機として研究科間で相互に提供が可能科目 目についての情報交換・意見交換が進展中である。	【目標値】- 【実施予定】多職種連携の人材を育成す るため、他研究科生の受講受入を実施する。	人文社会系 運営管理課（国 際）	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない <コメント> ○多職種連携による人材育成を実現す るため、新設された「異文化コミュニ ケーション」科目は、どのような工夫がなされて いるのか。 ●「多職種連携の人材を育成するため、他 研究科生の受講受入を開始する」との目 標に対して履修制度が整備されたことの実 績が、達成を意味しているが、より 明確な記載が必要と考える。 ●他の研究科が履修できる科目数や履 修者数に関する具体的な数値目標を設定 する必要があるのではないかと。 ○令和6年度に整備された「他研究科生 の受講受入」を行う履修制度について、令和 7年度は確実にそれを実施するよう配 慮ください。令和7年度に単位修得した学生 があらわれることが必要と存じます。 ○「令和6年度には、・・・国際地域マ ネジメント研究科は同研究科の関連科目のうち他 研究科の学生を受入可能な科目を他研 究科に提示した。これを契機として・・・情報 交換・意見交換が進展中である。」とある が、令和7年度に実績を上げること(科目 の相互提供の実施と、その上で受講生の 学生がB専攻の提供した科目の単位を修得) までたどり着けるのでしょうか。前期はもう始 まっています。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが、十分 ではない。 <コメント> ○「情報交換・意見交換が進展中」である が、どのように取り組むを追加させるか、に ついての記載があると、より説得力が増す と考える。 ○現状では「整備」に留まっており、改善(達 成)されたとは判断できない。 ○多職種連携の人材を育成するための取組 には意義があると思が、授業の開講形態や 開講時間帯が他の研究科とは異なるため、研 究科生の相互乗り入れを進めるのは容易なこ とではないだろう。看護学科が「異文化ミ ニケーション」科目に期待しているが、具体的 な目標値を設ける際には、一学年7名の小作 であること考えれば、毎年では4～5名程度で 設定などの工夫が必要かもしれない。	③前年度未達成の改善状況 2. 前年度に改善(達成)されていない コメント ○成行路路は言葉、構想・準備にとどま っており、「評価指標が改善された」と言いが たい。 ○現状では「整備」に留まっており、改善(達 成)されたとは判断できない。 ○多職種連携の人材を育成するための取組 には意義があると思が、授業の開講形態や 開講時間帯が他の研究科とは異なるため、研 究科生の相互乗り入れを進めるのは容易なこ とではないだろう。看護学科が「異文化ミ ニケーション」科目に期待しているが、具体的 な目標値を設ける際には、一学年7名の小作 であること考えれば、毎年では4～5名程度で 設定などの工夫が必要かもしれない。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			自己点検・評価結果 【全学内部留保】	令和7年度			取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	令和6年度 実施状況	【目標値】－ 【実施予定】・プログラム第1期生の2種免許取得状況を踏まえ、制度の検証を行い改善について検討する。 ・全学生が受講する各「教科授業研究」（金曜日1時間11履）後、令和6年度1年生（評価対象学年）に対し、特別支援学校2種免許取得プログラムの履修を推奨し、アンケートの結果、1履5名（特サプ）、1履3名（中等、初等）、2履23名（回答数93名）が履修したいと希望した（令和7年1月）。 ・特別支援教育免許取得プログラム履修説明会を実施し、その際のアンケート結果、令和6年度1年生においては特別支援学校免許取得希望者が50名いた（令和7年3月）。 ・実装化した特別支援教育プログラムについて、履修を促すべく、各種説明会を実施し、履修希望者のアンケートを実施した。		【目標値】20%以上 【実施予定】・プログラム第1期生の特別支援学校免許取得状況を踏まえ、取得者増に向け制度の検証を行い必要な改善を行う。	【目標値】20%以上 【実施予定】・プログラム第1期生の特別支援学校免許取得状況を踏まえ、取得者増に向け制度の検証を行い必要な改善を行う。					
	(6)-1-B 令和5年度までに特別支援学校2種免許取得プログラムを完成し、令和7年度までに複数免許取得プログラムの実装を完了 人文社会系運営管理課（教育）	①特別支援学校2種免許取得プログラム ②複数免許取得プログラム	基準値:- 対象期間:-	目標値:①②プログラムの実装 対象期間: ①R4～R5の期間中 ②R4～R7の期間中	【目標値】－ 【実施予定】・2種免許取得プログラムの本格運用開始 ・各能力キャリアを体系的に改善・整備方針を踏まえ、2種免許取得プログラムをベースに複数免許取得プログラムについて検討を開始する。	【実績値】 【実施状況・成果】 ・令和4年度入学以降の学生に対して特別支援学校2種免許取得プログラムおよび複数免許取得プログラムを策定し、Webサイトで周知（実施）。 ・全学生が受講する各「教科授業研究」（金曜日1時間11履）後、令和6年度1年生（評価対象学年）に対し、特別支援学校2種免許取得プログラムの履修を推奨し、アンケートの結果、1履5名（特サプ）、1履3名（中等、初等）、2履23名（回答数93名）が履修したいと希望した（令和7年1月）。 ・特別支援教育免許取得プログラム履修説明会を実施し、その際のアンケート結果、令和6年度1年生においては特別支援学校免許取得希望者が50名いた（令和7年3月）。 ・実装化した特別支援教育プログラムについて、履修を促すべく、各種説明会を実施し、履修希望者のアンケートを実施した。	【自己点検・評価】 ① ② ③ ④	【目標値】－ 【実施予定】・プログラム第1期生の2種免許取得状況を踏まえ、制度の検証を行い改善について検討する。 ・全学生が受講する各「教科授業研究」（金曜日1時間11履）後、令和6年度1年生（評価対象学年）に対し、特別支援学校2種免許取得プログラムの履修を推奨し、アンケートを実施。その結果、特別支援教育免許者のうち、1履5名（特サプ）、1履3名（中等及び初等教育コース）、2履23名（回答数93名）がそれぞれの履修の免許状取得を希望した（令和7年1月）。 ・特別支援教育免許取得プログラム履修説明会を実施し、その際のアンケート結果、令和6年度1年生においては特別支援学校免許取得希望者が50名いた（令和7年3月）。	【自己点検・評価】 ① ② ③ ④	【目標値】20%以上 【実施予定】・プログラム第1期生の特別支援学校免許取得状況を踏まえ、取得者増に向け制度の検証を行い必要な改善を行う。	人文社会系運営管理課（教育）	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない <コメント> ②2種免許取得プログラムについては、計画が順調に推移しているようだが、令和7年度までに実装を完了しなければならない複数免許取得プログラムの策定に向けた作業の進捗状況が判然としない。 ○実施予定に「複数免許取得プログラムについて検討を開始する」とあるが、開始したことが読み取れないため 2 とした。	②改善方策等の策定状況 3. 改善方策等が策定されていない <コメント> ○複数免許取得プログラムについて検討を開始したことが読み取れない。今後、それとにのよに対応するかも示されているため 3 とした。	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>		
	(6)-1-C 教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率：25%以上（第4期の最終年度） 人文社会系運営管理課（教育）	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	基準値:- (参考) R6年度:15.2%（教育学部） 対象期間:-	目標値:25%以上 (130%:32.5%以上) 対象期間:R9（本年度）	【目標値】15%以上 【実施予定】・従来の免許要件による免許取得希望者に対し丁寧な支援を行う。 ・プログラム利用状況を踏まえ、取得学生増加に向け働きかける。	【実績値】19.4 【実施状況・成果】 ・令和6年度卒業生のうち、特別支援学校教員免許1種取得者は20名、2種取得者は10名、卒業生は103名（本年度末）。 ・教育学部HPおよび教務情報Webサイトを通じて特別支援学校免許のニーズ及び2種免許取得プログラムについて周知、新入生ガイダンス及び大学教育入門セミナーでの利用ガイダンスを実施。 ・全学生が受講する各「教科授業研究」（金曜日1時間11履）後、令和6年度1年生（評価対象学年）に対して、特別支援学校2種免許取得プログラムの履修を推奨し、アンケートを実施。その結果、特別支援教育免許者のうち、1履5名（特サプ）、1履3名（中等及び初等教育コース）、2履23名（回答数93名）がそれぞれの履修の免許状取得を希望した（令和7年1月）。 ・特別支援教育免許取得プログラム履修説明会を実施し、その際のアンケート結果、令和6年度1年生においては特別支援学校免許取得希望者が50名いた（令和7年3月）。	【自己点検・評価】 ① ② ③ ④	【目標値】20%以上 【実施予定】・プログラム第1期生の特別支援学校免許取得状況を踏まえ、取得者増に向け制度の検証を行い必要な改善を行う。	人文社会系運営管理課（教育）	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>				
中期計画 (6)-1					中期計画の達成状況 人文社会系運営管理課（教育）	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】 【達成状況・成果】 ・教員養成フラグシップ大学指定大学が加える独自の「フラグシップ科目」5科目の設計とともに、教職科目の再編成と一部教科の免許要件単位見直しにより、小・中・もしくは小・特支2免許取得可能かつ、免許要件59単位内で実現できるシナミな教職課程編成を行い、令和6年度教育学部新カリキュラムを策定した。これにより、義務教育9年間を包摂し、児童・生徒主体の学びを実現するとともに「令和の日本型学校教育」の推進を担うことのできる教員養成のカリキュラムを令和6年度新入生から本格稼働した。 ・令和6年度教員講習開設事業費等補助金 地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部との機能強化事業において、本部が提出した「ふくい（湖南モデル）地域共創で実現する教員養成革新イニシアティブ」が採択された。 ・教育学部の取組「地域教育委員会と連携した湖南地域人材入試と湖南地域教育プログラム」において、中学生からの教員希望者を発掘するために、中・高・大・県教委連携事業「福井県教職魅力発信プロジェクト」を開始。県教委の評価が高く、次年度以降も連携継続予定。 ・大学入試、入学前教育、在学中の教育プログラム、そして、福井県の湖南採用枠の策定によって、一連の湖南地域の教員養成システムが完成した。 ・学部卒業業者進路状況:「正課教員」R6年度52名（R5年度44名、R4年度36名）、「臨時任用・講師待ち含む教員」R6年度62名（R5年度66名、R4年度51名）、「大学院進学」R6年度7名（R4年度6名、R4年度1名）。 ・特別支援学校免許取得プログラム、中学校教科2種免許取得プログラムについて引き続きHP、新入生ガイダンス、入門セミナー等で周知するとともに、令和7年度に向けて、履修条件に該当する1年次生を対象に各種説明会を実施した。 ・令和6年度卒業者の特別支援学校免許取得率は19.4%であり、目標値15%以上を達成。 【特記事項】 ・教員養成フラグシップ大学指定大学が加える独自の「フラグシップ科目」5科目の設計とともに、教職科目の再編成と一部教科の免許要件単位見直しにより、小・中・もしくは小・特支2免許取得可能かつ、免許要件59単位内で実現できるシナミな教職課程編成を行い、令和6年度教育学部新カリキュラムを策定し、実施をした。なお、フラグシップ科目である「STEAM・総合探究」及び「地域実践演習」においては、講義を円滑にするために、「担当者会議」を設置するとともに、「STEAM・総合探究」については、STEAM・LABOを創設し、同講義で使用する教材等を充実させた。本・LABOは地域共創にも積極的に利用した。 ・令和6年度教員講習開設事業費等補助金 地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部との機能強化事業において、本部が提出した「ふくい（湖南モデル）地域共創で実現する教員養成革新イニシアティブ」が採択された。大学入試、入学前教育及び在学中の教育プログラムの整備が進み、そして、令和8年度県の湖南採用枠の策定（令和7年2月公表）によって、一連の湖南地域の教員養成システムが完成した。なお、本補助金で教員を養成し、湖南地域教育プログラム科目「湖南地域PA科」「地域実践演習（湖南）」「教育実習（湖南）」に加え、STEAM・LABOの担当として配置する等し、講義の円滑実施や湖南地域でのSTEAM教育連携（地域共創）に当たることした。 ・令和6年度卒業者の特別支援学校免許取得率は19.4%であり、目標値15%以上を達成している。	【評価結果】 【達成状況・成果】 ・令和7年度 中期計画の達成状況	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 重：計画を十分に実施している <コメント> ●評価指標となっていない中期計画記載の取組として「インクルーシブ教育の推進」が謳われているが、この点については、全員の教員を確保する点を踏まえて先進的な教育が実践されていることをアピールできているのではない。 ○教育委員会との連携による湖南地域での取り組みは、中・高・大の接続、教員の養成・採用・研修の一体等の数々の意義を持つもので、全国のモデルとなる取り組みと見える。 ○(6)-1-Aに関しては「教員になった卒業生の活躍を示すエビデンス」、(6)-1-Bについては「免許取得者数の多さ」、(6)-1-Cについては「教員としての成績評価が良好であること」を示せること、優れた実績・成果として評価される可能性がさらに増すと思いますが、それらの状況は如何でしょうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○いずれの取組の組みも、概ね順調に推移していると考える。特別支援学校教諭の免許状取得率については、今後の伸びに懸念が残るが、アンケート結果からは比較的に多くの希望者がおり、これら希望者のモチベーション維持が重要と考える。	評価指標に設定がない事項のコメント					

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果 (全学内部監査)	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況		実施予定	実施状況		④達成度	⑤優れた実績・成果等の有無	③前年度未達成の改善状況
中期計画(6)-2	第3期に導入したアウトカム基盤型教育の推進により、医学・看護学教育の全国的な基盤とされる分野別評価の受審と、それぞれの教育プログラム(カリキュラム、教育課程)の更なる高度化を目指し、PDCAによるアウトカム・コンピテンシー及びカリキュラムの点検と改善を推進し、学生のアウトカム・コンピテンシー達成度を向上させる。	(6)-2-A	医学・看護学教育の国際認証・分野別認証	基準値:- 対象期間:-	基準値:認証取得 対象期間:R4～R9の期間中	【目標値】- 【実施予定】看護教育分野別認証受審に向けた自己点検評価の実施(未定)	【実績値】 【実施状況・成果】 ・【実施状況・成果】 「医学教育分野別評価(令和5年度受審済)」について、日本医学教育評価機構(JACME)より、評価基準に適合していることが認定された(認定期間は2024.10.1～2031.3.30)。 ・看護学教育分野別評価(R7受審予定)自己点検評価報告書作成 ・自己点検の結果、看護Rダッシュボード作成 医学教育分野別評価においては、F.CESS(臨床教育支援システム)の実用内での活用、卒業時に身につけるべき能力(コンピテンシー)に偏見医療力を含めている点などが、評価できる取組みと認定された。 なお、これを踏まえて、看護学教育分野別評価での自己点検評価報告書においても、F.CESS Nurseの臨床実習での活用、看護学教育においてもアウトカム基盤型教育体制を敷いていること、早期からのキャリア教育科目の活用などの取組みを、本学の特色として取り上げ、定められた項目(計36項目)についての自己点検を行いつつ評価報告書を取りまとめた。同報告書は、機構から提示されたスケジュールに基づき、年度末の3月に機構への専案提出を行った。 併せて、令和6年度以降構築を進めてきた、主要Rデータ等を教員へ表示するツール(Rダッシュボード)に、看護学科生に関するデータの追加を行った。医学部教育支援センターのホームページに入り口を置き、医学系部門教員が内容を閲覧することができる。 【改善方針(目標値未達成の場合)】 医学科については達成、引き続き、令和7年度受審予定の看護学教育分野別評価での認証取得に向けて、看護学教育の自己点検及び受審準備を進める。 【自己点検・評価】 1)1、2)3、3)4	【目標値】- 【実施予定】看護教育分野別認証評価受審	【実績値】 【実施状況・成果】 【目標値】 【実施予定】看護教育分野別認証評価受審	【評価結果】 【自己点検・評価】	【目標値】 【実施予定】看護教育分野別認証評価受審			
	松岡キャンパス学務課													
中期計画(6)-2	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合が、初年度(医学科、令和5年度、看護学科、令和4年度)より増加(第4期の最終年度)	(6)-2-B	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合	基準値: (医学科)R5の数値 (看護学科)92% 対象期間: (医学科)R5 (看護学科)R4	目標値:(医学科・看護学科)基準値組(130%) 医学科:83.5%超 看護学科:- 対象期間:R9(単年度)	【目標値】(医学科)令和5年度より増加、(看護学科)92.1%以上 【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施	【実績値】(医学科)77.5%、(看護学科)95.9% 【実施状況・成果】 令和5年度に実施したアウトカム達成度自己評価結果に、カリキュラム評価アンケートの結果を併せて分析し、それぞれの学科において、評価値の低かった以下の分野について、教育内容のブラッシュアップを図った。また、年度計画通り、令和6年度末にもアウトカム達成度自己評価(本目標の評価指標)調査を行ったが、結果においては、医学科は「できる」「ある程度できる」の回答率が前年度64.2%を大きく上回り77.5%に、看護学科においても92.1%が上昇し95.9%となった。特に医学科においては、高学年科目での教育内容ブラッシュアップを行ったこともあり、令和6年度中の取組が指標の改善の一要素であると分析している。 (医学科):診療の実践(4年次～6年次)、地域医療(1～5年次) ・診療の実践については、臨床実習委員会において、学生が必ず学ぶべき症例・症例・医行為を整理し、各診療科への案内用紙を作成した。内容は、F.CESS上及び臨床実習要項に掲載・明示し、教員・学生の双方へ見える化及び周知を行った。 ・地域医療については、医学科4年「社会と医学・医療Ⅱ」内で、保健所の働きを深く取り取りけるべきを新設したほか、保健所実習を全員必修で中実習を行った。また、医学科5年次に、①地域の診療所や事業所・高齢者施設 ②福井医科大学のハバリアーション学科を訪問しての合同授業・実習を二本柱とする「地域包括ケア実習(診療参加型臨床実習Ⅰの一部)」を追加実施した(参考:地域医療は、計画(6)-3-Aにも記載) (看護学科):英語(1年次)、地域医療のうちへき地医療(2年次～4年次) ・英語については、看護学科において真に求められるレベル(アウトカム設定)を再度検討することになった(令和7年度自己評価委員会看護学科専門部会)。 ・へき地医療については、看護2年生前期「保健医療福祉論」において、保健師実務経験を持つ教員による、福井県及び県内市町におけるへき地医療に関する具体的な取り組み事例の講義を追加した。 【自己点検・評価】 1)1、2)3、3)4	【目標値】(医学科)令和5年度より増加、(看護学科)92.1%以上 【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施	【実績値】(医学科)77.5%、(看護学科)95.9% 【実施状況・成果】 令和5年度に実施したアウトカム達成度自己評価結果に、カリキュラム評価アンケートの結果を併せて分析し、それぞれの学科において、評価値の低かった以下の分野について、教育内容のブラッシュアップを図った。また、年度計画通り、令和6年度末にもアウトカム達成度自己評価(本目標の評価指標)調査を行ったが、結果においては、医学科は「できる」「ある程度できる」の回答率が前年度64.2%を大きく上回り77.5%に、看護学科においても92.1%が上昇し95.9%となった。特に医学科においては、高学年科目での教育内容ブラッシュアップを行ったこともあり、令和6年度中の取組が指標の改善の一要素であると分析している。 (医学科):診療の実践(4年次～6年次)、地域医療(1～5年次) ・診療の実践については、臨床実習委員会において、学生が必ず学ぶべき症例・症例・医行為を整理し、各診療科への案内用紙を作成した。内容は、F.CESS上及び臨床実習要項に掲載・明示し、教員・学生の双方へ見える化及び周知を行った。 ・地域医療については、医学科4年「社会と医学・医療Ⅱ」内で、保健所の働きを深く取り取りけるべきを新設したほか、保健所実習を全員必修で中実習を行った。また、医学科5年次に、①地域の診療所や事業所・高齢者施設 ②福井医科大学のハバリアーション学科を訪問しての合同授業・実習を二本柱とする「地域包括ケア実習(診療参加型臨床実習Ⅰの一部)」を追加実施した(参考:地域医療は、計画(6)-3-Aにも記載) (看護学科):英語(1年次)、地域医療のうちへき地医療(2年次～4年次) ・英語については、看護学科において真に求められるレベル(アウトカム設定)を再度検討することになった(令和7年度自己評価委員会看護学科専門部会)。 ・へき地医療については、看護2年生前期「保健医療福祉論」において、保健師実務経験を持つ教員による、福井県及び県内市町におけるへき地医療に関する具体的な取り組み事例の講義を追加した。 【自己点検・評価】 1)1、2)3、3)4	【目標値】(医学科)令和5年度より増加、(看護学科)92.1%以上 【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施	【評価結果】 【自己点検・評価】	【目標値】 【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施		
	松岡キャンパス学務課													
中期計画(6)-2					中期計画の達成状況 松岡キャンパス学務課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 【達成状況・成果】 看護学教育分野別評価について、令和6年4月下旬の説明会を皮切りに、看護学科教員の全員をいづれかの評価基準へ振り回し、自己点検を教員協働で進め、機構からのスケジュール通り令和7年5日に自己点検評価報告書の専案を提出した。医学教育分野別評価については、正式に評価基準に適合していることが認定された。また、令和5年度に学生対象に実施したアウトカム達成度自己評価調査結果を分析し、アウトカム達成度が低いコンピテンシー(地域医療、医学科の診療実践)においては令和6年度中に教育内容のブラッシュアップを行った。卒業時における学生の達成度自己評価における評価指標のベースとなるアンケートを令和5年度に引き続き実施し、医学科(令和3年度基準値)では評価が向上、看護学科(令和4年度が基準値)において、わずかに上昇という結果となっており、特に医学科においては、高学年科目での教育内容のブラッシュアップを行った事から、同取組が指標の改善の一要素であると分析している。 【特記事項】 令和4年度に立ち上げた、教学Rデータを教育プログラムの点検を目的に一元化した「医学教育プログラムダッシュボード」については、看護学教育分野についてのデータの追加を行った。	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	【評価結果】 【自己点検・評価】	【目標値】 【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施				
										④達成度 期:計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○いずれの取組も順調に進展している。医学科の学生アンケートの急激な改善の原因について「高学年科目での教育内容のブラッシュアップ」に分析しており、この分析結果を活用した変化する教育内容の充実と、看護学教育での活用(改良)が必要と考える。 ○学生評価を教育内容の改善につなげ、それが学生評価への高さにつながる好循環が生まれている。	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>		

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果 (全学内部調査)	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	令和6年度 実施状況		実施予定	実施状況		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
	中期計画(6)-3 地域社会を幅広く診る能力を持った総合内科・総合診療医や看護師の育成、感染症に対する高度な知識と感染制御の基本かつ重要な手技を身につけた医療人の養成を目指すし、地域包括医療・ケアの実践・育成プログラムを開発すること等により病院・診療所のみならず、地域社会の総合診療の学びを推進すると共に、医療部・附属病院の連携による感染症教育を推進し、これからの地域医療や感染症医療を第一線で担える医師・看護師の養成を実現する。 松岡キャンパス学務課	(6)-3-A 地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数：初年度より増加（第4期の最終年度） 松岡キャンパス学務課	地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数	基準値：R4の数値（参考） 第3期実績なし 対象期間：R4	目標値：基準値超（130%：3.9件超） 対象期間：R9（6年度）	【目標値】継続を含む3件以上 【実施予定】地域医療、感染症教育に関するカリキュラム新設や新たな取組の実施	【実績値】 【実施状況・成果】令和6年度には、令和4年度に立ち上げた3件の取組を継続した上で、以下の新たな取組もを行った。 この結果、第4期期間を通じての達成目標である新規4件を上回る、期間中で計8件の新規取組実績となった。 (地域医療)2件 ・医学科4年：社会と医学・医療Ⅱでの保健所実習の必修化 ・医学科5年：診療参加型臨床実習Ⅰの一部を確保し、全員を対象とした地域包括ケア実習を実施(①地域の診療所や事業所・高齢者施設 ②福井医療大学のリハビリテーション学科を訪問しての合同授業・実習の二本柱で構成) (感染症)3件 ・看護学科1年：療養生活援助論での個人防護具着脱実習導入 ・看護学科2年：疾病論Ⅰ「疾病論Ⅱ」「ヘルスアセスメント論」「リスクマネジメント論」の4科目について、感染症教育講義を強化 ・看護学科3年：看護倫理において、感染症に関連する講義を追加 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】継続を含む3件以上 【実施予定】地域医療、感染症教育に関するカリキュラム新設や新たな取組の実施	松岡キャンパス学務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●実績値の記載が認められなかったが、実施内容の記載から、達成と判断した。 ●実績値の記述に重複が見られる。5件の新規取組については、もう少し詳細な説明があってもよいように思う(特に「講義を強化」「講義を追加」といった表現については、加筆が望まれる)。 ●R5年度新規3件、R6年度はR5年度の3件を継続し、さらに新たに5件、という理解でよいでしょうか？	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている ＜コメント＞	
	(6)-3-B 地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)：初年度より向上(第4期の最終年度) 松岡キャンパス学務課	地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)	基準値：未定(医学科(地域医療)、未定(医学科(感染症)、4.24(看護学科(地域医療))、4.628超 看護学科：地域医療5.512超/感染症5.421超 対象期間：R5(医学科)、R4(看護学科)	目標値：基準値超(130%) 医学科：地域医療5.07超/感染症4.628超 看護学科：地域医療5.512超/感染症5.421超 対象期間：R9(6年度)	【目標値】(医学科)地域医療／3.91以上 感染症／3.57以上 (看護学科)地域医療／4.25以上 感染症／4.18以上 【実施予定】アンケート内容の検討及びアンケートの実施	【実績値】(医学科)地域医療／3.96 感染症／3.77 (看護学科)地域医療／4.31 感染症／4.28 【実施状況・成果】令和6年度には、(6)-3-Aに記載の取組を新規に実施した上で、令和5年度と同じ設問内容のアンケートを行った。アンケート結果は、医学科、看護学科ともに、コンピテンシー達成率が基準値を上回った。 内訳を見ると、医学科の地域医療教育のうち1年生の地域医療早期体験プログラム、6年生次の診療参加型臨床実習Ⅰ・Ⅱ(地域包括ケア実習)、感染症教育のほとんどの科目での評価が改善した。反対に、地域医療教育のうち4年生の地域医療学、社会と医学・医療Ⅱ、感染症教育のうち2年生の感染症診断実習、4年生の感染症学については、評価が下降しており、次年度に向けて引き続き分析が必要である。 看護学科では、ふくい看護力(地域医療)のうち2年生のふくい在宅看護論、3年生の在宅看護実習、感染症科目の多くにおいて評価が上昇した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】(医学科)地域医療／3.91以上 感染症／3.57以上 (看護学科)地域医療／4.25以上 感染症／4.18以上 【実施予定】アンケート内容の検討及びアンケートの実施	松岡キャンパス学務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○医学科の目標値が令和5年度から下方修正されている点に気が付いた。令和6年度までに目標値を達成できるのだろうか？加えて気になったのは、ここでもやはり医学科のコンピテンシー達成度(学生アンケート)が低い点である。令和7年度に実施が予定されているが、アンケート内容の再検討も含めた要因分析が必要であるように思える。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている ＜コメント＞ ○医学科の目標値が令和5年度から下方修正されている点に気が付いた。令和6年度までに目標値を達成できるのだろうか？加えて気になったのは、ここでもやはり医学科のコンピテンシー達成度(学生アンケート)が低い点である。令和7年度に実施が予定されているが、アンケート内容の再検討も含めた要因分析が必要であるように思える。		
	中期計画(6)-3	中期計画の達成状況 松岡キャンパス学務課				中期計画の達成状況 松岡キャンパス学務課	【法人評価対応】令和6年度 中期計画の達成状況	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】地域医療、感染症教育に関する新たな取り組みについては、令和4年度に立ち上げた3件の取組を継続した上で、新たに5件の取組を行った。医学科では主に高学年を中心に地域医療実習の強化を行い、看護学科においては感染症科目について医学を含めて体系的に内容の強化・感染症関連の講義の増加を行った(6-3-A)。また、地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度の調査を継続して行い、令和5年度の結果に比べて、医学科、看護学科の両方とも評価がやや上昇した(6-3-B)。上昇した科目のうち、医学科高学年での地域医療科目、看護学科の感染症教育全般については、取組の実施も一要素である可能性が考えられる。一方、医学科、看護学科それぞれにおいて評価が前年度より下降した科目については、追加で検証が必要である。 【特記事項】地域医療、感染症教育に関する新たな取り組みについては、第4期中の目標値を達成した。	【評価結果】 【法人評価対応】令和7年度 中期計画の達成状況		④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している ＜コメント＞	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○アンケート結果の評価が下降した科目について、その要因分析が急がれる。また、これらの取り組みが中期計画の「これからの地域医療や感染症医療を第一線で担える医師・看護師の養成の実現」に如何に寄与しているかの関連付けが肝要と考える。 ○アンケート結果を、数値の達成に留めず、教育の改善及び高度化につなげ明示化できれば、優れた実績・成果になると思われる。	評価指標に設定がない事項のコメント	

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【教育】

○：学外公開、評価者による所感、今後の参考など
●：学外公開、部局に具体の対応や検討を依頼するもの

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度 令和6年度 実施状況	自己点検・評価結果(全学 内部質保証委員会)	令和7年度 実施予定	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価シート		
中期目標(7)	中期計画(7)-1	(7)-1-A	正規留学生数	基準値:118名 対象期間:1H28~H3 の平均値 (各年度5月1日時点)	目標値:基準値超 (130%:153.4名超) 対象期間:H9(最終年度)	【目標値】正規留学生数を第3期の年平均(118名)より増 【実施予定】1) 留学フェアに積極 的に参加するとともに、日本語学校 や工業専門学校に向けたオンライン 説明会を開催することにより、優秀 な正規留学生をリクルートする。 2) 各学部、に相応しい形で優秀 な正規留学生の受入数を増やすた めの計画を遂行する。	【実績値】106 【実施状況・成果】 1) 学術的な取組として、以下の取組を行った。 ・日本語フェアに積極的に参加し、大学及び学部等の紹介を行った(東京・大阪、カンボジア、マレーシア等)。本学ブース訪問者にはアンケート回答を依頼し、フェア終了後も奨学金等の案内メールを送付するなどして、正規留学生獲得に繋げるようフォローアップを行っている。 ・グローバル・エンゲージメント推進本部(IGE)において優秀な正規留学生獲得のための学内旅費支援を行い、11事業に対し総額約2,600,000円を支え、本学教員による学術交流協定校や学会等での留学生のリクルート活動や関係強化に係る取組も支援した。 ・学生リーダーシップにより正規留学生獲得プロジェクトチームが設置され、正規留学生獲得に係る具体的な方策について教職協働、部局協働で議論を行った。プロジェクトチームによる報告書は各学部教授会に共有され、学部等単位の目標獲得数を示した上で、今後はIGEの支援により、各部局にも協力を仰ぎ、確実な目標達成に向け取り組むこととした。 2) 各部局で立案した計画に沿って、以下の取組を行った。 (教育学部・教職大学院) ・令和6年度部局配分事業として、以下の大学等と正規留学生獲得及び交流に向けた協議を行った。(★は特に獲得可能性の高い大学) ・アメリカのワイオミング大学、ニューヨーク州立大学、ニューヨーク州立大学コートランド校★、フィリピン教育省、フィリピン教育大学、JICAフィリピン事務所、バトナムの東南アジア教育大臣機構(SEMEO)地域教育センター、バトナム国内の大学関係者、マクワイのナリクレ教員養成大学★、在マクワイ日本国大使館、JICAマクワイ事務所 ・アメリカのカリフォルニア州、マーセッドカレッジ、UCマーセッド、スタンフォード大学を訪問し、正規留学生獲得及び交流に向けて協議を行った。そのうち、マーセッドカレッジ卒業生の本学編入による正規留学生獲得の可能性が見出され、同カレッジと今後の留学に係る協働調査及び研究交流を含んだMOUを締結することになった。 ・エジプト政府と協議を行い、エジプト政府から教職大学院に正規留学生を受け入れることで合意した。2024年11月にエジプト国内から3名の応募があったが、エジプト国内の進考で承認が下りず不調に終わった。今後は2026年4月入学を目指し、手続きを進める予定である。 ・国際協力機構(JICA)と協議を行いマクワイ共和国から教職大学院に正規留学生を1名を受け入れることで合意した。各種手続きを行い、2025年4月に教職大学院に1名の正規外国人留学生が入学予定である。 (医学部・医学系研究科) ・正規生のリクルート活動を行い、令和7年度にさらに2名の正規外国人留学生が入学予定である。 ・医工連携によるカナダ・オタワ大学医学部との国際研究交流に向けた協議を行い、新たな医工連携・国際共同研究コンソーシアムが発足した。 ・フランス・ソルボンヌ大学医学部(16年4月)、韓国脳科学研究所(16年8月)との学術交流協定を締結した。 (工学部・工学研究科) ・令和5年度からベトナム・ハノイ工科大学ツィンギン・プログラムの日本コンソーシアムに参加し、令和6年度も2名の編入学生を獲得した。 ・複数の講席がJICA長期研修コースの受入希望調査に登録し、加えて、教授会でマッチング制度の説明を行うなど教員側の理解促進に努め、令和6年度に1名の入学者に繋がった。 ・工学部創立100周年記念大会に出席した協定校を訪問し、現地教員や事務担当者と面談して両部局の関係の強化を図るほか、正規留学生獲得に関するプロモーションとして、現地学生に対する留学説明会やミニ講義を行い本学への留学をアピールするとともに、現地学生らの留学に対する意識や課題について聞き取りを行った。説明会等でも現地学生から留学に前向きな質問を多く受けることができ、潜在的な需要を十分感じられ、今後の留学生数確保への効果が期待できる。	【目標値】正規留学生数を第3期の年平均(118名)より増加 【実施予定】1) 留学フェアに積極的に参加するとともに、日本語学校や工業専門学校に向けたオンライン説明会を開催することにより、優秀な正規留学生をリクルートする。 2) 各学部、に相応しい形で優秀な正規留学生の受入数を増やすための計画を遂行する。	国際課	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない <<コメント>> ○多くの取組をされているにも拘らず、達成が難しい状況にあり、学生数目標の達成に向けて次の方策をご検討ください。 ○PTでよく議論された内容だと思います。全学を挙げて目標値の必達が必要不可欠であると思います	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが、十分ではない <<コメント>> ○最終年度が評価年度となっていないので、厳しい状況ですが、数値目標の達成に向けて次の方策をご検討ください。 ○令和7年の実施予定については、IGE運営委員会が審議されたよりなにより詳細な計画について追記してよいと思います。また論文博士取得を目指している海外の大学からの研究生については正規生の数値に加えることができないでよ 分。 →研究生を正規生扱いするのは困難。 ○正規留学生獲得プロジェクトチームで検討された正規留学生獲得に係る具体的な方策を推進していただきたい。 ○様々な改善策が多方面との協力のもと策定・実施されており、今後に期待。	③前年度未達成の改善状況 2. 評価指標が改善(達成)されていない <<コメント>> ○最終年度が評価年度となっていないので、厳しい状況ですが、数値目標の達成に向けて次の方策をご検討ください。 ○厳しい状況であると思います。KPIに必達のために随時数値をフォローしながら、出来る対策を全て講じる必要があると思われるです。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価シート		
						実施予定	令和6年度 実施状況	自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）	実施予定		令和7年度 実施状況	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況
		(7)-1-B 正規留学生の満足度（正規留学生を対象としたアンケート）：初年度より向上（第4期の最終年度） 国際課	正規留学生の満足度（正規留学生を対象としたアンケート）	基準値：8.89 対象期間：R4	目標値：基準値超（130%～） 対象期間：R9（単年度）	【目標値】総合評価 8.9/10点 【実施予定】1)正規留学生の満足度に関するPDCAサイクルを回しながら、満足度の向上に継続して取り組む。 ・満足度アンケートの評価結果をもとにPDCAサイクルの「改善（Action）」として、イベントの内容や運営方法を見直し、より留学生のニーズに合ったセミナーやイベントを企画・実施したことで、参加者数や満足度の向上につながった。 ・昨年に引き続き、金沢大学が幹事校となっている「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」及び「北陸未来共創フォーラム Link KAGAYAKI ワーキンググループ」に参画し、准拠大学が実施する外国人留学生向けの企業見学会、合同企業説明会、留学生発表、キャリア教育・インターンシップに関するオンライン講義に本学学生が参加した。また、留学生の就職支援を目的とした就活セミナーとして、令和6度は留学生の就職事情により精選した企業を選定したことで、参加留学生数が昨年より増加し、さらにセミナー参加者からは内容について高い評価が寄せられた。 ・令和6年度以降の新規事業として、行政書士による在留資格に関する講演会と県内留学生による交流会の実施を決定した。令和6年度に新設されたFUKUI外国人材受入サポートセンターへ講演について依頼したところ快諾いただいたため、県内留学生による交流会と併せて開催したところ、イベント後のフィードバックで高評価を得た。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【実績値】総合評価 9.16/10点 【実施状況・成果】 ・昨年度に引き続き正規課程に在籍する外国人留学生を対象に、10月9日～12月31日の期間、オンラインの満足度アンケート調査を実施した。集計の結果、「学習支援について」9.28/10点（RSから0.13ポイント上昇）、「留学生向け教育について」9.41/10点（0.08ポイント上昇）、「学生交流について」9.16/10点（0.1ポイント下落）、「生活支援について」9.34/10点（0.19ポイント上昇）、「就職支援について」8.88/10点（0.31ポイント下落）、「総合評価」9.16/10点（0.06ポイント下落）と、学習生活支援や留学生向け教育項目は前年度から上昇している。一方、学生交流及び就職支援については、低評価を付けた学生が複数あり、改善を要する点を把握することができた。 ・満足度アンケートの評価結果をもとにPDCAサイクルの「改善（Action）」として、イベントの内容や運営方法を見直し、より留学生のニーズに合ったセミナーやイベントを企画・実施したことで、参加者数や満足度の向上につながった。 ・昨年に引き続き、金沢大学が幹事校となっている「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」及び「北陸未来共創フォーラム Link KAGAYAKI ワーキンググループ」に参画し、准拠大学が実施する外国人留学生向けの企業見学会、合同企業説明会、留学生発表、キャリア教育・インターンシップに関するオンライン講義に本学学生が参加した。また、留学生の就職支援を目的とした就活セミナーとして、令和6度は留学生の就職事情により精選した企業を選定したことで、参加留学生数が昨年より増加し、さらにセミナー参加者からは内容について高い評価が寄せられた。 ・令和6年度以降の新規事業として、行政書士による在留資格に関する講演会と県内留学生による交流会の実施を決定した。令和6年度に新設されたFUKUI外国人材受入サポートセンターへ講演について依頼したところ快諾いただいたため、県内留学生による交流会と併せて開催したところ、イベント後のフィードバックで高評価を得た。	【目標値】総合評価 8.9/10点以上 【実施予定】1)正規留学生の満足度に関するPDCAサイクルを回しながら、満足度の向上に継続して取り組む。	国際課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している。 <コメント> ●正規留学生募集にこの数値を活かせる場面はないので、例えば、まず、福井大学の英語と中国語のホームページのトップに「留学生満足度〇〇」と載せましょう。 ○国際交流についての広報にもこの数値を活かせるのではないかと思います。また現状に満足せず、今後もこの実績を学内外のステークホルダー、留学希望者により積極的にアピールする必要があると思います。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>	
	中期計画 (7)-1				中期計画の達成状況 国際課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 ・正規留学生数について達成できていない状況にある。しかし、令和5年度比で僅かながらも数値の増加が見られた。令和6年度に設置された正規留学生獲得プロジェクトチームにより、正規留学生獲得に係る具体的な方策が示されたことを受け、これをもとに、今後優秀な留学生の受入・支援体制の整備、留学生への支援体制の整備等をより一層推進していく。 ・正規外国人留学生の満足度向上を図るため、学習支援、留学生向け教育、学生交流、生活支援、就職支援の5項目の指標による満足度調査を実施し、具体的な改善点の洗い出しを行った。学生交流及び就職支援について低評価を付けた学生が複数いたことから、今後は要因分析を行い、改善に繋がる対応を検討・実施していく。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅱ. 計画を十分に実施していない。 <コメント> ○引き続き、正規留学生数の確保に向けた取り組みを進めていきたい。 ○令和7年度からの新たな取組に注視する必要があると思います。 ○評価指標の一つが複数年連続して達成できていないことから、「Ⅱ. 評価を十分に実施していない」と判断する。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○留学生数は達成に至っていないが、満足度は高い状況にある。このあたりの見え方を工夫できないか。 ○学生交流及び就職支援についての低評価について要因分析を行い、改善に繋がる対応を検討・実施していただくことなど。優れた実績・成果に繋がる取組等がある。可能性はあると考えます。	評価指標に設定がない事項として、 （優秀な留学生の受入・支援体制の整備、留学生への支援体制の整備及び留学生の満足度を総合的に評価する評価指標の構築）という計画に沿った実施状況の報告をお願いします。 ●評価指標に設定がない事項として、 （受入・支援体制の整備）、（留学生への支援体制の整備）、（留学生の満足度を総合的に評価する評価指標の構築）が申告されています。そのうち「受入・支援体制の整備」、（留学生への支援体制の整備）については今後の課題としていっていますが、令和7年度中に取り組んで何らかの形にしたいと思っています。	
	中期計画 (7)-2	(7)-2-A ポストコロナ時代に向けて、オンラインを含む多様な国際交流プログラムを構築すること、日本人学生が世界に貢献し得る英語運用能力と国際応用性を高めるグローバルに活躍する卓越高度専門職業人を育成することを目指す。国際課の多様な評価、その評価結果を教育改善にフィードバックする体制の構築、その体制の中核となる語学センターを発展させたグローバル人材育成研究センター（仮称）の設置を実現する。 国際課	グローバル人材育成研究センター	基準値：- 対象期間：-	目標値：センターの設置 対象期間：R4～R9の期間中	【目標値】グローバル人材育成研究センターを設置し、学生の国際通用性を高める教育を実施している。 【実施予定】1)グローバル人材育成研究センターが中心になり、学生の国際通用性向上のためにPDCAサイクルを回して学生の国際通用性を高める教育を行っている。	【実績値】グローバル人材育成研究センターを設置し、学生の国際通用性を高める教育を実施している。 【実施状況・成果】 ・グローバル・マネジメント体制の強化と、地域を拠点に活躍するグローバル人材育成システムの構築を目的として、令和6年度重要策定（教育研究組織改革）によりグローバル・エンゲージメント推進本部と、その附属センターとしてグローバル人材育成研究センターを設置した。1月にはキックオフシンポジウムを開催し、県内企業等へ本学の取組を発信し、協力を呼びかけるなど、目的達成に向け着実に進捗している。 ・前年度に引き続き共通教育科目「グローバルリーダーシップの開発」を開講し、語学センター英語教育部教員5名を中心に、グローバルリーダーシップ教育を実施した。学生の国際通用性を高めることを目的とし、実践的な英語運用能力（特にコミュニケーション、ディスカッション、批判的思考スキル）を向上させる教育を行い、国際的に活躍するために必要なリーダーシップ能力の向上を目指す。履修者は12名で前年度と同数数を維持している。履修後は授業評価アンケート等を活用し、授業内容の改善に努めている。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】グローバル人材育成研究センターを設置し、学生の国際通用性を高める教育を実施している。 【実施予定】1)グローバル人材育成研究センターが中心になり、学生の国際通用性向上のためにPDCAサイクルを回して学生の国際通用性を高める教育を行っている。	国際課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している。 <コメント> ○目標値は達成していますが、「学生の国際通用性を高める教育を施している」に紐づいている科目が共通教育の1科目のみでその履修者が12名というのは厳しい。センターが担っている科目は確かにそれだけであっても、もう少し何かを主張できることはないでしょうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>	

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度 実施状況		自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価シート		
						実施予定	【実績値】		実施予定	【実績値】		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
大学院の教育課程・教育 内容と連動させた大学院 レベルでのグローバル教育 を実施する。 人文社会系運営管理課 （教育）	(7)-3-B 令和9年度までに海外教員 研修留学生と大学院生が協 働学習を行う授業を整備・実施 人文社会系運営管理課（教 育）	海外教員研修留学生と大 学院生が協働学習を行う 授業	基準値：- 対象期間：-	目標値：整備・実施 対象期間：R4～R9の 期間中	【目標値】- 【実施予定】過年度の授業デザ インを踏まえ、国際共同教員研修と 連動した海外教員研修留学生と 大学院生による協働学習授業を 実行し、その効果検証を行う。	【実績値】- 【実施状況・成果】 過年度及び本年度に実施する海外教員研修留学生と大学院生が協働学習 を行う授業を試行した。その際、過年度に導入したAI翻訳を机上のPCやタブ レットで活用・投影することで両者の円滑なコミュニケーションが実現し、教育 内容・教員研修改革といった共通の学習テーマに即った協働探究の可能性 が示された。また、共通言語として使用頻度が高まる英語学習に対する教員 及び院生の意欲向上にもつながったと予測される。こうしたノウハウの構築を 成果として、海外教員研修受講生と大学院生の協働学習の実施計画を整備 した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【実績値】- 【実施状況・成果】 過年度及び本年度に試行する海外教員研 修留学生と大学院生による協働学習授業 の効果検証に基づき、同授業実施に必須 となる条件（学習環境、教材、人的資源等） を明らかにし、その整備を行う。	【目標値】- 【実施予定】過年度に試行する海外教員研 修留学生と大学院生による協働学習授業 の効果検証に基づき、同授業実施に必須 となる条件（学習環境、教材、人的資源等） を明らかにし、その整備を行う。	人文社会系運営 管理課（教育）	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成して いる ＜コメント＞ ・着実に進んでいるようにも見える し、そのでいようにも見えます。具 体的な科目名称や試行の参加 数とその勘申な評価アンケートの実 施など、実施された結果が見えるよ うにして頂ければと思います。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ●協働学習を行う授業というもの は、留学生側から見たプログラムと 大学院生側から見た授業の両方 があるかと思えますので、それぞ れの建付けについて、そろそろ具 体的な設計・提案を記載いただい ければ存じます。	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞		
					【目標値】60%以上（令和6年 度） 【実施予定】引き続き、大学院の「 長期実践研究報告」で求められ る事項・内容・省察の重層性を踏 まえた評価スケールを留学生及び 受講生と共有し、実践と省察の質 の向上を図っていく。また、そこ で共有される実践省察の価値の検 証結果を関係各国との国際共同 教員研修で共有し、アジア・中 東・アジア等の文化圏における教 育実践プロセスの省察的な分析・ 検討のための手法と価値の共有 を推進する。	【実績値】60 【実施状況・成果】 令和6年度に受け入れた海外教員研修留学生及び研修受講生の実践省察 レポートについて、大学院の「長期実践研究報告」で求められる事項・内容・ 省察の重層性を踏まえた評価スケールを導入してその評価を行った。結果 、留学生5人中4人（80%）、EIP研修生160人中108人（68%）、Edu-Port研 修生6人中4人（67%）、JICA草の根研修生3人中3人（100%）、韓国研修生150 人中72人（48%）、ベネチア研修生20人中12人（60%）実践研究交流会サ ライ研修生50人中34人（68%）が良好な評価（上/3/5以上）で、合計60%の留 学生・研修生が良好な評価と判断され、目標値を達成するに至った。研修生 が過年度から1.5倍に増えた韓国研修生も過年度から良好な評価割合が43% →48%に向上し、研修受け入れを継続することで研修者の学習と専門性開 発に向けたビジョン共有が実現できていると考えられる。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】60%以上（令和7年度） 【実施予定】引き続き、大学院の「長期実践 研究報告」で求められる事項・内容・省察 の重層性を踏まえた留学生及び受講生の実 践と省察の質の向上を図り、その手法と 価値の国際的な共有を推進していく。	人文社会系運営 管理課（教育）	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成して いる ＜コメント＞ ○達成はしていますが、ギリギリで すので、低い評価を付けた学生の 不満がどこにあったのかを分析して 一層の向上につなげていただきたい。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ○韓国研修生の良好な評価の割 合は、改善しつつあるようですが、 他の研修生との何かが大きな違いが あるのでしょうか。	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞			
中期計画(7)-3				中期計画の達成状 況 人文社会系運営管 理課（教育）	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状 況】 【達成状況・成果】 海外教員研修留学生及び研修受講生の受け入れを推進した。結果、同留 学生・研修受講生数は令和5年度264人から令和6年度394人に増加し「海外教 員研修留学生及び研修受講生指数」も飛躍的に向上する成果を出した。ま た、海外教員研修留学生及び研修受講生の受け入れの継続によって同留 学生・受講生の「学校施設長期協働実践プロジェクトの評価スケール」の「実 践プロジェクトの省察の重層性」の良好な評価割合が増加し、今後のさらなる 向上が期待される。さらに、大学院授業における海外教員研修留学生と大学 院生による協働学習環境を整備したことで次年度以降の本格実施の基盤構 築を成し遂げた。以上の成果による、本学が育成するこ高度専門職業人とし ての教職に必要な専門性開発の指針を海外教員研修留学生及び研修受講 生と共有することになり、同留学生・研修受講生の学習の底上げにつなが った。こうした成果を基盤として、キャリア局やマラボウ国を始め履修の国々との 連携が深まり、さらなる海外研修受講生の受け入れとそれを支え点とした国 際的な教育改革の牽引、さらには留学生獲得に向けた潜在可能性の高まり が生み出されるに至った。 【留意事項】 ・海外教員研修留学生及び研修受講生の受け入れ数の飛躍的増加（目標値 の大幅達成） ・海外教員研修留学生と日本人院生による協働学習の整備完了と恒常化	【評価結果】 【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】 【達成状況・成果】 海外教員研修留学生及び研修受講生の受け入れ数の飛躍的増加（目標値 の大幅達成） ・海外教員研修留学生と日本人院生による協働学習の整備完了と恒常化	人文社会系運営 管理課（教育）	④達成度 IV：計画を上回って実施している ＜コメント＞ ○海外教員研修留学生及び研修 受講生の受け入れ数の飛躍的増 加（目標値の大幅達成）を踏まえ、 IV：計画を上回って実施している と判断する。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組 等がある ＜コメント＞ ○飛躍的な受け入れ数となっている 。受け入れ先と評価スケールの 関係性を見出し、その地域に特化 した教員研修生受け入れの評価とし て活用（見える化）できないでし ょうか。ここは是非高ポイントを狙 いたいところですので、計画に書い てありながら、成果が挙げられてい ると思います。目標値達成が危 まれる(7)-1-Aに何とか結びつけ ることはできないのでしょうか。 ○海外教員研修留学生及び研修 受講生の受け入れ推進につ いては、「2. 優れた実績・成果に 繋がる取組等がある」に繋がる と判断する。	⑥評価指標に設定がない事項のコン メント ●評価指標に設定がない事項の申告 はありませんが、中期計画の中に書 かれている「OECD Education 2030と連 動したグローバル教育コンソーシアム の確立」は評価指標に設定がない事 項に該当すると思います。令和5年 度、6年度の記述からは、それ関 する具体的な取組は読み取れませ んでした。R7年度中に対応が可能で しょうか。ここは是非高ポイント を狙いたいところですので、計画に 書いてありながら、成果が挙げられ ていないことが無いよう、ご配慮 ください。				

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【研究】

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	日目標	令和6年度 令和6年度 実施状況		自己点検・評価結果（全学 部質保証委員会）	令和7年度 実施予定		取りまとめ担当 取組係課	自己点検・評価結果		
						実施予定			実施予定			①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標 (8) 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。	中期計画 (8)-1 コア技術である高出力遠赤外光源及び遠赤外線計測技術の更なる先進化と分野融合型の共同研究開発を推進するため、社内問題解決につながる技術のイノベーションを目指す。第3期において実施した遠赤外線域の公募型国内共同研究を継続しつつ、新分野開拓及び分野融合研究を行うとともに、遠赤外線域における国際連携研究ネットワークを拡大・強化する。	80-1-A 遠赤外線域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数：第3期（206件）より10%以上増加（第4期の合計）	遠赤外線域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数	基準値:206件 対象期間:1128～122の平均値×6年間分	日目標:基準値より10%以上増加(1227件以上) (130%:295.1件以上) 対象期間:184～189の合計	【目標値】40件（累計120件） 【実績値】40件（累計120件） 【実施予定】(1)【国際・国内研究拠点機能の強化】 遠赤外線域研究の国際コンソーシアム参加研究機関および学術交流協定・共同研究覚書を取り交わした研究機関と国際的学術教育研究を展開し、国際・国内共同研究を推進する。 (2)【若手人材育成】 若手海外研修プログラム・海外招聘プログラムにより大学院生・機関研究員を、海外研究機関に派遣・招致し、次世代人材育成を行う。	【実績値】新規国内共同研究39件、新規国際共同研究13件の合計52件 【達成状況・成果】 ①第3期遠赤外線技術に関する国際ワークショップ(9th-IRIT 2024)およびテラヘルツの最先端シンポジウム(S-ITS 2024)を開催した。 ②電子レンジサイエンス学会(SEST2024)を開催(見直し)した。 ③国内および国際共同研究の公募を行い、それぞれ50件(うち新規22件)、4件(うち新規4件)の応募があり、それぞれ49件(うち新規21件)、3件(うち新規3件)を採択した。 ④公募型の国内共同研究36件(うち新規18件)を実施した。 ⑤非公募型国際共同研究39件(うち新規10件)を実施した。 ⑥年度末に国内公募型共同研究の成果報告会を開催した。 ⑦海外から、招へい教員3名、外国人クロスアポイントメント特命教員1名を雇用した。 ⑧情報通信研究機構(NICT)の国際交流プログラム海外研究者招へい助成に採択され、この予算で外国人研究員1名を招へいた。 ⑨海外の学術交流協定・共同研究覚書について新規締結1件、更新2件を行った。 ⑩グローバルエンジニアリングと連携本部の事業である「地域を拠点に活躍するグローバル・リーダー人材育成システム」の構築に採択され、教員延べ4名、学生延べ2名でベトナム、インドネシア、フィリピンを訪問したほか、フィリピン、中国から学生4名を招き、外国人留学生の勧誘活動を行った。 ⑪大阪大学・神戸大学・福井大学・大阪公立大学の強磁場科学に属する研究センターが参加する西日本強磁場研究拠点KOFLCネットワークの若手育成活動として「強磁場入門セミナー」を福井大学において開催した。		【目標値】40件（累計160件） 【実施予定】(1)【国際・国内研究拠点機能の強化】 遠赤外線域研究の国際コンソーシアム参加研究機関および学術交流協定・共同研究覚書を取り交わした研究機関と国際的学術教育研究を展開し、国際・国内共同研究を推進する。 (2)【若手人材育成】 若手海外研修プログラム・海外招聘プログラムにより大学院生・機関研究員を、海外研究機関に派遣・招致し、次世代人材育成を行う。	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ●累計の件数もご記入ください。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>	
	中期計画 (8)-1					中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 ①第3期遠赤外線技術に関する国際ワークショップ(9th-IRIT 2024)およびテラヘルツの最先端シンポジウム(S-ITS2024)を開催し、84名(中国、フィリピン、韓国、台湾、カナダ、インドネシア、インド、日本)から約160名の参加者があり、活発な議論を行った。 ②電子レンジサイエンス学会(SEST2024)を開催(電子レンジサイエンス学会との共催)し、3名の海外招待講演者のほか約170名の参加者があり、希望者にはセンターの見学を行うとともに、一般市民と産業界との関係により地域社会に貢献した。 ③公募型国内共同研究事業の募集を行い、選考委員会において審査の結果49件(うち新規21件)を採択した。この中で学術的・学際的な価値に資する先進的な共同研究として募集した。重点共同研究には4件の応募があり、審査の結果1件を採択し、1件を公募型として採択した。他は生命科学・ライフサイエンス分野等との異分野融合の共同研究25件を実施した。これを通じて、遠赤外線域の技術の応用拡大が進んでいる。年度末に共同研究成果報告会を現地参加とオンラインのハイブリッドで行い、活発な議論を行った。本共同研究事業を通じて新分野開拓及び分野融合研究が進行している。 ④非公募型の国内共同研究36件(うち新規18件)を実施した。(新規国内共同研究合計39件) ⑤公募型国際共同研究の募集を実施し、フィリピン、中国、インドネシアの研究者4名から申請があり(いずれも着選)、3件を採択した。 ⑥非公募型国際共同研究39件(うち新規10件)を実施した。(新規国際共同研究合計13件) ⑦外国人招へい教員として以下の3名を雇用した。 Pham Hung Minh(Center for Quantum Electronics, Institute of Physics, Vietnamese Academy of Science and Technology, Associate Professor) Julien Breard (CNRS-CNRS-CPHEA, DRT-Prod) La Ode Safadina(Department of Master of Physics, Faculty of Mathematic and Natural sciences, University of Hala Oles, Assistant Professor) ⑧外国人クロスアポイントメント特命准教授として以下の1名を雇用した。 La Agona(University of Hala Oles, Associate Professor) ⑨情報通信研究機構(NICT)の国際交流プログラム海外研究者招へい助成に採択され、この予算で外国人研究員として以下の1名を雇用した。 Elmer S. Estelita(National Institute of Physics, The University of Philippines Diliman, Professor) ⑩以上の海外機関との学術交流協定・共同研究覚書で新規1件を締結したほか、有効期限が切れた以下の研究機関との学術交流協定・共同研究覚書の更新を行った。 University of Samalabaela November Kolaka (Indonesia)(新規) 国立清華大学電気工学・情報科学TOPセンター(Taiwan)(更新) ベトナム科学技術アカデミー物理研究所 (Vietnam)(更新) ⑪ウタライナの研究者と共著で学術論文4編(国際会議論文を含む)を発表した。 これらの事業により、遠赤外線域における国際連携研究ネットワークを拡大・強化している。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 は、計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 は、優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○遠赤外線域研究センターでは、国際・国内それぞれで公募型・非公募型共同研究を行っており、論文発表や外部資金獲得などの成果が出ることと期待します。 ○遠赤外線域研究センターでは、国際・国内それぞれで公募型・非公募型共同研究を行っており、論文発表や外部資金獲得などの成果が出ることと期待します。		

○：学外公開、評価者による所感、今後の思考など
●：学外公開、機関に具体の対応や検討を依頼するもの

申請計画③-3			中期計画の達成状況 松岡キャンパス研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 申請計画の達成度：進 【達成状況・成果】 目標とする90件を超えるの167件の病態画像研究に関する英文論文数を達成した。 特に、病態画像研究の他の基礎療法に繋がる「病気の発現」に成功した研究は、本学固有の病態画像研究基盤を国際共同研究として活用して得られた研究成果が多岐あり、その多くが本学部の優秀論文賞の基準値 (IF-5) を満たす成果であった。具体的には、Psychiatry and Clinical Neurosciences (IF-5.8, 精神医学部)、Neuroscience and Biomedicine (IF-5.4, 高エネルギー医学研究センター)、Psychol. Med. (IF-5.8, 精神認知発達研究部門) などである。 また、高度医療人材養成拠点形成事業に採択され、研究を主体実務とする特任教授2名とその研究室を新たに配置し、研究活動と人材育成を推進させる組織基盤を強化した。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 量・計画を十分に実施している ＜コメント＞	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○論文数は大幅に目標値を上回っており、十分に実績が挙がっています。一方、IF-5に近い値向にある論文がメインで、IF-5分野では基準としているIF-6は、少し物足りない感じがします。 ○外部からの高い評価が件より優れていると言えるかと考えます。 ○目標とする件数を超過する病態画像研究に関する英文論文数を達成するとともに、高度医療人材養成拠点形成事業に採択され、研究を主体業務とする特任教授2名とその研究室を新たに配置したことは、質の高い実績・成果に繋がる取組として期待される。
申請計画③-4	③-4-A	地域イノベーション創出指数 基準値:1176 対象期間:1128～1129の平均値 対象期間:114～119の平均	研究推進課	【目標値】186 (令和6年度) 【実績状況・成果】 【実施予定】・地域イノベーション創出に資する研究・開発における投資・回収を最大化するため、社会実装研究センターにスペースステラプロジェクトの研究ユニットを設置し、参加研究者数の増員を検討する。 また、上記研究ユニットの設置により、地域企業やVLO等の外部機関との連携を強化し、企業との共同出願、実証等件数を増加させる。 取得の産業化研究特区等のセンターの兼任教員の増員を検討する。	【実績値】241 【実施状況・成果】 【実施予定】・地域イノベーション創出に資する研究・開発における投資・回収を最大化するため、社会実装研究センターにスペースステラプロジェクトの研究ユニットを設置し、参加研究者数の増員を検討する。 また、上記研究ユニットの設置により、地域企業やVLO等の外部機関との連携を強化し、企業との共同出願、実証等件数を増加させる。 取得の産業化研究特区等のセンターの兼任教員の増員を検討する。	【目標値】189 (令和7年度) 【実績値】189 (令和7年度) 【実施予定】・地域イノベーション創出に資する研究・開発における投資・回収を最大化するため、社会実装研究センターにスペースステラプロジェクトの研究ユニットを設置し、参加研究者数の増員を検討する。 また、上記研究ユニットの設置により、地域企業やVLO等の外部機関との連携を強化し、企業との共同出願、実証等件数を増加させる。 取得の産業化研究特区等のセンターの兼任教員の増員を検討する。	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞
申請計画④-4			中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 申請計画の達成度：進 【達成状況・成果】 上記令和6年度実施状況の他、以下の取組を実施した。 ・未来共創システムセンターを竣工し、超最先端疾患と特色技術の共同研究推進フロアや、組織だけでなく幅広い社会ニーズや市場ニーズを捉えアイデアを創出していくフロア、多様な人材が、創造力を働かせ多様な仮定から創発的な価値創造を目指すフロアを設け、産学官連携本部協力企業等へのお披露目を行った。今後、企業と大学等が連携し、オープンイノベーションを推進する場となることが期待される。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 質・計画を上回って実施している ＜コメント＞	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○未来共創システムセンターに作られた多目的なフロアは、連携推進の場として期待できます。学内者だけでなく関係者が積極的に利用するよう仕組み作りを期待します。 ○未来共創システムセンターを竣工し、技術の共同研究推進フロア、アイデアを創出していくフロア、多様な創発的な価値創造を目指すフロアを設けたことは、今後、企業と大学等が連携し、オープンイノベーションを推進する場として、優れた実績・成果に繋がる取組として期待される。
申請計画④-5	④-5-A	当該分野における学術誌への英文論文掲載数 基準値:1,756件 対象期間:1128～1129平均値×6年間分	松岡キャンパス研究推進課	【目標値】英文論文数300件 (累計900件) 【実績状況・成果】 【実施予定】第4期中間報告に向けて、これまでの研究成果 (英文論文数) の分析と検証を行い、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。	【実績値】英文論文数 5 のべ983件 (IF: 348件)、英文校正支援数 90件 (内訳) ・原稿61件、・原稿52件 (査読待機中) 29件 【達成状況・成果】 今年度は昨年度を25件上回る548件の英文論文を達成し、目標値の900件を超えるの5983件となった。 令和3年度から継続して実施した英文論文校正支援では190件を支援し、昨年度支援した84件の論文の追跡調査を実施したところ、令和7年4月30日時点で、うち15件が今年度までに論文化され、現在査読中や編集中の論文も複数残っていることが、英文校正支援が果たした十分な成果を挙げていることが判明した。よって、今年度継続して支援を実施することを希望している。 なお、348件の論文のうち、癌分野の原稿論文は180件発表され、特に、胆臓がんの研究に顕著な成果が見られた。具体的には、胆臓がんの化学療法抵抗性の一因として、胆汁中のグルタリオンがNK細胞の機能を抑制することを見出し、その阻害による免疫療法の可能性を示した。また、胆臓がん細胞表面のDIT-1A低糖化糖鎖の構造を解明し、その発現が生存期間の短縮と相関することから、再発予測因子として有用である可能性を初めて明らかにした。 アレルギー・免疫分野の原稿論文は184件が発表され、特筆すべき成果として、近年増加している花粉食品アレルギー-近視眼 (PFA) について、病態生理・疫学・治療に関する最新の研究動向を概説し、今後の研究課題とアレルギー-治療研究の方向性を提案した。 神経分野の原稿論文は65件が発表され、脳シグナルの構造解析技術の開発を起点に、神経変性疾患や神経発達障害の病態解明・診断・予測に関する幅広い成果を得た。特に、自閉スペクトラム症の発症予測に鍵を握るノドミエリン・シグナルの発見や、注意欠陥・多動性障害の病態力学モデルの構築など、臨床応用に直結する研究成果を挙げた。また、疼痛感受性やアルツハイマー病に関する新たな神経ターゲットの発見と治療薬候補の検討も行った。	【目標値】英文論文数300件 (累計1,200件) 【実績値】英文論文数300件 (累計1,200件) 【実施予定】第4期中間報告に向けて、これまでの研究成果 (英文論文数) の分析と検証を行い、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。	松岡キャンパス研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞

		④-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数 （定義） 以下の合計件数 ・特許出願数 ・特許の特利化件数 松岡キャンパス研究推進課	基準値：92件 対象期間：H28～H2平均値×6年間分	目標値：基準値超（130%：119.6件超） 対象期間：H4～H9の合計	【目標値】研究成果の具体化件数（特許出願数及び特許の特利化件数の合計）16件（累計48件） 【実施予定】あらゆる分野の医学研究における具体化件数を向上させるために、医学官連携本部やR&Aと連携して、加齢に関するセミナーの実施や加齢相談の強化を図る。 【実績】研究成果の具体化件数（特許出願数及び特許の特利化件数の合計）16件（累計48件） 【実施状況・成果】令和6年度の実績は、特許出願数7件、特許の特利化件数5件の計12件を含むの～40件にとどまり、目標値の～48件には届かなかったが、令和6年12月よりTLO経験者を医学官連携本部の客員准教授として雇用し、加齢の課題の克服や特許の質の向上および共同出願や実施特許優先の連携を強化した。 また、医学部附属病院医学研究支援センターが5月に同キャンパスで実施している「臨床研究のすすめセミナー」において、7月と3月に、医学官連携本部加齢的財産・技術移転部の教員等による講演を行い、臨床研究に関連する知的財産に焦点を当て、特許出願の意味の解説や特許出願に向けた支援の紹介など研究成果の具体化推進に向けた活動を強化している。 【改善方策（目標値未達成の場合）】 特許等の個別相談を継続して実施するとともに、医学研究支援センター教員及び令和6年12月より雇用した医学官連携本部の客員准教授等が、各研究室へ訪問し、研究成果の具体化を進めるための働きかけを行う予定である。 【自己点検・評価】 ①2 ②1 ③2	【目標値】研究成果の具体化件数（特許出願数及び特許の特利化件数の合計）16件（累計48件） 【実施予定】あらゆる分野の医学研究における具体化件数を向上させるために、医学官連携本部やR&Aと連携して、加齢に関するセミナーの実施や加齢相談の強化を図る。	松岡キャンパス研究推進課	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない ＜コメント＞ ○【目標値】研究成果の具体化件数16件（累計48件）に対して、【実績値】の～40件（令和6年度：12件）といずれも達成されていない。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが、十分にではない ＜コメント＞ ○医学分野からの知財形成には、工学的な要素が必要ではないでしょうか。そうすると、現状では医学と工学を結びつけるようなURAの総数数が不足しているように思います。予算的に難しいですが、URAの増員を期待します。 ○特許等の個別相談を継続して実施するとともに、医学研究支援センター教員及び令和6年12月より雇用した医学官連携本部の客員准教授等が、各研究室へ訪問し、研究成果の具体化を進めるための働きかけを行うという改善方策等が策定されている。	③前年度未達成の改善状況 2. 評価指標が改善（達成）されていない ＜コメント＞ ○特許等の個別相談を継続して実施するとともに、医学研究支援センター教員及び令和6年12月より雇用した医学官連携本部の客員准教授等が、各研究室へ訪問し、研究成果の具体化を進めるための働きかけを行うという改善方策等が策定されている。
中期計画 ④-5				中期計画の達成状況 松岡キャンパス研究推進課	【法人評価対応】 令和6年度 中期計画の達成状況 【達成状況・成果】 研究成果の具体化件数（特許出願数及び特許の特利化件数の合計）は目標値には届かなかったが、「臨床研究のすすめセミナー」において、継続して、知的財産への理解を深めてもらうための講演等を実施した。また、医学研究推進部及び医学研究支援センターが連携して、英文論文校正支援や論文数に応じた教員へのインセンティブ等の支援を実施したことにより、目標値300件を超える518件（の～983件）を達成し、がん、神経、免疫・アレルギーの各分野において、疾患の予防・診断・治療に貢献する研究成果が多数得られ、臨床応用に向けた重要な知見が得られた。	【評価結果】	【法人評価対応】 令和7年度 中期計画の達成状況		④達成度 ①計画を十分には実施していない ＜コメント＞ ○特許に関しては目標値を達成していないが、論文数は十分に目標値を超えており、全体としては十分に実施していると考える。論文については目標として設定している数に達していますが、質（例えば①）はどうか？ ○研究成果の具体化件数について、令和6年度【目標値】に対して【実績値】が達成されていない。前年度に引き続いて未達成である。	⑤優れた実績・成長等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○分野により異なるのですが、医学部では英文の校正支援は有効な対策となっていると考えます。 ○知的財産への理解を深めてもらうための講演や特許等の個別相談を継続して実施するとともに、医学研究支援センター教員等が各研究室へ訪問し、研究成果の具体化を進めるための働きかけを行うという改善方策等は優れた実績・成果に繋がる取組として期待されます。

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【その他】

○：学外公開、評価者による所感、今後の参考など
●：学外公開、部局に具体の対応や検討を依頼するもの

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）		実施予定		
中期目標(9)	中期計画(9)-1	(9)-1-A	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBL」に繋がる遊びの時間」数	基準値:- 対象期間:-	目標値:①-1 100時間以上（前期課程） ①-2 70時間以上（後期課程） ①-2 70時間以上（130%:91時間以上） ②150時間以上 ③150時間以上（130%:195時間以上） 対象期間:①②R4～R9の毎年度	【目標値】①-1 100時間以上（前期課程） ①-2 70時間以上（後期課程） ②150時間以上 【実施予定】随時学習効果の検証を行い、附属義務教育学校(前期・後期課程)及び附属幼稚園において、発達障害児を含めたPBLを実施する。	【実績値】①-1 104～148時間 ①-2 125～183時間 ② 384時間 【実施状況・成果】 （実績内容）「学年プロジェクトの実施時間」 ①-1 義務教育学校前期課程 1年 148時間(生活科) 2年 134時間(生活科) 3年 132時間 4年 126時間 5年 104時間 6年 104時間 ①-2 義務教育学校後期課程 7年 125時間 8年 183時間 9年 155時間 ②幼稚園 3歳児 384時間 4歳児 384時間 5歳児 384時間 協働探究的な学びの運用は軌道に乗り、研究会(6月)及び教育課程研究会(2月)の前後の教科授業をPBL型学習として実施した。「令和6年度学校評価」調査によると、「PBLへの積極的参加度」(前期90.5%、後期90.3%)、「PBLの時間に自分と異なる意見の良さを大切にする態度」(前期87.7%、後期90.7%)は、いずれも極めて高い数値を残した。 義務教育学校は、PBL型学習が評価され、2024年度「ソニー子ども科学教育プログラム」の論文で最優秀校を受賞した。 令和6年6月14日に義務教育学校・幼稚園共催の教育研究会を開催。義務教育学校研究紀要第6号を刊行した。 令和6年5月に附属幼稚園研究紀要第27号を刊行。令和6年11月2日に附属幼稚園とソニー財団共催の幼児教育研究会を開催した。 【自己点検・評価】 ① ②③ ③③	【目標値】①-1 100時間以上（前期課程） ①-2 70時間以上（後期課程） ②150時間以上 【実施予定】随時学習効果の検証を行い、附属義務教育学校(前期・後期課程)及び附属幼稚園において、発達障害児を含めたPBLを実施する。	人文社会系運営管理課（教育）	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
		(9)-1-B	「保護者を交えた支援会議」の実施件数 (R2より開始)	基準値:138件 対象期間:R2平均値×6年間分	目標値:基準値より20%増加(166件以上) ①(130%:215.8件以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】30件（累計90件） 【実施予定】引き続き、「教育相談室」において、学校園管理職、特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、保護者を交えた支援会議を実施する。	【実績値】「保護者を交えた支援会議」 30件（実績98件） 【実施状況・成果】 令和6年度親子支援特別支援入試（合格者/志願者） 幼稚園(3/3)計6名、前期課程(3/11)計8名、後期課程(1/2)計2名 教育相談室「これび」が有効に機能して、各校園の特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、教職大学院スタッフの連携調整がさらに密になり、インクルーシブ教育の機能が向上した。 「これび」による保護者相談件数は217件に及び、うち30件が保護者を交えた支援会議。(5/29追記) 医学部教員のカウンセリングを35回実施し、保護者向け講演も2回実施され、効果も上げている。 【自己点検・評価】 ① ②③ ③③	【目標値】30件（累計120件） 【実施予定】引き続き、「教育相談室」において、学校園管理職、特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、保護者を交えた支援会議を実施する。	人文社会系運営管理課（教育）	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
		(9)-1-C	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数	基準値:18名 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値超(130%:23.4名超) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】4名（累計10名） 【実施予定】引き続き、教師教育の一環として、附属学園所属教員の教職大学院への進学を推進する。	【実績値】幼稚園1名、義務教育学校前期課程1名、義務教育学校後期課程1名、計3名（累計9名） 【実施状況・成果】 附属学園所属教員の教職大学院への進学者数を3名確保することで、目標値を達成した。 【改善方策（目標値未達成の場合）】 R6までに9名(3か年平均3名)、R7は既に3名が教職大学院に進学しており、合計で14名に到達している(4年平均3.5名)。第1期の残り2か年で合計6名(単年度平均3名)が進学すれば20名の目標値に到達すること、R7までの平均実績はそれを上回っていることから、引き続き教師教育の一環として、附属学園所属教員の教職大学院への進学を推進していく。 【自己点検・評価】 ①② ②① ③③	【目標値】4名（累計14名） 【実施予定】引き続き、教師教育の一環として、附属学園所属教員の教職大学院への進学を推進する。	人文社会系運営管理課（教育）	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）	実施予定					
	中期計画(9)-1					【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 PBLの時間数は、義務教育学校後期課程や幼稚園において、目標値を大幅に上回っており、教育課程全体で協働的な探究学習が広がってきている。 PBLとインクルーシブ教育の関係についての科学的検証の研究を始めるとともに、医学部教員のカンセンシブ(35分)を実施し、かつ新規に保護者向けの講演を実施するなど、医療連携が進んでいる。 オープンな参加とした教育研究会では、学部・大学院の協働研究者35名が参加し、県内外の参加者372名の、専門の研修の場となった。 【特記事項】 附属義務教育学校は、PBL型学習の内容が評価され、2024年度「ソニー子ども科学教育プログラム」の論文で最優秀校を受賞した。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】			④達成度 Ⅱ：計画を十分には実施していない ＜コメント＞ ○(9)-1-Cの指標が未達のためⅡとした	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○2023年度の附属幼稚園の受賞に続き附属義務教育学校でも「ソニー子ども科学教育プログラム」の最優秀校を受賞していることは高く評価できる。 ○附属義務教育学校は、PBL型学習の内容が評価され、2024年度「ソニー子ども科学教育プログラム」の論文で最優秀校を受賞したことは、優れた実績・成果に繋がる取組である。	評価指標に設定がない事項のコメント ○第4期としては達成済み。ただし、特別入庁件設置や先発的な教育モデルの開発研究について、未実施であられ未達です。 ○「インクルーシブ」の取組は12年一貫型カリキュラムとして位置付けた「PBLとインクルージョン」が融合した先進的な教育モデルの開発研究を行うが令和6年度でも「研究を開始した」の段階です。令和7年度には多少とも具体的な「先進的教育モデル」が変を現すよう取組を進めていたと存じます。 ○計画の中で「教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実を目指す」と謳われていますが、そのための取組として実施しているのは「オープンな参加した教育研究会」の実施でしょうか？だとすると、「教員研修機能の強化・充実を目指す取組」としては物足りなさを感じます。
中期目標(10)	中期計画(10)-1	(10)-1-A	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：①12回以上 (130%：15.6回以上) ②12回以上 (130%：15.6回以上) 対象期間：①②R4～R9の毎年度	【目標値】①臨床研究に関するセミナー・講習会の実施回数12回以上 ②総合的な統計相談回数12回以上 【実施予定】①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会を月1回以上開催する。 ②研究デザイン設計、統計解析方法を含む総合的な統計相談を毎月1回以上実施する。	【実績値】①セミナー・講習会23回、②統計相談23回 【実施状況・成果】 ①中部先端医療開発環境コンソーシアム(C-CAM)における実施セミナー、臨床研究のすめセミナー、基礎/更新講習会、生命倫理講習会等を23回開催し、目標値の12回を達成した。「外部資金獲得法」、「データマネジメント」、「モニタリング講習」、「英文論文執筆」など臨床研究実施に必要な情報を積極的に提供し、臨床研究の適正な実施の確保や研究業績の論文執筆のスキルを高めることができた。 ②医学研究における統計相談を23回、39件実施し、目標を達成した。研究立案から、デザイン設計、症例数設定、解析方法など統計に関する様々な事項について指導・助言することで、より適正な研究を実施すること及び研究業績の論文執筆に繋げることができた。	【自己点検・評価】 ①② ③④	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	松岡キャンパス 研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○両指標とも実績値が目標値を大きく上回っているため、目標値を少し上げた方が良いのでは？	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	
世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。 (附属病院)	中期計画(10)-1	(10)-1-A	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：①12回以上 (130%：15.6回以上) ②12回以上 (130%：15.6回以上) 対象期間：①②R4～R9の毎年度	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 臨床研究に関する基礎から応用までの広い範囲を対象としたセミナー・講習会を実施し、加えて大学院生も対象とした総合的な統計相談に拡充するなどの支援を実施し、目標値を達成した。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】			④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○統計解析は研究結果の有意性を示すためにも、計画的な研究を実施するためにも重要な内容なので、この取り組みは素晴らしいと思います。 ●R6年単年度の進捗・達成度の記載をお願いします(講演会の実施回数など)	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○論文数には英文校正の補助や研究費の補助など様々な要素が影響しますが、このセミナーや相談会によって論文数が増加した、あるいは論文の質が高まったなどのデータがあると分かりやすい評価になると思います。	評価指標に設定がない事項のコメント 第4期としては達成済み。ただし、特別入庁件設置で先発的な教育モデルの開発研究について、未実施であられ未達です。 ○「インクルーシブ」の取組は昨一年度専カリキュラムとして位置付けた「PBLとインクルージョンが融合した先進的な教育モデルの開発研究を行う」が令和6年度でも「研究を開始した」の段階です。令和7年度には多少とも具体的な「先進的教育モデル」が変を現すよう取組を進めていたと存じます。 ○計画の中で「教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実を目指す」と謳われていますが、そのための取組として実施しているのは「オープンな参加した教育研究会」の実施でしょうか？だとすると、「教員研修機能の強化・充実を目指す取組」とでは物足りなさを感じます。
	中期計画(10)-2	(10)-2-A	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：30回以上 (130%：39回以上) 対象期間：R4～R9の毎年度	【目標値】30回以上 【実施予定】医療人の高度かつ専門的な能力向上を図るため、福井メディカルシミュレーションセンターで福井県内・福井大学の医療従事者を対象としたシミュレーター臨床教育を展開し、シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を年30回以上実施する。	【実績値】55回 【実施状況・成果】 ①本院及び県内の医療従事者を対象とした臨床研修を計55回実施し、目標を達成した。このうち、本年度から高度救急医療支援センター関連の実技研修を7回、コメディカル対象のAHA BLSプロバイターコース(一次救命処置研修)を1回実施し、原子力災害医療、先端医療、地域医療を担う医療人の養成を図った。	【自己点検・評価】 ①② ③	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	経営企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	
地域医療人の育成に貢献してきた実績を鑑み、更に高度かつ専門的な能力向上を図りつつ、地域へ発信するため、リポートにも対応できるハイブリッドな研修方法を活用した臨床研修の実施に加え、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーションを組み合わせた教育・研修プログラムを実施する。 経営企画課	中期計画(10)-2	(10)-2-A	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：30回以上 (130%：39回以上) 対象期間：R4～R9の毎年度	【目標値】30回以上 【実施予定】医療人の高度かつ専門的な能力向上を図るため、福井メディカルシミュレーションセンターで福井県内・福井大学の医療従事者を対象としたシミュレーター臨床教育を展開し、シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を年30回以上実施する。	【実績値】55回 【実施状況・成果】 ①本院及び県内の医療従事者を対象とした臨床研修を計55回実施し、目標を達成した。このうち、本年度から高度救急医療支援センター関連の実技研修を7回、コメディカル対象のAHA BLSプロバイターコース(一次救命処置研修)を1回実施し、原子力災害医療、先端医療、地域医療を担う医療人の養成を図った。	【自己点検・評価】 ①② ③	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	経営企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果			
						実施予定	令和6年度 実施状況	自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）	実施予定	①評価指標の達成状況		②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況		
		【10-2-B】 卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数：3回以上（第4期の毎年度） 経営企画課	卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数	基準値：- 対象期間：-	目標値：3回以上（130%：3.9回以上） 対象期間：R4～R9の毎年度	【目標値】3プログラム以上 【実施予定】卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコースや基本的診療技能実習などの実施を年3プログラム以上に増加させる。	【実績値】6プログラム 【実施状況・成果】 卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラムのPost-CC-OSCEトリアルコースや基本的診療技能実習などの実施について、医学科生のカリキュラムに限り計6プログラムの実習を実施し、目標を達成した。臨床能力の担保を目的としたPost-CC-OSCEトリアルコースの実技試験については167名が受験し、全員が合格する結果となった。また、令和5年度から開始している医行為研修実技指導が加わったことにより、医学生の実技レベルが更に高まり、充実したプログラムとなった。 1. 9/21Post-CC-OSCEトリアルコース実施 参加者：167名 2. 10/7、8 医学科4年生 救急部基本的診療技能の講義 参加者：123名 3. 10/29、30 医学科4年生 看護部医行為実技指導実施 参加者：141名 4. 10/16-11/7 医学科4年生基本的診療技能実習 参加者：208名 5. 1/9 医学科4年生OSCE試験実施 参加者176名（うち学生111名） 6. 11/12、11/26 医学科4年生実技講義 参加者151名 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3				【目標値】3プログラム以上 【実施予定】卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコースや基本的診療技能実習などの実施を年3プログラム以上に増加させる。		①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞
	中間計画（10）-2				中間計画の達成状況 経営企画課	【法人評価対応】 【令和6年度 中間計画の達成状況】	【進捗状況】中間計画の達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 本院及び県内の医療従事者を対象とした臨床研修を計5回実施し、目標を達成した。このうち、本年度から高度救急医療支援センター関連の実技研修を7回、コメディカル対象のAHA BLSプロバイダーコース（一次救命救急研修）を1回実施し、原子力災害医療、先端医療、地域医療を担う医療人の養成を図った。 卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラムのPost-CC-OSCEトリアルコース、医学科4年生救急部基本的診療技能講義、医学科4年生医行為実技実習、医学科4年生基本的診療技能実習、医学科4年生OSCE、医学科4年生実技講義の6プログラムを実施し、目標を達成した。臨床能力の担保を目的としたPost-CC-OSCEトリアルコースの実技試験については167名が受験し、全員が合格した。また、令和5年度から開始している医行為研修実技指導が加わったことにより、医学生の実技レベルが更に高まった。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中間計画の達成状況】		④達成度 Ⅳ：計画を上回って実施している ＜コメント＞	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ●リモートにも対応できるハイブリッドな研修方法に具体例があれば記載して下さい。 ○高度救急医療支援センター関連の実技研修なども加わり、さらに内容が充実させたことが評価できる。 ○【目標値】3プログラム以上に對して、前年度以上の計6プログラムの実習を実施し、臨床能力の担保を目的とした実技試験については167名が受験し、全員が合格したことは、優れた実績・成果に繋がるものと期待される。	評価指標に設定がない事項のコメント		
	中期計画（10）-3	【10-3-A】 特定機能病院に求められる、保険診療への発展を視野に入れた先端医療を開発し、適正に評価して広く地域へ提供するという一連プロセスの更なる活性化を目指し、これまでの取組において特に研究成果が蓄積している、難治がんの病態分析に基づいた集学的な進展制療法の開発、免疫・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用、脳腫瘍・脳神経疾患等に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用を加速し、更に新たな取組として、高度な不妊治療を実現できる福井県完結型の中核施設の設置、がん・遺伝診療に対する診療体制の拡充を実現する。 経営企画課	臨床研究の新規実施件数	基準値：1,205件 対象期間：H28～R2の平均値×6年間分	目標値：基準値超（130%：1,566.5件超） 対象期間：R4～R9の合計	【目標値】臨床研究の新規実施件数（倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会及び治験審査委員会の承認を受けて実施される臨床研究の新規件数の合計）190件 【実施予定】引き続き、医学研究支援センターの教員及びCRC職員等の支援体制を強化するとともに、前年度の臨床研究新規実施件数や支援方策の効果等を検証し、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。 【実施状況・成果】 臨床研究の新規実施件数は239件（倫理審査委員会承認213件、特定臨床研究審査委員会承認9件、治験審査委員会承認18件）、のべ668件となり、目標値190件を達成した。 （研究支援） ・実用化支援費の支援について、令和5年度における申請者に対して満足度調査を実施、検証し、6年度においても継続して支援を行った。 ・医療統計学自主学習コースの開講について、令和5年度の受講生に行ったアンケート調査の結果に基づき、基礎に焦点を絞り、コマ数、受講人数、費用を抑えるなど、真に学びたい人と学びがきく環境を整えてもらうように実施内容を見直し、大学院生を含め支援を行った。 ・電子カルテ転記システムの導入に向けて技術面、契約事項等の確認作業を行った。 （治験・製造販売後調査） ・被験者確保のため、「被験者負担軽減費」を来院1回あたり10,000円に増額した。 ・新規治験獲得に向け、病院会議等にて各診療科へ治験施設支援機関からの事前調査に回答いただくよう調査への協力を依頼した。 ・病院外来に治験被験者の優先性を一般患者に理解してもらうためのポスターを外来へ掲示及び院内電光掲示板へ掲示し周知した。 ・治験依頼者が遠隔地から治験実施状況を確認できるリモートデスクトップシステムを導入し、12月10日から運用を開始した。 ・製造販売後調査にかかる請求について、契約締結時に請求する前払方式を後払（実績払）方式へ変更する治験等経費算定要領の改正手続きを行い、外部資金の増加を図った。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【実績値】239件 【実施状況・成果】 臨床研究の新規実施件数は239件（倫理審査委員会承認213件、特定臨床研究審査委員会承認9件、治験審査委員会承認18件）、のべ668件となり、目標値190件を達成した。 （研究支援） ・実用化支援費の支援について、令和5年度における申請者に対して満足度調査を実施、検証し、6年度においても継続して支援を行った。 ・医療統計学自主学習コースの開講について、令和5年度の受講生に行ったアンケート調査の結果に基づき、基礎に焦点を絞り、コマ数、受講人数、費用を抑えるなど、真に学びたい人と学びがきく環境を整えてもらうように実施内容を見直し、大学院生を含め支援を行った。 ・電子カルテ転記システムの導入に向けて技術面、契約事項等の確認作業を行った。 （治験・製造販売後調査） ・被験者確保のため、「被験者負担軽減費」を来院1回あたり10,000円に増額した。 ・新規治験獲得に向け、病院会議等にて各診療科へ治験施設支援機関からの事前調査に回答いただくよう調査への協力を依頼した。 ・病院外来に治験被験者の優先性を一般患者に理解してもらうためのポスターを外来へ掲示及び院内電光掲示板へ掲示し周知した。 ・治験依頼者が遠隔地から治験実施状況を確認できるリモートデスクトップシステムを導入し、12月10日から運用を開始した。 ・製造販売後調査にかかる請求について、契約締結時に請求する前払方式を後払（実績払）方式へ変更する治験等経費算定要領の改正手続きを行い、外部資金の増加を図った。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】臨床研究の新規実施件数（倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会及び治験審査委員会の承認を受けて実施される臨床研究の新規件数の合計）195件及び令和7年度までの累計 【実施予定】第4期中間報告に向けて、医学研究支援センターの教員及びCRC職員等の支援体制を強化するとともに、これまでの臨床研究新規実施件数や支援方策による効果の分析と検証を行い、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●目標値に前年度の値は記載されているが、累計値が記載されていません。目標設定を変更されたのでしょうか。 ●実績値として報告されている臨床研究の数は、計画の中に挙げられている疾患等に関するものと考えてよいでしょうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞				
		【10-3-B】 不妊治療施設（新設施設）の治療件数 経営企画課	不妊治療施設（新設施設）の治療件数	基準値：2007件 対象期間：R4	目標値：基準値超（130%：2609.1件超） 対象期間：R9（単年度）	【目標値】2208件（累計6323件）（治療件数の令和4年度比130%） 【実施予定】デジタル情報技術ICTを活用して、患者へかかりつけ医～生体センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークを構築する。 【自己点検・評価】 ①1 ② ③	【実績値】2,745件 【実施状況・成果】 令和6年4月からFukui ART Netの運用を開始し、令和7年3月末日で患者利用人数が129名となった。不妊治療を受けやすい環境を整備することで、県内完結型不妊治療体制が強化された。 【自己点検・評価】 ①1 ② ③	【目標値】2309件（累計8632件）（治療件数の令和4年度比130%） 【実施予定】デジタル情報技術ICTを活用した患者へかかりつけ医～生体センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークの構築により、福井県内の患者が福井県完結型として最善の不妊治療を受けることのできる体制を強化する。	経営企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○令和6年度は当初の目標の130%を超える達成となっており、社会ニーズの高さも考慮すると、高い評価を得る可能性があると思います。令和7年度も同様な達成となることを期待します。また、治療件数を補足するものとして、患者数や治療結果は挙げられないでしょうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞			

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況		自己点検・評価結果（全学 内部質保証委員会）	実施予定		経営企画課	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況
		(10)-3-C がん遺伝子パネル検査件数：50件以上（第4期の合計）／遺伝カウンセリング件数：40件以上（同） 経営企画課	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	基準値：－ 対象期間：－	目標値：①50件以上 （130%：65件以上） ②40件以上 （130%：52件以上） 対象期間：①②R4～R9の合計	【目標値】①30件（累計90件） ②15件（累計45件） 【実施予定】①県内医療機関を対象としたがんゲノムに関するセミナーを年1回以上開催し、広報を通して関連病院への連携強化を図る。 ②臨床遺伝専門医の養成・増員によるカウンセリング体制の強化を図る。	【実績値】①がん遺伝子パネル検査81件（累計241件）、②遺伝カウンセリング117件（累計248件） 【実施状況・成果】 ①・新たながんゲノム遺伝子パネル検査の導入、医師事務作業補助者の配置等、院内の運用体制を整備した。 ・次回のエキスパートパネル実施可能連携病院の申請に向けて課題を整理した。 ・県内医療機関を対象としたがんゲノムに関するセミナーを2/6に開催し、関連病院への連携強化を図った。 ・新規パネル検査（造血器腫瘍）の保険承認を受けて、院内の運用体制について検討し、今後の課題を整理した。 ②・遺伝カウンセリング担当医師、遺伝診療部員および遺伝診療部会委員の増員により、遺伝診療体制の強化を図る。 ・遺伝子検査の外注依頼方法について、関係部署と改善を検討した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3					①評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●実績値が目標値を大きく上回っているため、目標値の設定は適切だったので、疑問に感じます。 ○目標値をかなり大きく超える達成であるため、かえって平凡な評価点を付けられる可能性が少なくないと思います。令和7年度に実施予定のベンチマーキングによって、相対的にみて優れた実績であることを裏付けられるとよいかなと思います。	4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞
	中期計画 (10)-3				中期計画の達成状況 経営企画課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 Ⅳ 1) 目標値190件を達成したことにより、がん、炎症・アレルギー疾患及び循環器・脳神経疾患等に対する予防・診断方法の開発、治療方法への応用等が加速された。また、治療促進にかかる環境の整備や治療等協定薬価の算定基準の改正により、今後の治療等件数の増加及び外部資金の収入増に繋がった。 2) 不妊治療件数は2,746件で、目標を達成した。県内完結型の不妊治療体制の充実を図るため、令和6年4月から医療情報ネットワーク（Fuuka ART Net）の運用を開始し、患者が不妊治療を受けやすい環境を整備した。 3) 県内医療機関を対象としたがんゲノムに関するセミナーを1回開催し、関連病院との連携強化を図った。また、新たながんゲノム遺伝子パネル検査の導入、医師事務作業補助者の配置等、院内の運用体制を整備し、がん遺伝子パネル検査を81回実施した。遺伝カウンセリング担当医師、遺伝診療部員等の増員により遺伝診療体制を拡充し、117件の遺伝カウンセリングを実施することができた。	【評価結果】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅳ：計画を上回って実施している ＜コメント＞ ○期間全体で130%達成可能でしょうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○検査数等が増加しており、先般医師の開設・地域への提供が着実に進んでいることが評価できる。この成果を病院収入の増加や大学の知名度アップなどに繋げる取り組みがあるときに良いと思います。 ○【目標値】臨床研究の新規実施件数・治療件数を増加させつつ、がん遺伝子パネル検査数を維持し、前年度に比較して遺伝カウンセリング117件と顕著に増加したことは優れた実績・成果に繋がるものと期待される。	●評価指標に設定がない事項の申告はありませんが、以下はそれに該当するのではないのでしょうか。（新規に実施した臨床研究の中で行われているのでしたら、それがわかるように記載ください。） a) 難治がんの病態分析に基づいた集学的な進展制御法の開発 b) 炎症・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用 c) 循環器・脳神経疾患に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用 法人評価ではこれらが実施されているのかについても問われ得ます。上記a)～c)のこれまでの実施状況は如何でしょうか。		

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【業務運営】

○：学外公開、評価者による所感、今後の参考など
●：学外公開、部局に具体の対応や検討を依頼するもの

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		令和7年度	取りまとめ担 当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	自己点検・評価結果（全学内部質保証委員会）		実施予定	①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況
中期目標(11)	中期計画(11)-1	(11)-1-A	教職協働によるプロジェクト件数	基準値：- (参考) 第3期合計：10件 対象期間：-	目標値：10件以上 (130%：13件以上) 対象期間：R4～R9の合計	【目標値】新規1以上（累計9件以上） 【実施予定】総合戦略室会議において議論し、新規1を1以上立ち上げる。 【実施状況・成果】 ・評価指標(7)-1-A「正規留学生数：第3期の年平均(118名)より増加」の達成を確実なものとするべく、正規留学生獲得プロジェクトチームを令和6年10月に設置した。現状の分析及び国の政策動向を含む外部環境に係る考察を踏まえた必要な戦略見直し等について教職協働によるメンバー構成で審議を行い、教員、事務局職員双方の意見を交えた審議を計5回実施し、令和7年2月に総合戦略室会議へ提言を行った。 【自己点検・評価】 ① ②3 ③3	【実績値】新規1件（正規留学生獲得プロジェクト）（累計10件） 【実施状況・成果】 ・評価指標(7)-1-A「正規留学生数：第3期の年平均(118名)より増加」の達成を確実なものとするべく、正規留学生獲得プロジェクトチームを令和6年10月に設置した。現状の分析及び国の政策動向を含む外部環境に係る考察を踏まえた必要な戦略見直し等について教職協働によるメンバー構成で審議を行い、教員、事務局職員双方の意見を交えた審議を計5回実施し、令和7年2月に総合戦略室会議へ提言を行った。 【自己点検・評価】 ① ②3 ③3	【目標値】新規1以上（累計10件以上） 【実施予定】総合戦略室会議において議論し、新規1を1以上立ち上げる。 【実施状況・成果】 ・評価指標(7)-1-A「総合戦略室会議において議論し、新規1を1以上立ち上げる」の達成を確実なものとするべく、総合戦略室会議において議論し、新規1を1以上立ち上げる。 【自己点検・評価】 ① ②3 ③3	経営戦略課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●1は1年単位で結成解散されているように見受けられました。例えば、R05の社会的インパクト対応計画の成果により、社会的インパクトの向上に繋がったものなどは挙げられるのでしょうか。 ○念のため、継続しているプロジェクトの件数も把握しておくといでしょう。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞
	中期計画(11)-1				中期計画の達成状況 経営戦略課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 ・令和5年度までの実績に加え、令和6年度に1件（正規留学生獲得）のプロジェクトを立ち上げたことで、目標値10件以上を前例により達成した。 ・これまで立ち上げたプロジェクトの成果の検証に着手しており、今後は学長のリーダーシップのもと見直しを図るとともに、教職協働によるプロジェクト型の業務遂行を更に強化する予定である。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している ＜コメント＞	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない ＜コメント＞ ○優れた取組として、認められる内容が含まれているのかどうか、このシートでの記述のみでは判断できない ○3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない」と判断する。ただし、これまで立ち上げたプロジェクトの成果の検証に着手しているとの記載があり、各プロジェクトの検証結果によっては12）評価もあり得ると考える。 ○「成果」を取り纏めてお示し下さい。その、プロジェクトが直接生み出した成果でないものも広く集めるというのではないのでしょうか（法人評価対応としては）。例えば、工学部で京都向け入試広報を強化して京都会場での受験生が1.4倍に増えたことや、県との協働により入試広報を担った教員・職員を雇う制度を県が作り本学でもその活用をすすめていることは入試戦略プロジェクトで受験生動向を調査した結果とすればよいでしょう	評価指標に設定がない事項のコメント
	中期計画(11)-2	(11)-2-A	組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」	基準値：- (参考) 対象期間：-	目標値：実施 対象期間：R4～R9の毎年度	【目標値】- 【実施予定】前年度モニタリング結果に対し、必要に応じてフォローアップを実施するとともに、新たに当該年度のテーマを設定し、組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」を実施する。 【実施状況・成果】 令和6年度は、これまでで本学や他大学で発生したインシデント等を踏まえて、全学共通のテーマで行う定期的モニタリング事項を「防火・防犯管理に関する規則等の整備・運用状況」と定め（令和6年6月内部統制委員会（役員会）決定）、関係する規則やマニュアル等について、構成員に周知され、これに付いた運用がみられているかの点検を行った。 また、各部局でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、部局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行うこととした。（推奨テーマ：(1)各部局における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部局の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)福大事務局生産性向上行動チェックリスト） この際、全てのテーマに対して具体的な点検事項を設定し、より統一的な観点で点検を行える仕組みとした。 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部局からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備・運用状況が十分でないことが判明した部局においては、点検結果を踏まえて、総管理層の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これについては、他部局でも実施可能な（参考となる取組）と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 （令和6年12月24日事務局マネジメント会議、令和6年1月20日全学運営委員会、令和7年1月29日内部統制委員会（役員会）） 【自己点検・評価】 ① ② ③3	【実績値】- 【実施予定】前年度モニタリング結果に対し、必要に応じてフォローアップを実施するとともに、新たに当該年度のテーマを設定し、組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」を実施する。 【実施状況・成果】 令和6年度は、これまでで本学や他大学で発生したインシデント等を踏まえて、全学共通のテーマで行う定期的モニタリング事項を「防火・防犯管理に関する規則等の整備・運用状況」と定め（令和6年6月内部統制委員会（役員会）決定）、関係する規則やマニュアル等について、構成員に周知され、これに付いた運用がみられているかの点検を行った。 また、各部局でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、部局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行うこととした。（推奨テーマ：(1)各部局における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部局の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)福大事務局生産性向上行動チェックリスト） この際、全てのテーマに対して具体的な点検事項を設定し、より統一的な観点で点検を行える仕組みとした。 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部局からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備・運用状況が十分でないことが判明した部局においては、点検結果を踏まえて、総管理層の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これについては、他部局でも実施可能な（参考となる取組）と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 （令和6年12月24日事務局マネジメント会議、令和6年1月20日全学運営委員会、令和7年1月29日内部統制委員会（役員会）） 【自己点検・評価】 ① ② ③3	【目標値】- 【実施予定】前年度モニタリング結果に対し、必要に応じてフォローアップを実施するとともに、新たに当該年度のテーマを設定し、組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」を実施する。 【実施状況・成果】 令和6年度は、これまでで本学や他大学で発生したインシデント等を踏まえて、全学共通のテーマで行う定期的モニタリング事項を「防火・防犯管理に関する規則等の整備・運用状況」と定め（令和6年6月内部統制委員会（役員会）決定）、関係する規則やマニュアル等について、構成員に周知され、これに付いた運用がみられているかの点検を行った。 また、各部局でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、部局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行うこととした。（推奨テーマ：(1)各部局における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部局の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)福大事務局生産性向上行動チェックリスト） この際、全てのテーマに対して具体的な点検事項を設定し、より統一的な観点で点検を行える仕組みとした。 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部局からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備・運用状況が十分でないことが判明した部局においては、点検結果を踏まえて、総管理層の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これについては、他部局でも実施可能な（参考となる取組）と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 （令和6年12月24日事務局マネジメント会議、令和6年1月20日全学運営委員会、令和7年1月29日内部統制委員会（役員会）） 【自己点検・評価】 ① ② ③3	総務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○既に十分な成果が得られているように思われます。今後は、新テーマを設定しない、モニタリング項目を絞っていくなど、達成されたものについては減じていき、教職員各自が自由に使える時間を増やしていくための内部統制システムの整備・運用にシフトして行っていくのが良いでしょう。2文目以降は、多くの取組が継続的に行われているように見えただけで記載しました。現状がほかっていないので、間違っコメントがもしあれば、	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果	
						実施予定	実施状況	自己点検・評価結果（全学内品質保証委員会）	実施予定			
	中期計画(11)-2				中期計画の達成状況 総務課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】 また、各部署でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、他局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行ったこと。（推奨テーマ：(1)各部署における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部署の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)協大事務局生産性向上行動チェックリスト） 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部署からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備、運用状況が十分でないことが判明した部署においては、点検結果を踏まえて、鍵管理の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これらについては、他部署でも実施可能な「参考」となる取組」と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 今回の点検から、全てのテーマに対して具体的な「点検事項」を設定したことと、より統一した観点での点検が可能となり、これに基づく結果の共有及び改善のサイクルにより、内部統制機能の強化に繋がっている。	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 令和6年度は、これまでに本学や他大学で発生したインシデント等を踏まえて、全学共通のテーマで行う定期的モニタリング事項を「防火・防犯管理に関する規則等の整備、運用状況」と定め、関係する規則やマニュアル等について、構成員に周知され、これに沿った運用が為されているかの点検を行った。 また、各部署でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、他局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行ったこと。（推奨テーマ：(1)各部署における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部署の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)協大事務局生産性向上行動チェックリスト） 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部署からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備、運用状況が十分でないことが判明した部署においては、点検結果を踏まえて、鍵管理の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これらについては、他部署でも実施可能な「参考」となる取組」と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 今回の点検から、全てのテーマに対して具体的な「点検事項」を設定したことと、より統一した観点での点検が可能となり、これに基づく結果の共有及び改善のサイクルにより、内部統制機能の強化に繋がっている。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○情報発信の方法次第では、優れた取組として既に十分押し出しているのではないであろうか？今後は、是非、働き方改革のための内部統制システム構築に向けてシフトしていき、その方向での成果も期待します。 ○取組が十分行われていることはわかります。その取り組みによって図られた改善に限定せずには、広く改善事例を集め、モニタリングの方向性、目的とあうものがあれば積極的にモニタリングに紐づけてその成果とすればよいのではないであろうか。	評価指標に設定がない事項のコメント
中期目標(12)	中期計画(12)-1	(12)-1-A	共用設備の使用件数	基準値:52,639件 (文京:27,348件) (松岡:25,291件) 対象期間:H28～R2 平均値×6年間分	目標値:基準値超 (130%:68430.7件超) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】学内外による共用設備等の使用件数（文京：4,922件（累計14,765件））（松岡：4,216件（累計12,648件）） 【実施予定】研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに則り、学内の共用設備のコアファンリタリティを推進し、戦略的に共用設備の有効利用を図る。 地域企業からの技術相談等を通じて利用率の向上を図るとともに、機器の運営にあたっては専門人材を配置することで、戦略的に有効活用を図る。ライフサイエンス支援センターにおいては、前年度までのセンターの共同利用機器等の利用状況と分析し、ニーズの高い共同利用機器などの最先端機器への更新を進める。	【実績値】学内外による共用設備等の使用件数（文京：6,941件（累計18,975件））（松岡：4,045件（累計13,935件）） 【実施状況・成果】 ・研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに則り、戦略的に構築された共用の仕組みを構築するため、全学的な視野から研究設備の戦略的な導入、整備及び運用に関する重要事項を審議する場として、研究設備企画調整委員会を設置し、共用設備の整備計画について検討した。 ・研究設備の更新計画を策定するにあたり、研究に際する設備・機器の需要状況等に関する学内のアンケート調査を実施したほか、附属テクニカルイノベーション共創センターでは、経済産業省の補助事業に採択され、約2億2千万円をかけ、最先端の電子顕微鏡類を新たに導入し、学内外への共用を開始した。 ・ライフサイエンス支援センターでは、電子顕微鏡に関わる受託業務が2件あった。新たにセルアナライザー-BD FACSymphony A1およびライブセルイメージング装置（APX100）をバイオ実験機器部門に導入し使用説明会を実施した。新たに導入した機器は随時センターHPCに写真付きで詳細を紹介し、利用者に広く周知した。なお、R1部門では2000年頃のピーク時に比べて利用者数が10分の1以下となったことに加えて、R1施設が老朽化したことなどを主な理由として、令和7年度に廃止することが決定した。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】学内外による共用設備等の使用件数（文京：4,922件（累計19,688件））（松岡：4,216件（累計12,648件）） 【実施予定】研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに則り、学内の共用設備のコアファンリタリティを推進し、戦略的に共用設備の有効利用を図る。 地域企業からの技術相談等を通じて利用率の向上を図るとともに、機器の運営にあたっては専門人材を配置することで、戦略的に有効活用を図る。ライフサイエンス支援センターにおいては、センターの各部門の利用状況及び前年度までの共同利用機器等の利用状況と分析し、共同施設であるセンターの利用促進を進める。	研究推進課	①評価指標の達成状況 <コメント> ●松岡地区のR1部門の廃止は、R7年度の利用者数にどの程度影響があるかと想定されていますか。一方で、第3期と比較して、文京地区の使用件数が、約2,000件増加していますが、その理由がわかれば教えて下さい。また、この約2,000件の増加は、学内にどこどのような影響を及ぼしているのでしょうかとの両面あるのではないであろうか。 ○研究設備企画調整委員会を設置し、内外の研究動向も考慮に入れるなど、戦略的な対応がなされている ○研究機器の共用促進の目標かと思いますが、現有機器が変われば目標数も変わるのではないのでしょうか？	②改善方策等の策定状況 <コメント>	③前年度未達成の改善状況 <コメント>
	中期計画(12)-1				中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】 また、各部署でテーマ設定をする「日常的モニタリング事項」については、実際にインシデントが発生する等、特に注意が必要な8つの「推奨テーマ」を設定し、他局ごとの実状に応じてテーマを選択・決定し、点検を行ったこと。（推奨テーマ：(1)各部署における予算執行状況、(2)情報管理に関する規則等の整備・運用状況、(3)部署の運営に関する法律等改正への対応、(4)第4期中期目標・中期計画にかかる運用状況、(5)会議及び委員会等の運営について、(6)労働時間の適正化に向けた取組について、(7)業務委託に関する規則等の整備・運用状況、(8)協大事務局生産性向上行動チェックリスト） 令和6年7月から10月までの期間で点検を実施し、各部署からの報告の結果、全学的な対応が必要となるような大きな問題は無いことを確認した。また、整備、運用状況が十分でないことが判明した部署においては、点検結果を踏まえて、鍵管理の作成、会議での予算執行状況の共有を行った旨の報告があり、これらについては、他部署でも実施可能な「参考」となる取組」と併せて、全体のモニタリング結果として、各会議への報告を行った。 今回の点検から、全てのテーマに対して具体的な「点検事項」を設定したことと、より統一した観点での点検が可能となり、これに基づく結果の共有及び改善のサイクルにより、内部統制機能の強化に繋がっている。	【進捗状況】中期計画の達成度：Ⅳ 学内外による共用設備等の使用件数（文京：6,941件（累計18,975件））（松岡：4,043件（累計13,935件）） ・研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに則り、戦略的に構築された共用の仕組みを構築するため、全学的な視野から研究設備の戦略的な導入、整備及び運用に関する重要事項を審議する場として、研究設備企画調整委員会を設置し、共用設備の整備計画について検討した。 ・研究設備の更新計画を策定するにあたり、研究に際する設備・機器の需要状況等に関する学内のアンケート調査を実施したほか、附属テクニカルイノベーション共創センターでは、経済産業省の補助事業に採択され、約2億2千万円をかけ、最先端の電子顕微鏡類を新たに導入し、学内外への共用を開始した。 ・ライフサイエンス支援センターでは、電子顕微鏡に関わる受託業務が2件あった。新たにセルアナライザー-BD FACSymphony A1およびライブセルイメージング装置（APX100）をバイオ実験機器部門に導入し使用説明会を実施した。新たに導入した機器は随時センターHPCに写真付きで詳細を紹介し、利用者に広く周知した。なお、R1部門では2000年頃のピーク時に比べて利用者数が10分の1以下となったことに加えて、R1施設が老朽化したことなどを主な理由として、令和7年度に廃止することが決定した。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない <コメント> ○この取り組みの結果、具体的な共同研究成果（論文や特許など）に結びついた例があれば、または2の評価となると幸いです。 ○各部署の学内利用に見合った学外共用の目標達成の中で優れた実績・成果かと思います。上記コメントの内容や、記述のあった「附属テクニカルイノベーション共創センターでは、経済産業省の補助事業に採択」の成果など、挙げられるものはないのでしょうか。 ●共用によって生みだされた成果事例の収集を進めてください。	評価指標に設定がない事項のコメント

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果（全学内部質保証委員会）	令和7年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況		実施予定	①評価指標の達成状況		②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況	
	中期計画(12)-2	(12)-2-A	エネルギー消費原単位値（原油換算値）の削減割合 対象期間：12R8～12Rの平均	基準値：0.04034kL/m 対象期間：12R8～12Rの平均	目標値：0.038323kL/m以下 （130%：0.0377179kL/m以下） 削減率5%の1.3倍の目標 対象期間：19（本年度）	【目標値】0.03900kL/m以下 【実施予定】エネルギー消費原単位の削減を目指し、施設の更新・改修を継続・拡大する。また、新築又は改修時には「ZEB Oriented」等を検討する。	【実績値】0.03624kL/m 達成見込み（7月提出エネルギー定期報告書と整合し修正予定） 【実施状況・成果】 ・文京総合研究棟1及び教育1号館の、既設エアコン（64系統515室内機）に対して導入したエネルギーマネジメントサービスの継続的運用により、運転電力削減（65千kWh/年、原油換算値14t）を果たした。また、夜間照明停止や、人感センサー設定見直し等の継続的な運用改善により、原油換算値で180kLのエネルギー削減を行った。 ・次の事業にてZEB化（ZEB Oriented等）の導入を行い、一次エネルギー消費量の基準値以下への低減を達成する見込みである。 （松岡）基礎実習棟改修 （松岡）高度波ばく医療支援施設新営 ・施設更新・維持経費抑制に向けたエコ改修費等を財源とした次の事業にて、LED照明器具及び高効率空調機への更新を行った。これにより得られた削減効果（光熱費相当額101万円）は翌年度のエコ改修費に追加した。 （文京）アカデミーホール集会室等照明設備改修 （文京）逆赤外領域開発研究センター照明設備改修 （文京）総合情報館空調設備改修 （松岡）福利棟2階照明設備改修 ※エコ改修費・エコ改修（附属病院を除いた全ての団地を対象に実施する省エネ・省コスト・快適性を目指し、高効率エネルギー設備の導入改修）により削減した光熱水費相当額をエコ改修費とし、次年度以降のエコ改修に充てる仕組みとして平成28年度から開始した。 以上の実施により、目標値を上回る実績を果たした。 ・令和5年4月1日に創設されたカーボンニュートラル（以下、CN）推進本部により脱炭素化に特化したプラットフォームの構築を目指すものとしており、今年度、CNに向けたロードマップの策定を行い、HP上で公表した。政府による2050年CN宣言における削減目標値の、2013年度比51%削減に対し、現在は、2023年実績値で21%削減状況であり、引き続き上記のようなエコ改修によるエネルギー及びCO2削減に努める。 ・CN推進及び、2023年の「水銀に関する水俣条約第5回締約国会議」にて、蛍光灯の製造が2027年未までに禁止と決定したため、蛍光灯の調達困難に対応するため、早期にLED化が必要であることから、初期投資ゼロで事業を実施できるリース事業にて、文京団地及び二の宮団地のLED化事業を開始した。LEDへの取替工事完了は令和7年12月を予定しており、これにより、文京団地のLED化率は21%→79%、二の宮団地は85%→95%と上昇し、エネルギー削減量は323千kWh/年、電力削減額は14,852千円/年、CO2削減量は269t-CO2/年を見込んでいく。	【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3			①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	
	施設企画課	施設企画課												
	中期計画(12)-2				中期計画の達成状況 施設企画課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況】中期計画の達成度Ⅱ ・省エネ活動の啓発等により消費量は着実に低減している。令和6年度の実績値は、中期計画の評価指標における削減目標に対し第3期の年平均より10.1%削減（7月提出のエネルギー定期報告書と整合し修正予定）され、目標値を5%以上を達成した。 ・空調機の名エネルギーサービス運用継続や機器運用改善等により原油換算値で194kLのエネルギー削減が図られた。 ・エネルギー削減に向けたZEB化（ZEB Oriented）を建物新築1事業に導入した。またエコ改修費等により、1事業の省エネ改修を実施した。 【特記事項】 エネルギー消費量低減事業（LED照明器具、高効率空調及び複層ガラスへの更新など） （文京、二の宮）教育系1号館等照明設備改修 ※リース事業 （文京）アカデミーホール集会室等照明設備改修 （文京）逆赤外領域開発研究センター照明設備改修 （文京）総合情報基盤センター第一棟末室空調設備等改修 （松岡）福利施設2階照明設備改修	【評価結果】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅳ計画を上回って実施している ・目標とする削減率は5%であるが、その1.3倍の削減率である6.5%を越える10.16%の削減率となっているためⅣとした。	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない ＜コメント＞ ○本計画の指標は現在の社会情勢の中で重要なものであり、達成にはそれ相応の努力が求められる「一定の困難さのある指標」だと思います。その指標について達成状況が非常に良好であるとはアピールできますし、それに加えて「〇〇〇の削減により確保した予算でエネルギー効率の高い△△の導入を進め、それによってさらに削減率が高まるなど、全学的なエネルギーマネジメントのもと削減の好循環を作り出している。△△の導入により研究電費が削減した施設では□□などの質の高い研究成果があがっている」というような主張ができれば、「優れた実績・成果」として認められる可能性は出てくるかと思います。	⑥評価指標に設定がない事項のコメント 「戦略的な施設整備・運用を推進」しているかの記載をお願いします。 ●評価指標に設定がない事項として「戦略的な施設設備・運用の推進」が申告されていますが、報告された個々の取組の中にその推進の状況が明らかにされています。戦略的な施設設備・運用の推進という観点で、様々な取組に横ぐしをさした記述もいたさないででしょうか。	
中期目標(13)	中期計画(13)-1	(13)-1-A	産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン（追補版）を踏まえた外部資金の獲得に関する新たな取組（第4期の合計）	基準値：- 対象期間：-	目標値：2件以上（130%：2.6件以上） 対象期間：R4～R9の合計	【目標値】 外部資金の獲得に関する新たな取組について。 【実施予定】クラウドファンディングの取組を定着させ、毎年度新たなプロジェクトの取組を実施する。 大学発ベンチャーによる、新株予約権等での支払いの定着を促す。	【実績値】 1件 累計 2件 【実施状況・成果】 ・クラウドファンディングについては、JST COI-NEXT事業において実施を検討したが、条件が合わず実施に至らなかった。 （大学発ベンチャー）に対する支援に関しては、令和5年度に北陸先端科学技術大学院大学と金沢大学とを共同大学として「国際なスタートアップエコシステム共創プログラム地域プラットフォーム共創支援」Itech Startup HOKURIKU(TeSH)事業のR6年度のステップ1において、研究代金として1名（年間165万円）、研究分担者として1名（年間26万円）が採択された。そのうち1件は令和6年度最終報告会において、北陸地区全体の発表者21名中、2位の高い評価を得て、令和7年度ステップ2の採択（年間6,000万円）に至った。その他、令和7年度ではステップ1で1名（年間650万円）及び研究分担者として1名（年間50万円）が新たに採択されており、さらに、本事業の取組の中で、VC（ベンチャーキャピタル）へのベンチャービジネスを実施し、知財確保等の観点から意見交換がなされるなど、今後、大学発ベンチャーの創出が期待されている。 ・新株予約権に関しては、令和7年3月に規程の整備が完了し、令和7年4月1日より施行となっている。今後、大学発ベンチャーの創出に伴って、新株予約権の受入れが望まれるが、東京大学等の指定国立大学を含め、全国でも受入実績がある大学は数大学のみであることから、非常に高い目標となっている。	【自己点検・評価】 ①1 ② ③	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●新たな取組＝クラウドファンディングという認識でよいでしょうか。 ●前回の導入により1. 評価指標が目標値を達成している」と判断しますが、安定的な財務基盤の構築に繋がっているのでしょうか。 ●クラウドファンディングの実施は令和6年度に実施されているが、今回はどのような条件が合わず実施に到らなかったのか。当該取組みを定着させるためには、どのような企画であれば条件が合致するとお考えでしょうか。 ●新たな取組について……は新たな取組の存在を前提としているが、それはR6に始めたものを指すのか、第4期に始めたものを指すのか、わからない。また、「定着を促す」という指標に対する実績値が「件数」であり、かつ合っていない。総じて、指標の立て方に不備があると考えます。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞		

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		自己点検・評価結果（全学内部質保証委員会）	令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況		実施予定		評価指標の達成状況	改善方策等の策定状況	前年度未達成の改善状況
		(13)-1-B 相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額：第3期（9,129千円）より増加（第4期の合計）（再掲） 地域連携推進課	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	基準値：9,129千円 対象期間：H28～R3の合計	目標値：基準値超（330%：11867.7千円超） 対象期間：R4～R9の合計	【目標値】5,000千円（累計11,500千円） 【実施予定】嶺南地域における地域課題と地域振興に資するプロジェクトを通じて、共同研究、受託研究、受託事業等を推進する。 これまでの実績と検討を踏まえ、プロジェクトの複数市町への展開を進める。	【実施状況・成果】 嶺南2市町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを新たに立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進した。令和6年度の外部資金受入金額の内訳は、敦賀市との受託事業7件で1,496千円、共同研究の実績として、美浜町件（金額非公開）、おおい町1件500千円、高浜町2件2,137千円、総計で9,699千円を受入れた。これは令和6年度目標値（5,000千円）の約1.9倍に達する実績である。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】3,000千円（累計14,500千円） 【実施予定】嶺南地域における地域課題と地域振興に資するプロジェクトを通じて、共同研究、受託研究、受託事業等を推進する。 これまでの実績と検討を踏まえ、プロジェクトの複数市町への展開を進める。	地域連携推進課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○目標値を大幅に上回る成果を上げている ●福井県からの受託事業等はないということでしょうか。また、先方の満足度はいかがでしょうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ○	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ○
	中期計画(13)-1				中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 ・クラウドファンディングについては、JST COI-NEXT事業において実施を検討したが、条件が合わず実施に至らなかった。 ・大学発ベンチャーに対する支援に関しては、令和5年度に北陸先端科学技術大学院大学と金沢大学が主幹大学として申請したスタートアップ・エコシステム共創プログラム地域プラットフォーム共創支援「Tech Startup HOKURIKI(UTeSH)」事業のR6年度のステップ1において、研究代表として1名（年間455万円）、研究分担者として1名（年間26万円）が採択された。そのうち1件は令和6年度最終報告会において、北陸地区全体の発表者21名中、2位の高い評価を得て、令和7年度ステップ2の採択（年間6,000万円）に至った。その他、令和7年度ではステップ1で1名（年間640万円）及び研究分担者として1名（年間50万円）が新たに採択されており、さらに、本事業の取組の中で、VC（ベンチャーキャピタル）へのベンチャーマッチングを実施し、知財確保等の観点から意見交換がなされるなど、今後、大学発ベンチャーの創出が期待されている。 ・新株予約権に関しては、令和7年3月に規程の整備が完了し、令和7年4月1日より施行となっている。今後、大学発ベンチャーの創出に伴って、新株予約権の受入れが望まれるが、東京大学等の指定国立大学を含め、全国でも受入実績がある大学は数大学のみであることから、非常に高い目標となっている。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 IV：計画を上回って実施している ＜コメント＞ ○嶺南PJの令和6年度目標値（5,000千円）の約1.9倍に達する実績を踏まえ、IV：計画を上回って実施している」と判断する。（嶺南の実施状況を記載願います。） ○地域の課題解決に資する取組は、今後の地方国立大学のモデルとなるものかと思えます。高いレベルの取組は、今後の3年間かと思いますが、積極的に優れた実績・成果となるものをぜひ提示して行って頂きたいと思えます。また、(13)-1-Aについても、これから優れた実績・成果に繋がるものが出てくるように見受けられました。積極的に示していけるような仕掛けをお願いします。 ○13. 優れた実績・成果が認められる取組等がない」と判断するが、嶺南で行われているプロジェクトの成果によっては12.1評価もあり得ると考える。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○嶺南プロジェクトはとても重要な取組です。取組がなされた結果、どのような成果があったのか、ベンチャーは立ち上がったのちどうなるのか、何に貢献しているのか、今後具体的なエビデンスの記載を期待します。	評価指標に設定がない事項のコメント ●資金の有用な活用がなされているか記載をお願いします。
中期目標(14) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づく自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それをういたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うことも。	中期計画(14)-1 エビデンスベースによる法人運営を目指し、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価を実施・開示（第4期）（毎年度） 経営戦略課	(14)-1-A 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を実施・開示（第4期）（毎年度） 経営戦略課	教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価	基準値：- 対象期間：-	目標値：実施・開示 対象期間：R4～R9の毎年度	【目標値】- 【実施予定】教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を実施し、6月末を目途に開示する。	【実施状況・成果】 ・取組は、令和6年5月1日現在の員数データ及び令和5年4月1日～令和6年3月31日の実績データ等を対象に自己点検・評価を実施し、結果を「令和6年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価報告書」に取り組み、関係部に通知し改善への取組を依頼するとともに本学公式HP（https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/outline/management/06/self-inspect/）で公開した。なお、各ステークホルダーへより分かりやすく結果を伝えるための概要版も作成し、報告書と同様に本学公式HPで公開した。（自己点検・評価実施期間：令和5年5月～6月、報告書公開：令和6年6月） ・員数群：編（令和6年11月1日現在）及び実績群：編（令和5年4月1日～令和6年3月31日（通って集計が必要なデータ））のデータ分析の結果については、補綴として作成し、本学公式HPで公開した。（自己点検・評価実施期間：令和6年11月～12月、報告書公開：令和6年12月） ・当該自己点検・評価報告書では、各分析基本データの状況をMicrosoft社のPowerBIを活用して可視化（グラフ作成）しており、経年比較や学部比較のグラフを追加するなどステークホルダー向けにも分かりやすい内容としている。また、第4期中期目標・中期計画の進捗を示す定量的な評価指標で構成される特徴データについても、毎年度の目標値と実績値を一覧にとりまとめている。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3		【目標値】- 【実施予定】教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を実施し、6月末を目途に開示する。	経営戦略課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ○	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞ ○

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度			令和7年度		取りまとめ担 当 取組関係課	自己点検・評価結果	
						実施予定	実施状況	自己点検・評価結果（全 学内部質保証委員会）	実施予定	達成度			
12. 双方方向 の対話を通じて 法人経営に対す る理解・支持を 獲得する。	中期計画(14)-1				中期計画の達成状況 経営戦略課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 ・「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」を行い、その結果の報告書及び、結果を簡易的にまとめた概要版を関係部局に周知し改善を促すとともに、本学中で公開してステークホルダーに周知した。この質保証の仕組みの構築により合理的・客観的根拠(エビデンス)に基づく法人運営機能が強化された。	【評価結果】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 ④計画を十分に実施している <コメント> ○毎年システムアップが行われています。このやり方が全国のスタンダードなのか、そうでないのかにより、優れた実績・成果となるのかどうかというところだと思います。他大学の状況などご存じなのでしょうか？本学独自ののでしょうか。存じ上げないのでこの部分の評価が難しいです。 ○「2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある」と判断するが、他大学等との比較において本学が優れていることを示せば「1」の評価もあり得ると考えます。 ○本計画は「優れた実績・成果」のための基礎づくりの性格が強いので、それ自体に優れた成果を求めることにはそもそも難しいように思います。ただ、以下の考え方はありえるかと思えます。 部局等で行われている自己点検・評価はこの計画の傘下にあると考え、それによって挙がっている成果も広く本計画の成果として考える。そうすると、例えば、工学部においては、志願倍率の低下を受けて京都向け入試広報を強化して京都会場志願者が1.4倍に増えたことや、受験生の確保につながったことや、県と協働して県内就職向上策を検討したことで「県内大学（工学系）における県内就職促進事業」が実施されたことは、本計画の成果としてアピールできるのではないのでしょうか。他部局でもいろいろ事例はあるのではないのでしょうか。特に「教育の質の向上や」質の高い研究成果として主張できるものもよいからと思えます。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○第四期の中間評価、最終評価が良好なものであれば、その要因として優れた取組であったといえると思います。 ○「2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある」と判断するが、他大学等との比較において本学が優れていることを示せば「1」の評価もあり得ると考えます。 ○本計画は「優れた実績・成果」のための基礎づくりの性格が強いので、それ自体に優れた成果を求めることにはそもそも難しいように思います。ただ、以下の考え方はありえるかと思えます。 部局等で行われている自己点検・評価はこの計画の傘下にあると考え、それによって挙がっている成果も広く本計画の成果として考える。そうすると、例えば、工学部においては、志願倍率の低下を受けて京都向け入試広報を強化して京都会場志願者が1.4倍に増えたことや、受験生の確保につながったことや、県と協働して県内就職向上策を検討したことで「県内大学（工学系）における県内就職促進事業」が実施されたことは、本計画の成果としてアピールできるのではないのでしょうか。他部局でもいろいろ事例はあるのではないのでしょうか。特に「教育の質の向上や」質の高い研究成果として主張できるものもよいからと思えます。	評価指標に設定がない事項のコメント	
	中期計画(14)-2	【14】-2-A connect Ufukuの本法人 経営に対する更なる支持を 目指し、ステークホルダー 別にそれぞれの特性を考慮 した情報配信や対話（意見 交換）の機会を設け、ス テークホルダーの意見を反 映した大学運営を行う。	connect Ufukuの登録者 数 connect Ufuku（※）の登 録者数：2,000人以上（第 4期の最終年度） ※ ニュースソースに応じ てステークホルダー別に一 部配信を行う本学独自に開 発したメール配信システ ム。	基準値：- 対象期間：- 対象期間：R9（単年 度）	目標値：2,000人以 上 （130%：2600人以上） 対象期間：R9（単年 度）	【目標値】登録者数：1500人 【実施予定】登録者数の登録カ ンペーン前の増減を確認し、発信情報 の精度や登録案内の通知の方 法の検証を行なう。 特に学生の登録者増加に目標を 置き、卒業後も続ける意識をも てもらえるよう、登録内容の変更など の案内を強化する。	【実績値】1515 【実施状況・成果】 昨年に引き続き新入生ガイダンス時にconnectUfukuの新入生を対象とする登録案内チラシを配布し登録を促した。受験生対策としてオープンキャンパスで登録案内チラシを配布した他、入試課の協力のもと高校での説明会や大学見学时にもチラシを配付し登録促進を図った。広報誌のアンケート企画と合わせて登録案内も行っている。これらの結果、目標値を達成した。卒業や登録解除なども出てきているがメールアドレスの数字は登録数増加を維持している。次年度以降大学のメールアドレスで登録している分が今後減少することも想定し、卒業生の登録やご家族への登録案内を強化する予定。		【目標値】登録者数：2000人 【実施予定】前年に引き続き新入生及び在学生への登録案内に努める。また入学者希望者に対しても引き続き案内を行い目標値の達成を図る。将来のステークホルダーの抱える課題の把握に繋げると考え若年層の取り込みを図る。	広報課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ○登録者数が伸び悩んでいる ○未達が予想され厳しい状況ではないか ○登録者数が、目標値を超えることによる成果は見えてきているのでしょうか。 ○connect Ufukuの登録者数の伸び悩みの理由は何が、分析結果はどうだったのでしょうか。単に登録者数だけをフォローするのではなく、配信内容の分析がなされていないのでは？ ●登録者が解読しない対策は考えられますでしょうか。目標値の増加数が、250から500に上がっていますので、複数の対策を講じる必要があるかと思えます。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント>
		【14】-2-B 令和9年度までにconnect Ufuku等で配信したニュー スに対するステークホル ダーの関心度を測定する仕 組みを構築	connect Ufuku等で配信 したニュースに対するス テークホルダーの関心度 を測定する仕組み	基準値：- 対象期間：- 対象期間：R4～R9の 期間中	目標値：構築	【目標値】- 【実施予定】前年度までのシス テム運用を元に課題等を検証し、 システムの改修もしくは運用を行 なう。	【実績値】 【実施状況・成果】 本学広報誌「ふくたひ」プレス52号（2024年12月発刊号）のデジタルブックを題材としてconnectUfukuの登録者とInstagramにて配信しアンケート調査を行い、103件の回答を得た。 アンケートは性別、年代、居住地、職業、本学との関わりを選択し、学生の活動に関する情報、教員・研究者に関する情報を読み、動画で紹介し、その評価を得ると共に、今後広報誌にて掲載して欲しい教育活動、研究、社会貢献、グローバル等の情報を設問し回答を得た。これらの情報を精査・検討し、今後の情報発信に役立てたい	【自己点検・評価】 ①1 ② ③	【目標値】- 【実施予定】前年度までのシステム構築の検証を行ない改修のうえconnect Ufuku等で配信したニュースに対するステークホルダーの関心度を測定する仕組みを運用可能なものとして構築する。	広報課	①評価指標の達成状況 2. 評価指標が目標値を達成していない <コメント> ○登録者数に対しアンケート回収率は10%以下 ●通常のアンケートでは2割以下しか集めることはできないので、システムを利用したデータ収集が難しいのであれば、何らかの別な手立てを考える段階ではないか。また、最近、とんどんメルマガ系のものが増え続けている社会の動きの中で、この仕組みを維持して、かつ、そこからデータを収集することは現実的なのではないでしょうか ○関心度を測定する仕組みが構築できているか不明。 ○実施予定の前年度までのシステム運用を元に課題等を検証し、システムの改修もしくは運用を行なう」の実施状況が読み取れないため2とした。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが、十分ではない <コメント> ○アンケート結果より何をどうするか、具体策が示されていないと思います。 ●中期計画(14)-2を達成する観点から、メルマガが終焉を迎えているように感じ中、時代に即した評価指標への変更は可能でしょうか？	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし（達成済み） <コメント> ○90%以上の登録者からアンケートに対する回答が寄せられなかったことについて、どのように考えるかだと思います。実質100人しか利用していないのだから（その100人は誰で、いつ登録した人たちなのかの分析は？）、相当に本腰を挙げて改善に取り組む必要があるのではないのでしょうか ○時代に即した。評価指標への変更はできないのでしょうか。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度	令和7年度	取りまとめ担 当 取組関係課	自己点検・評価結果			
						実施予定	実施状況			自己点検・評価結果（全 学内部質保証委員会）	実施予定	
中期目標(15)	中期計画(15)-1	(15)-1-A	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	基準値:- 対象期間:-	目標値:延べ60名 (130%:延べ78名) 対象期間:R4～R9の 合計	【目標値】研修会参加者数10 名程度(各部2名程度)(累計 の値) 【実施予定】令和5年度に行った 検証を基に、必要に応じて研修 内容等の改正を行った上で研修 会を開催する。また、研修終了後 にアンケート調査を実施し、研修 内容等の検証を行う。併せて、3 年間の研修会参加者数の確認 及び研修受講者のデジタル技術 の活用程度に係る検証を行う。	【実績値】28名(令和6年度) 【実施状況・成果】 令和4、5年度の研修を経て、DX化への意識は各課へ浸透してきているため、各課で実施している(した)DXの内容を共有できる場としてDX化のきっかけ「DX化実例紹介」(グループディスカッション)について、研修会(210分間)を実施した。 研修において、導入までの経路や方法(期間の短縮、展開方法等)の実例を紹介や話し合いを行ったことにより、「非常に参考になり、他部署での取り組みから多くの刺激を受けた」「自身の業務にも活かしたい」という意識が高まった。「DX推進における担当者の存在が強いと感じたい」など前向きな意見が多くあった一方、「DXやRPAを活用できる場面が少ない」「RPA導入への手間や時間の労力がかかる」「RPAを試みたが挫折した」等、導入支援(サポート)や少人数での実践的な研修を望む意見も一部見られた。 令和4～6年度の研修参加者数(延べ人数)は68名であり、3年間の研修を通じて、DX化へ前向きと捉えられる意識付けは浸透していると考えられる。引き続き、DX化に対する、気づきや意識付けのための研修を実施するとともに、実践例の共有等を行っていく。 また、技術的なサポートについては、事務局DXITが行うハンズオンへの参加を通じて、ICT等の使い方を習得してもらう等協力で行うことが必要である。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】研修会参加者数10 名程度(各部2名程度)(累計 の値) 【実施予定】令和6年度に行った 検証を基に、必要に応じて研修 内容等の改正を行った上で研修 会を開催する。また、研修終了後 にアンケート調査を実施し、研修 内容等の検証を行う。	人事労務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ○各年度の目標値が○名(累計△名)というスタイルのため、実績値もこのスタイルで書いてください。現状、累計の記載が実績値のところにありません。 ○目標の1.3倍を大きく超える達成である。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>
AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとし たデジタル技 術の活用や、 マイナンバー カードの活用 等により、業 務全般の継続 性の確保と併 せて、機能を 高度化するこ ととともに、事 務システムの効 率化や情報セ キュリティ確保 の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。	業務全般の質の確保と機能の高度化を目指し、デジタル技術の活用に適した対象業務の洗い出しを行うとともに、運用環境の整備や開発人材の育成を推進し、AI・RPAなどデジタル技術の活用による業務運営体制を整備する。 総務課	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数(第4期の合計) 人事労務課	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	基準値:1件 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(3件以上) (130%:3.9件以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】1件(累計3件) 【実施予定】把握した導入スケジュールの進捗状況を確認すると共に、新たな取組予定についても把握する。 第4期中期日曜期間の2年日終了時点の目標値に対する達成状況を確認し、第4期終了時に目標が確実に達成できるよう、改めてスケジュールの確認等を行う。	【実績値】1件(AI検索エンジン(Perplexity)の導入) 【実施状況・成果】 令和6年度より、教職員が参加するWGグループ及びその関係課職員での業務活用のため、AI検索エンジン(Perplexity)の有料ライセンス版を導入した。本ソフトでは、WEB上の最新の情報をベースに、データソースを明記した上での文書生成が可能であり、これを利用することで、効率的な情報検索、精度の高い情報提供をベースとした予算要求調書の作成、文字起こしツールと連携した文書校正等を行うことができ、これらを手作業で行った場合と比べて大幅なコスト削減に繋がった。 また、これまでに導入したデジタル技術についても着実に活用を進めており、RPAでは新規に作成したロボット16件により約423時間の削減効果を見込む他、GoogleworkspaceやMicrosoft officeのパワーエリを活用した125件の改善相談・対応を行った。 さらに、事務局職員に対してはDXチェックリストによる点検で、個々の基本スキル等の確認を行い、この結果を元に、今後の研修計画やDX導入支援を進める予定である。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】1件(累計4件) 【実施予定】把握した導入スケジュールの進捗状況を確認すると共に、新たな取組予定についても把握する。	総務課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント> ●第4期末に向けての各年度新規導入候補計画は既にあるのでしうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>
		(15)-1-B	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数:第3期(1件)の3倍以上(第4期の合計)	基準値:1件 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(3件以上) (130%:3.9件以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】- 【実施予定】RPA体験教室修了者により、RPAロボットを1件以上作成し、RPA推進WGで進捗を管理する。また、修了者の所属部署において、業務のRPA化を修了者が支援する。 ・病院部内RPA推進WGを月1回以上開催する。 ・RPAの紹介動画の配信、RPA体験教室、RPA出前教室等を行い、ロボット作成者を増員していく。	【実績値】- 【実施予定】RPA体験教室修了者により、RPAロボットを1件以上作成し、RPA推進WGで進捗を管理する。また、修了者の所属部署において、業務のRPA化を修了者が支援する。 ・病院部内RPA推進WGを月1回以上開催する。 ・RPAの紹介動画の配信、RPA体験教室、RPA出前教室等を行い、ロボット作成者を増員していく。	経営企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>	
						【目標値】- 【実施予定】事務局DX推進プロジェクトを継続し、業務へのデジタル技術の導入促進と人材育成を図る。 具体的には、現在提供されているデジタル環境及びRPAなど新しい技術の活用方法を検討し、研修等により技術の定着を図るとともに、運用ルールを提示する。 また、今回も単年度のプロジェクトとして短期間の成果を求めるとともに、評価を基に次年度以降の取り組みを検討する。	【実績値】- 【実施予定】事務局DX推進プロジェクトを継続し、業務へのデジタル技術の導入促進と人材育成を図る。 具体的には、現在提供されているデジタル環境及びRPAなど新しい技術の活用方法を検討し、研修等により技術の定着を図るとともに、運用ルールを提示する。 また、今回も単年度のプロジェクトとして短期間の成果を求めるとともに、評価を基に次年度以降の取り組みを検討する。	情報企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>	
	中期計画(15)-1				中期計画の達成状況 総務課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 令和6年度より、教職員が参加するWGグループ及びその関係課職員での業務活用のため、AI検索エンジン(Perplexity)の有料ライセンス版を導入した。本ソフトでは、WEB上の最新の情報をベースに、データソースを明記した上での文書生成が可能であり、これを利用することで、効率的な情報検索、精度の高い情報提供をベースとした予算要求調書の作成、文字起こしツールと連携した文書校正等を行うことができ、これらを手作業で行った場合と比べて大幅なコスト削減に繋がった。 また、これまでに導入したデジタル技術についても着実に活用を進めており、RPAでは新規に作成したロボット16件により約423時間の削減効果を見込む他、GoogleworkspaceやMicrosoft officeのパワーエリを活用した125件の改善相談・対応を行った。 人材育成に関しては、主に事務局職員に対して、実際の操作方法等についてハンズオン研修会(3回(57名参加)、プロジェクトの取組や改善事例を紹介・共有する研修会を4回開催し、また一部の研修においては、実際に所属課で改善を行った職員から発表を行う等の工夫により、回数を重ねることによって、DX推進の担い手を増やす取組を行っており、デジタル人材の育成を確保している。 さらに、事務局職員に対してはDXチェックリストによる点検で、個々の基本スキル等の確認を行っており、この結果を元に、今後の研修計画やDX導入支援を進める予定である。	【評価結果】 【令和7年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある」と判断する。特に事務局DX推進プロジェクト及び病院部内RPAの取組について他大学との比較を行い、客観的に優れていると認めると考えます。また、「マイナンバーカードの活用等」について記載する必要があるのではないでしうか。	評価指標に設定がない事項のコメント ●「デジタル技術の活用に適した対象業務の洗い出し」は実施されていると思いますが、具体的な取り組みを記載して下さい。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和6年度		令和7年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況			自己点検・評価結果（全学内部質保証委員会）	実施予定	
	中期計画 (15)-2 情報セキュリティ確保の観点から、セキュリティポリシーの下、引き継ぎ、情報及び情報ネットワークの適正な使用、不正アクセスの防止措置など、情報セキュリティの質の維持・向上に資する研修を行っていく。	15)-2-A 研修会の開催数：第3期（4回）の3倍以上（第4期の合計） 情報企画課	情報セキュリティの質の維持・向上に資する研修	基準値:4回 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(12回以上) (130%:15.6回以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】 情報セキュリティ研修会開催数2回（累計6） 【実施予定】情報セキュリティ研修会を年度内に2回開催する。研修会の内容の選定にあたって、これまでの実績及び世の中の状況を評価することで、情報セキュリティの質の維持・向上を図る。	【実績値】 2 【実施状況・成果】 令和6年7月26日に学生、9月26日に教職員を対象として情報セキュリティ研修会を実施した。また、他に情報セキュリティ研修会e-learningにて学生と教職員に対して実施している。 【自己点検・評価】 ①1 ② ③	【目標値】 情報セキュリティ研修会開催数2回（累計8） 【実施予定】情報セキュリティ研修会を年度内に2回開催する。研修会の内容の選定にあたって、これまでの実績及び世の中の状況を評価することで、情報セキュリティの質の維持・向上を図る。	情報企画課	①評価指標の達成状況 1. 評価指標が目標値を達成している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 3. 該当なし(達成済み) <コメント>
	中期計画 (15)-2				中期計画の達成状況 情報企画課	【法人評価対応】 【令和6年度 中期計画の達成状況】	【達成状況・成果】 令和6年7月26日に学部新1年次生・編入生を対象としてサイバー犯罪等に関する情報セキュリティ研修会を福井県警察本部サイバー犯罪対策課を講師として実施した。後日のビデオ配信と合わせて938名中754名が受講し受講率は78.7%であった。また、令和6年9月26日に教職員対象のサイバー攻撃等に関する情報セキュリティ研修会を福井県警察本部公安課を講師として実施した。後日のビデオ配信と合わせて1367名が受講した。なお、教職員に対しては受講必須の研修会としておらず受講対象者を選定していないため受講率は算出できない。	【評価結果】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	【法人評価対応】 【令和7年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している <コメント> ●志持の研修会にしない理由があるのでしょうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 <コメント> ●「情報セキュリティの質の維持・向上」の状況を何らかの客観的数値が事例でお示し頂くよう検討ください。後、「セキュリティ関係の問題の発生状況が改善している、ということはお示せないでしょうか？」に対して、すでに「情報セキュリティについてその状況を数値等で客観的に示すことはできません。」とご回答いただきましたが、改めてのご検討をお願いします。例えば、過去との比較で「相談件数の変化」、「インシデント件数の増加」、「セキュリティ関連の相談・報告件数の変化(増減がなくても傾向として)」などについて、いかがでしょうか。	評価指標に設定がない事項のコメント

評価指標一覧とその達成状況

令和7年6月現在

中期計画 番号	評価指標 番号	評価指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(1)-1	(1)-1-A	地域イノベーション関与指数	235超（第4期平均）	371	343	364				
				241	248	255	265	271	278	
(1)-1	(1)-2-A	令和5年度までに福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した地域共創拠点（嶺南地域共創センター）を設置	設置	設置	－	－	－	－	－	
				設置	－	－	－	－	－	
(1)-2	(1)-2-B	ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト件数	30件以上（第4期合計）	17件	17件（累計34件）	21件（累計55件）				
				5件	15件（累計20件）	15件（累計35件）	15件（累計50件）	10件（累計60件）	10件（累計70件）	
(1)-2	(1)-2-C	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円超（第4期合計）	6,230千円	13,433千円 （累計19,663千円）	9,699千円 （累計29,362千円）				
				1,500千円	5,000千円 （累計6,500千円）	5,000千円 （累計11,500千円）	3,000千円 （累計14,500千円）	3,000千円 （累計17,500千円）	2,000千円 （累計19,500千円）	
(1)-3	(1)-3-A	地域医療を指導できる総合診療・総合内科医の輩出人数	12名以上（第4期合計）	2名	1名（累計3名）	3名（累計6名）				
				2名	2名（累計4名）	2名（累計6名）	2名（累計8名）	2名（累計10名）	2名（累計12名）	
(1)-3	(1)-3-B	感染症専門医の輩出人数	6名以上（第4期合計）	2名	1名（累計3名）	1名（累計4名）				
				1名	1名（累計2名）	1名（累計3名）	1名（累計4名）	1名（累計5名）	1名（累計6名）	
(1)-3	(1)-3-C	①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数	①1回（毎年度） ②延べ180自治体（第4期合計）	①1回 ③1自治体 ②30自治体が参加	①年度内1回開催 ②31自治体 ②32自治体（延べ63自治体） ②30自治体（延べ60自治体）が参加	①年度内1回開催 ②35自治体（延べ98自治体） ②30自治体（延べ90自治体）が参加	①年度内1回開催 ②30自治体（延べ120自治体）が参加	①年度内1回開催 ②30自治体（延べ150自治体）が参加	①年度内1回開催 ②30自治体（延べ180自治体）が参加	
(1)-4	(1)-4-A	令和9年度までに「未来協働プラットフォームふくい（※）」等での議論に基づくリカレントプログラムを複数実施 ※福井県版地域連携プラットフォーム	2件以上（第4期合計）	3件 －	7件（累計10件） －	4件（累計14件） 1件以上	－	1件以上 （累計2件以上）	1件以上 （累計3件以上）	
(2)-1	(2)-1-A	各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析を実施	実施（毎年度）	実施 実施	実施 実施	実施 実施		実施 実施	実施 実施	
(2)-1	(2)-1-B	就職率	97.2%（第4期平均）	99.1% 97.2%	99.3% 97.2%	99.7% 97.2%		97.2% 97.2%	97.2% 97.2%	◆
(2)-2	(2)-2-A	高等学校における探究活動の支援回数	46回以上（R9年度）	95回 30回	112回 40回	97回 46回	46回	46回以上	46回以上	
(2)-2	(2)-2-B	学内における探究プロジェクトの開催回数	16回以上（R9年度）	14回 12回	17回 14回	17回 16回	16回	16回以上	16回以上	
(2)-3	(2)-3-A	就職率	97.2%（第4期平均）	99.1% 97.2%	99.3% 97.2%	99.7% 97.2%		97.2% 97.2%	97.2% 97.2%	◆
(3)-1	(3)-1-A	令和5年度までに数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を取得	認定取得	認定取得	－	－	－	－	－	
				認定取得	－	－	－	－	－	
(3)-1	(3)-1-B	認定取得した教育プログラム履修者数	200名以上（R9年度）	331名 300名	361名 340名（対象科目の受入定員数）	466名 340名（対象科目の受入定員数）	855名（入学定員数）	855名（入学定員数）	855名（入学定員数）	
(3)-2	(3)-2-A	令和9年度までに課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実装する多職種連携教育を全ての学部（4学部）で構築・実施	全ての学部（4学部）で構築・実施	実施（医学部） 実施（医学部）	実施（医学部） 実施（医学部）	医学部（医科）、工学部、国際地域学部実施 実施（全学部）		実施（全学部） 実施（全学部）	実施（全学部） 実施（全学部）	
(3)-2	(3)-2-B	多職種連携教育科目数	6科目超（第4期合計）	5科目 6科目	5科目 6科目	8科目 7科目以上		7科目以上 7科目以上	7科目以上 7科目以上	
(4)-1	(4)-1-A	工学研究科博士前期課程の教育プログラムについて毎年度モニタリングを行うとともに令和9年度までにレビューを実施	①モニタリング（毎年度） ②レビューの実施	実施 実施 －	実施 実施 －	実施 実施 整備		実施（中間） 整備	実施（最終） 実施（最終）	
(4)-1	(4)-1-B	修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数（工学研究科博士前期課程（改組後））	150名以上（第4期平均）	－ －	207名 （単位取得198名） 150名	210名 （単位修得者201名） 150名		155名 155名	155名 155名	
(4)-1	(4)-1-C	工学研究科博士前期課程修了生の就職率	97.2%（第4期平均）	100% 97.2%	99.7% 97.2%	100% 97.2%	97.2%	97.2% 97.2%	97.2% 97.2%	
(4)-2	(4)-2-A	他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数	38回超（第4期合計）	13回 8回	19回（累計32回） 8回（累計16回）	18回（累計50回） 15回（累計31回）		15回（累計46回） 15回（累計61回）	15回（累計76回） 15回（累計76回）	
(4)-2	(4)-2-B	原子力関連分野への就職者数	52人（第4期合計）	11人 10人	12人（累計23人） 10人（累計20人）	18人（累計41人） 10人（累計30人）		10人（累計40人） 10人（累計50人）	10人（累計60人） 10人（累計60人）	
(5)-1	(5)-1-A	大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合	90%以上（R9年度）	77% 77%以上	91% 88%以上	91% 88%以上		90%以上 88%以上	90%以上 90%以上	

中期計画 番号	評価指標 番号	評価指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(5)-1	(5)-1-B	長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習（能力）評価に参画する立場の異なるステークホルダー数	6名以上（R9年度）	3名	3名	4名				
				3名	3名	4名	5名	6名	6名	
(5)-1	(5)-1-C	「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の観点から、すべての科目（授業科目・研修科目）が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数（連携大学・自治体）	5拠点以上（R9年度末）	3拠点	4拠点	7拠点				
				3拠点	4拠点以上	4拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	
(5)-2	(5)-2-A	令和9年度までに産学官連携本部や地域共創拠点（嶺南地域共創センター）等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み（講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等）を構築し、適宜改善を実施	構築・適宜改善	検討	検討	検討				
				検討	試行	実施	実施	実施	実施	
(5)-2	(5)-2-B	海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数	12件以上（第4期合計）	7件	3件（累計10件）	2件（累計12件）				
				2件	2件（累計4件）	2件（累計6件）	2件（累計8件）	2件（累計10件）	2件（累計12件）	
(6)-1	(6)-1-A	令和9年度までに小学校・中学校9年間を見通し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員を養成するカリキュラムや教育プログラムを整備・実施	整備・実施	検討	検討	設計				
				検討	検討	設計	整備	整備	実装	
(6)-1	(6)-1-B	令和5年度までに特別支援学校2種免許取得プログラムを実装し、令和7年度までに複数免許取得プログラムの実装を完了	①プログラムの実装	基盤整備	実装	—				
				基盤整備	実装	—	検証	—	—	
			②プログラムの実装	—	—	—				
				—	—	検討	設計	整備	実装	
(6)-1	(6)-1-C	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	25%以上（R9年度）	15.2%	15.3%	19.4%				
				15%以上	15%以上	15%以上	20%以上	25%以上	25%以上	
(6)-2	(6)-2-A	令和9年度までに医学・看護学教育の国際認証・分野別認証を取得	認証取得	（医学教育）自己点検評価を実施	医学教育分野別認証を取得	（看護教育）自己点検評価の実施		—	—	
				（医学教育）自己点検評価を実施	医学教育分野別認証を取得	（看護教育）自己点検評価の実施	看護教育分野別認証を取得	—	—	
(6)-2	(6)-2-B	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合	R5年度（医学科）超（R9年度）	—	（医学科）64.2%	（医学科）77.5%				
				—	基準値を設定	64.3%以上	64.3%以上	64.3%以上	64.3%以上	
			R4年度（看護学科）超（R9年度）	（看護学科）92.0%	（看護学科）92.7%	（看護学科）95.9%				
				基準値を設定	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	
(6)-3	(6)-3-A	地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数	R4の数値超（R9年度）	3件	3件	8件				
				基準値を設定	継続を含む3件以上	継続を含む3件以上	継続を含む3件以上	継続を含む3件以上	継続を含む4件以上	
(6)-3	(6)-3-B	地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度（学生のアンケート結果）	R5年度（医学科（地域医療））超（R9年度）	—	（医学科）地域医療/3.90 感染症/3.56	（医学科）地域医療/3.96 感染症/3.77				
			R5年度（医学科（感染症））超（R9年度）	—	基準値を設定	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	
			R4年度（看護学科（地域医療））超（R9年度）	（看護学科）地域医療/4.24 感染症/4.17	（看護学科）地域医療/4.11 感染症/4.11	（看護学科）地域医療/4.31 感染症/4.28				
			R4年度（看護学科（感染症））超（R9年度）	基準値を設定	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	
(7)-1	(7)-1-A	正規留学生数	118名超（R9年度）	106名	103名	106名				
				118名超	118名超	118名超	118名超	118名超	118名超	
(7)-1	(7)-1-B	正規留学生の満足度（正規留学生を対象としたアンケート）	R4年度超（R9年度）	8.89/10点	9.22/10点	9.16/10点				
				基準値を設定	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	
(7)-2	(7)-2-A	令和9年度までにグローバル人材育成研究センターを設置し、国際通用性を高める教育を実施	設置	—	—	—				
				—	—	—	—	—	設置（R9まで）	
(7)-2	(7)-2-B	英語による専門科目数	R4年度超（毎年度）	368	385	403				
				基準値を設定	369以上	369以上	369以上	369以上	369以上	
(7)-2	(7)-2-C	令和4年度までに学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標を構築	①指標の構築	構築	—	—	—	—	—	
				指標を構築	—	—	—	—	—	
		国際通用性を高める教育（海外留学等）の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標	②15%以上向上（第4期平均）	19%	20%	19%				
				15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	
(7)-3	(7)-3-A	海外教員研修留学生及び研修受講生指数	300以上（第4期平均）	305	447	1320				
				200	300	300	300	350	350	
(7)-3	(7)-3-B	令和9年度までに海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業を整備・実施	整備・実施	検証	設計	試行・検証				
				検証	設計	試行・検証	整備	実施	検証	
(7)-3	(7)-3-C	海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価（上方3/5以上）を行った留学生・研修生の割合	60%以上（第4期平均）	56%	56%	60%				
				50%以上	55%以上	60%以上	60%以上	70%以上	80%以上	

中期計画 番号	評価指標 番号	評価指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(8)-1	(8)-1-A	遠赤外線研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数	227件以上（第4期合計）	46件	58件（累計104件）	52件（累計156件）				
				40件	40件（累計80件）	40件（累計120件）	40件（累計160件）	34件（累計194件）	33件（累計227件）	
(8)-2	(8)-2-A	Science Citation Index（SCI）論文数	130件（第4期合計）	21件	24件（累計45件）	25件（累計70件）				
				23件	23件（累計46件）	23件（累計69件）	23件（累計92件）	20件（累計112件）	20件（累計132件）	
(8)-2	(8)-2-B	①試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②同研究分野の連携協定数	①2回以上（毎年度）	①7回	①10回	①16回				
				①年間2回	①年間2回	①年間5回	①年間5回	①年間5回	①年間5回	
			②3件以上（第4期合計）	②0件	②2件	②0件				
				—	—	—	②2件	—	1件（累計3件）	
(8)-3	(8)-3-A	病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数	160件超（第4期合計）	48件	60件（累計108件）	59件（累計167件）				
				30件	30件（累計60件）	30件（累計90件）	30件（累計120件）	30件（累計150件）	11件（累計161件）	
(8)-4	(8)-4-A	地域イノベーション創出指数	176超（第4期平均）	225	240	241				
				185	185	186	189	190	190	
(8)-5	(8)-5-A	当該分野における学術誌への英文論文掲載数	1,756件超（第4期合計）	312件	323件 （累計635件）	348件 （累計983件）				
				300件	300件 （累計600件）	300件 （累計900件）	300件 （累計1,200件）	300件 （累計1,500件）	257件 （累計1,757件）	
(8)-5	(8)-5-B	当該分野における研究成果の具体化件数（特許出願数と特許の権利化件数の合計）	92件超（第4期合計）	16件	12件（累計28件）	12件（累計40件）				
				16件	16件（累計32件）	16件（累計48件）	16件（累計64件）	16件（累計80件）	13件（累計93件）	
			（実績の内、特許出願数）	7件	7件	7件				
			（実績の内、特許の権利化件数）	9件	5件	5件				
(9)-1	(9)-1-A	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数	①-1 100時間以上（前期課程）（毎年度） ①-2 70時間以上（後期課程）（毎年度）	①-1 105～136時間 ①-2 90～105時間	①-1 105～143時間 ①-2 102～125時間	①-1 104～148時間 ①-2 125～183時間				
				①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	
			②150時間以上（毎年度）	②386～388時間	②386～392時間	②384時間				
				②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	
(9)-1	(9)-1-B	教育学部・教職大学院・医療等との連携件数	138件より20%以上増加（第4期合計） （166件以上）	34件	34件（累計68件）	30件（累積98件）				
				30件	30件（累計60件）	30件（累計90件）	30件（累計120件）	30件（累計150件）	30件（累計180件）	
(9)-1	(9)-1-C	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数	18名超（第4期合計）	3名	3名（累計6名）	3名（累計9名）				
				3名	3名（累計6名）	4名（累計10名）	4名（累計14名）	4名（累計18名）	2名（累計20名）	
(10)-1	(10)-1-A	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	①12回以上（毎年度）	22回	27回	23回				
				12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	
			②12回以上（毎年度）	31回	21回	23回				
				12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	
(10)-2	(10)-2-A	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数	30回以上（毎年度）	48回	69回	55回				
				30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	
(10)-2	(10)-2-B	卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数	3回以上（毎年度）	4プログラム	5プログラム	6プログラム				
				3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	
(10)-3	(10)-3-A	臨床研究の新規実施件数	1,205件超（第4期合計）	226件	203件 （累計429件）	239件 （累計668件）				
				180件	185件 累計402件	190件 累計604件	195件 累計804件	200件	205件 累計1,206件	
(10)-3	(10)-3-B	不妊治療施設（新設施設）の治療件数	R4年度超（R9年度）	2,007件	2,413件	2,745件				
				基準値を設定	2,108件	2,208件	2,309件	2,409件	2,509件	
(10)-3	(10)-3-C	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	①50件以上（第4期合計）	78件	82件 （累計160件）	81件 （累計241件）				
				8件	30件 （累計60件）	30件 （累計90件）	30件 （累計120件）	30件 （累計150件）	30件 （累計180件）	
			②40件以上（第4期合計）	69件	62件 （累計131件）	117件 （累計248件）				
				6件	15件 （累計30件）	15件 （累計45件）	15件 （累計60件）	15件 （累計75件）	15件 （累計90件）	
(11)-1	(11)-1-A	教職協働によるプロジェクト件数	10件以上（第4期合計）	継続5、新規2	新規2件 （累計9件）	新規1件 （累計10件）				
				継続5、新規2	新規1件以上 （累計8件以上）	新規1件以上 （累計9件以上）	新規1件以上 （累計10件以上）	（累計10件以上）	（累計10件以上）	
(11)-2	(11)-2-A	組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」を実施	実施（毎年度）	実施	実施	実施				
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	

中期計画 番号	評価指標 番号	評価指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(12)-1	(12)-1-A	共用設備の使用件数	52,639件超（第4期合計）	10,745件	11,179件 （累計21,924件）	10,986 （累計32,910）				
				9,138件	9,138件 （累計18,276件）	9,138件 （累計27,414件）	9,138件 （累計36,552件）	9,138件 （累計45,690件）	9,138件 （累計54,828件）	
			（文京：27,348件） （第4期合計）	5,825件	（文京：6,209件） （累計12,034）	6,941件 （累計18,975件）				
				（文京：4,922件）	（文京：4,922件） （累計9,844件）	（文京：4,922件） （累計14,766件）	（文京：4,922件） （累計19,688件）	（文京：4,922件） （累計24,610件）	（文京：4,922件） （累計29,532件）	
			（松岡：25,291件） （第4期合計）	4,920件	（松岡：4,970件） （累計9,890件）	4,045件 （累計13,935件）				
				（松岡：4,216件）	（松岡：4,216件） （累計12,648件）	（松岡：4,216件） （累計16,864件）	（松岡：4,216件） （累計21,080件）	（松岡：4,216件） （累計25,296件）		
(12)-2	(12)-2-A	エネルギー消費原単位値（原油換算値）の削減割合	0.038323kl/㎡以下 （R9年度）	0.03870kl/㎡	0.03712kl/㎡	0.03624kl/㎡				
				0.04000kl/㎡以下	0.03950kl/㎡以下	0.03900kl/㎡以下	0.03830kl/㎡以下	0.03815kl/㎡以下	0.03800kl/㎡以下	
(13)-1	(13)-1-A	産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】を踏まえた、外部資金の獲得に関する新たな取組	2件以上（第4期合計）	1件	0件 （累計1件）	1件 （累計2件）				
				1件以上	1件以上 （累計2件以上）	－	－	1件以上 （累計3件以上）	－	
(13)-1	(13)-1-B	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円超（第4期合計）	6,230千円	13,433千円 （累計19,663千円）	9,699千円 （累計29,362千円）				
				1,500千円	5,000千円 （累計6,500千円）	5,000千円 （累計11,500千円）	3,000千円 （累計14,500千円）	3,000千円 （累計17,500千円）	2,000千円 （累計19,500千円）	
(14)-1	(14)-1-A	教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を実施・開示	実施・開示（毎年度）	実施・開示	実施・開示	実施・開示				
				実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	
(14)-2	(14)-2-A	connect Ufukuiの登録者数	2,000人以上（R9年度）	903人	1,250人	1,515人				
				500人以上	1,000人以上	1,500人以上	2,000人以上	2,000人以上	2,000人以上	
(14)-2	(14)-2-B	令和9年度までにconnect Ufukui等で配信したニュースに対するステークホルダーの関心度を測定する仕組みを構築	構築	検討を実施	検討を実施	－				
				検討を実施	検討を実施	改修選別	構築	運用・活用	運用・活用	
(14)-2	(14)-2-C	戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等	実施（毎年度又は隔年）	一部未実施	一部未実施	実施				
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	
			① 卒業生との懇談会・ホームカミングデーの実施（毎年度） ・同窓経営者の会総会・例会の実施（毎年度）	未実施	実施	実施				
				実施	実施	実施				
			② 高等学校との懇談会・北陸三県高等学校長との懇談会の実施（毎年度）	実施	未実施	実施				
			③ 産業界との懇談会・トップ懇談会の実施（毎年度）	実施	実施	実施				
			④ 外部有識者・大学改革コンサルタントとの意見交換会の実施（毎年度）	実施	実施	実施				
			⑤ 未来協働プラットフォームふくい部門毎の意見交換会（毎年度）	実施	実施	実施				
			⑥ 在学生との懇談会・学部長等と学生との懇談会の実施（隔年度）	－	一部実施 （教、医、工）	－		－		
			⑦ 福井県内自治体との意見交換会（隔年度）	－	実施	－		－		
			⑧ 報道機関との意見交換会（隔年度）	－	実施	－		－		
(15)-1	(15)-1-A	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	60名（第4期合計）	21名	19名（累計40名）	28名（累計68名）				
				10名	10名（累計20名）	10名（累計30名）	10名（累計40名）	10名（累計50名）	10名（累計60名）	
(15)-1	(15)-1-B	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数	3件以上（第4期合計）	2件	2件（累計4件）	1件（累計5件）				
				1件	1件（累計2件）	1件（累計3件）	1件（累計4件）	1件（累計5件）	1件（累計6件）	
(15)-2	(15)-2-A	研修会の開催数	12回以上（第4期合計）	2回	2回（累計4回）	2回（累計6回）				
				2回	2回（累計4回）	2回（累計6回）	2回（累計8回）	2回（累計10回）	2回（累計12回）	

※  ピンク色の塗りつぶしセルは、当該年度の実績が目標値が未達のもの

※  黄色の塗りつぶしセルは、当該年度の実績が目標値を大幅に上回っており、高い評価を得るために、次年度以降の目標値を上方修正することが望ましいもの

※ 赤字は、数値の修正を行ったもの